



信貴山麓の桃源郷(生物) 高岡 富美子

世界の山旅 刃境の旅

「一人では行けない、でも、行きたい。」
それにお応えするのが
実体験に基づいた
アルパインツアーの旅づくりです。

総合ツアーカタログをご請求ください。

多くの道標が多いたエベレスト街道をたどる
ゴラに斜に2凍浴でゆとりの日程、ボカラにも宿泊
往復ヘリ利用!「世界で最も美しい谷」のひとつへ

| | | |
|--|--|---|
| エベレスト展望トレッキングと シェルパの里 9日間 <small>【発着地】 大阪・名古屋・東京・福岡</small> ●3/10●3/24発……………¥310,000 ●4/7●4/21●5/5発……………¥310,000 | アンナプルナ・ダウラギリ ゆったりトレッキングと ボカラ 12日間 <small>【発着地】 大阪・名古屋・東京・福岡</small> ●3/4●3/18●4/8発……………¥346,000 | ロッジ滞在で楽しむランタン ヘリ・トレッキング 10日間 <small>【発着地】 大阪・名古屋・東京・福岡</small> ●3/10●3/24発……………¥362,000 ●4/7●4/21発……………¥362,000 |
|--|--|---|

現地に精通したツアーリーダー同行の定番コース!
ユーカリの大海とオーストラリア最南端に登頂
個性的な8つの自然保護区を巡る決定版!

| | | |
|---|---|--|
| NZ「アルプス」街道 日帰り満喫ハイキング 8日間 <small>【発着地】 大阪・東京</small> ●3/29●3/11発……………¥448,000 ●4/18発……………¥358,000 | 世界遺産・ブルーマウンテンズと Mt.コジオスコ登頂 7日間 <small>【発着地】 大阪・名古屋・東京</small> ●3/4発……………¥422,000 ●3/25発……………¥448,000 ●4/22発……………¥416,000 | アメリカ西部の大自然 グランドサークル・ハイキング 12日間 <small>【発着地】 大阪・名古屋・東京</small> ●4/16●5/7発……………¥548,000 |
|---|---|--|

少も伝統文化を守り続ける奥村で小さな国へ
世界第3位の高峰を望む静かな山岳
ガンジス源流にガルワールヒマラヤの絶壁を眺める

| | | |
|--|--|--|
| 雷籠の国・ブータン ヒマラヤ・ハイキング 7日間 <small>【発着地】 大阪・名古屋・東京・福岡</small> ●3/31発……………¥452,000 ●4/7●4/21発……………¥428,000 | シッキムヒマラヤ カンチェンジュンガ・トレッキング とタージリン 11日間 <small>【発着地】 大阪・東京</small> ●3/25●4/22発……………¥358,000 | インドのmatterホルン シブリン・トレッキング 11日間 <small>【発着地】 大阪・東京</small> ●4/25発……………¥338,000 |
|--|--|--|

地元で人気のトレイルを現地ガイドの案内で歩く!
ゆったり登山、ウミガメの島、オランウータンの森
台湾五岳の2名山に登頂!

| | | |
|---|--|---|
| スコットランド ウェスト・ハイランド・ウェイト 英国最高峰登頂 9日間 <small>【発着地】 大阪・東京</small> ●5/11発……………¥572,000 | Mt.キナバルゆったり登頂と ボルネオ島ワイルドライフ 8日間 <small>【発着地】 大阪・名古屋・東京</small> ●3/14発……………¥224,000 ●4/3発……………¥222,000 ●4/21●5/27●6/17発……………¥226,000 | 玉山と雪山 台湾の2座登頂 7日間 <small>【発着地】 大阪・名古屋・東京・福岡</small> ●4/15発……………¥252,000 ●4/29発……………¥280,000 |
|---|--|---|

アルパインツアーのホームページをご覧ください。 <http://www.alpine-tour.com>

ALPINE ツアー サービス 株式会社
国土交通省登録旅行業第499号/元日本旅行業協会正会員 ©2011 株式会社
 〒550-0003 大阪市西区京町堀1-4-3 TCF肥後橋ビル2F
 東京/☎03(3503)1911 大阪/☎06(6444)3033
 名古屋/☎052(581)3211 福岡/☎092(715)1557
 札幌/☎011(711)7106 仙台/☎022(265)4511(転送)
 (残りりんゆう観光) 広島/☎082(542)1660(転送)
 e-mail:osaka@alpine-tour.com

山仲間でおオリジナルツアーを企画してみませんか。
 山岳会、ハイキングクラブで企画
 ツアーリーダーも同行し、安心の山旅
 山岳会、ハイキングクラブなどで海外トレッキングやハイ
 キングを企画したい。いつもの山仲間と海外の山歩き
 をしてみたい、というような場合には、アルパインツアーか
 らツアーリーダーが同行し、ご案内をいたします。旅行プ
 ランについては、経験豊富なスタッフにご相談下さい。

出張説明会 山の仲間がお集まりのときに、当社社員が海外トレッキングの slides を上映します



サクラとツツジ (吉野山)

吉野山 桜の国の桜の名所
 山深く 水碧く 修験道の聖地
 役小角が感得し桜の木に刻んだ
 憤怒の形相もおそろしい蔵王権現
 献木された御神木シロヤマザクラ
 尾根から谷を埋め爛漫と咲き誇る
 文禄三年 豪華絢爛な秀吉の花見
 「豊太閤吉野花見図屏風」が残る
 吉野は古来失意の人々の隠れ里
 大海人皇子は一時政界から退き
 義経・護良親王は敵の追求を逃れ
 後醍醐天皇は仮の皇居を定めた
 俗塵をさけて隠棲した西行法師
 芭蕉・宣長・秋成・文晁・藤村
 花を愛で歴史を轟い歩いてみたい

吉野山・千本桜

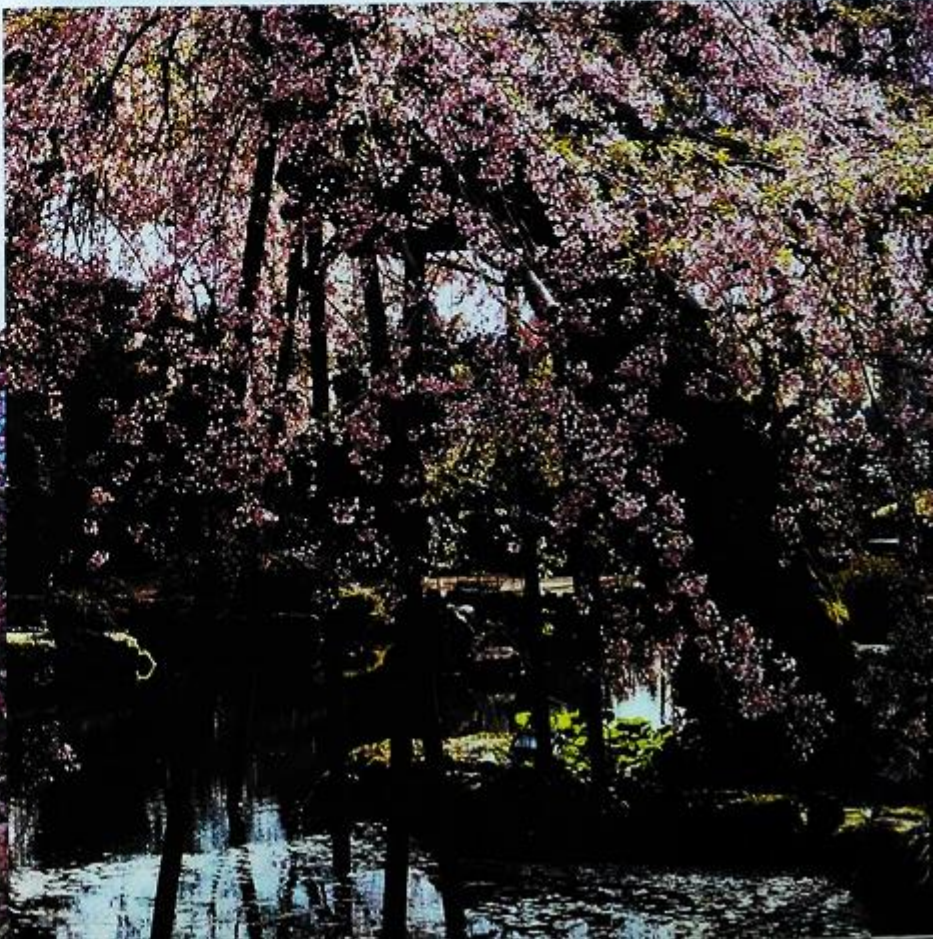


Photo essay

吉野

題字 中田 蘭 石
 撮影 由井 収
 文 松 永 恵 一

しだれ桜 (吉野・竹林院)





水入らず

春、満開

季節の



お花見弁当

実景

春の背割堤 (京都府八幡市)

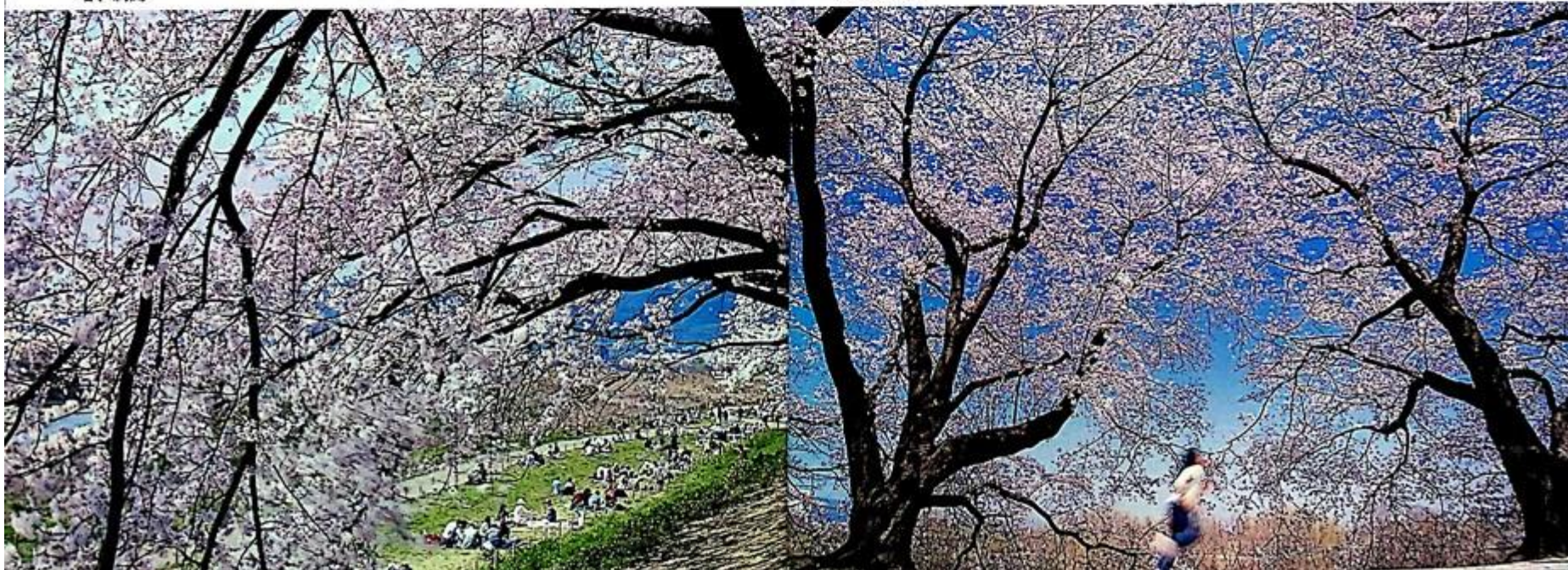
陽春

撮影 武市通治



日差し柔らか

春風切って





水入らず

季節の



お花見弁当

実景

陽春

春の背割堤 (京都府八幡市)

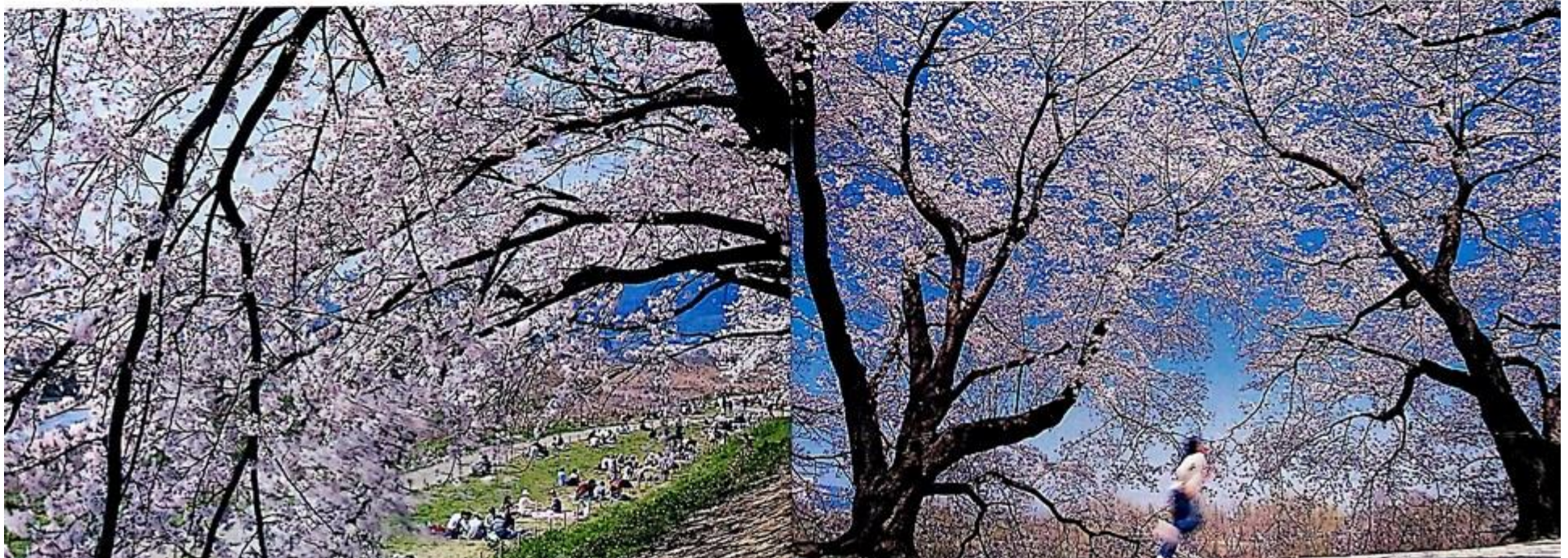
撮影 武市通治



日差し柔らか

春、満開

春風切って





雪稜の輝き（中央アルプス・宝剣岳） 武田 誠司



残雪のブナ林（湖北・三国岳） 中川 光郎

高雄春景（京都北山） 山中 茂

初河山から丸山へ（白山山系） 一芝 義雄



早春の稲村ヶ岳 -大峰北部-

奥田 英一郎



高崎横手道からの尖峰(大日岳)



のびやかなブナの枝先には霧氷



さあっ! 暖かい料理が(山上社)

新刊 別冊 関西の山
07 3・4月 隔春 第93号

●目次

表紙: 松田敏男「比婆山の新緑ブナ林」(中国山地)

●作者プロフィール●1949年、京都市生まれ。京都市立芸術大学卒。1987年より山岳部、山岳部の編集多岐にわたる(京都平安楽園、南アルプス山岳会、東京ギョウリイ、他)山の楽園編集「光る山」刊行(東京新聞出版局)。常務理事と野に親しむ会代表、日本山岳会会員

●グラビア

芳野……撮影 由井 収 文 松永 恵一
季節の実景(陽春)「春の背割堤(八幡市)」: 武市 通治 4 2
高岡富美子 中川光昭 一芝義雄 武田誠司 山中 茂 奥田英一郎
随想(山のエッセイ)
雲山讃歌……
人の裏を行く花の山…… 西尾 守康
バートナーを失って…… 生駒 登峰 13 11 10

●紀行

シヤクシコバの頭西南尾根登高(比婆)
金剛山・ドンファン山・金北山(佐藤)…… 小山 誠次
小堀山(京都西山)…… 木村 太郎 26 20 15
連駈 標高による山の紹介シリーズ 33 △△93 峠の山
北岳・三嶺・青葉山・三岳…… 松田 敏男
慶喜山(香取山)・香取山(香取山)・香取山(香取山)…… 中島 仁志
上仰木から水井山・横高山・延暦寺へ(比婆)…… 山形 久雄
鷹ノ巣山と周辺の山(南紀)…… 山形 久雄
スイスアルプス・ハイキング満喫9日間(スイス)…… 金谷 昭明
連駈 三角点を訪ねて④…… 純 62
稲村ヶ岳から大岩山(丹波)…… 純 62

●エリヤ河微塵研究 京都北山を歩く・ミニガイド(第2回)

①菅子山 ②雲取山 村田 智俊
③ダラノ坂から京見峠・沢ノ池 柴田 昭彦
④廣村八丁 ⑤山村都市交流の森 生駒 登峰
●旗振り通信の新研究③ 岐阜県内ルート 松永 恵一
●文学歴史探訪ハイイク⑤ 安土城に信長の息吹を訪ねて(前編) 西尾 守康
●(山のレポート) 山の地名を歩く④「姥ヶ岳」…… 生駒 登峰
●(山のレポート) 亥年の山…… 生駒 登峰

●コース

沿線ハイキングガイド…… 90 84 82 80
せせらぎ…… 80 84 82 80
新ハイサービステーション…… 80 84 82 80
新ハイ関西山行計画…… 80 84 82 80
新ハイ関西山行報告…… 112 111 101
入会の案内・新入会員紹介…… 112 111 101
編集後記・広告案内…… 112 111 101

●巻頭言

冬の朝は寒い。まだ暗いうちから起き出してザックに一日の登山装備を入れる。雨の予報は全くないのに合羽や傘まで入れる。魔法瓶にはコーヒーを立てて入れる。弁当やお茶・水は途中の駅やコンビニで調達するとしても山頂での昼食は寒いだろうと、インスタントラーメンとガスバーナー・コッヘルまで用意する。起き出して1時間もすれば準備完了。まだ誰も歩いていない薄暗い道を駅に急ぐ。山行きの日の朝の私の行動は大体こんなものである。

山登りだけでなく、海釣り・溪流釣り・ゴルフ・写真・観光・競馬・競輪・競艇……とそれぞれに興味・熱向があって休日の朝は特にせわしない。いつもなら淡々と朝を過ごして仕事場へ行くのに、休日の朝は気分が全く違ふ。さっと支度を整え、目的地に早く着きたいと家を出る。なぜもっとゆっくり、家の中で休日を通こせないのであるか。

休日こそ、非日常に身を置き、自分の好きなことを自由にしたい。日常生活で心をうまくコントロールし、集中力が発揮できるのも、まさにこの休日のお陰である。

新ハイキング関西(代表) 村田 智俊



雪山讃歌

鷺見 守康

新緑まばゆい春山から高山の花が咲き競う夏山を経て、木々が一瞬の輝きを見せる秋山を体験すると、次は真っ白な雪の頂に登ってみたいと思うのは、多くのハイカーの自然な成り行きだろう。

アルプスの雪峰を目指す本格的な冬山は無理としても、スノーシューとストックで登れる山なら、経験者の同行を得て挑戦してみたいと思う。

低山でも肌を刺す強風と氷点下の寒さ、坪足なら腰や胸まで埋まる雪のラッセル、ひとたび吹雪になればホワイトアウトになる。無雪期の山とは比べものにならない厳しさはあるものの、穏やかな晴天に恵まれた時の神々しさは、この世のものとは思えない。

ず、誰もが雪山の魅力にとりつかれてしまう。

2006年の2月下旬、浅間山系の湯ノ丸山に登った。60万株ものレンゲツツジの大群落が天然記念物に指定された湯ノ丸山は、冬季にはスノーシューの絶好のフィールドとなる。

スキー場の駐車場が広がる地蔵峠から湯ノ丸キャンプ場への道を進み、烏帽子岳との分岐点で右折、およそ1時間後に、鐘が吊るされた道標の立つつつじ平に到着した。

すっかりと晴れ上がった空のもと、つつじ平は上にも下にも見晴らしが開け、湯ノ丸山頂への斜面が広がる。地蔵峠からスキー場をまっすぐ登って来た、パーティも多く、なごやかな交歓の場となった。

ここから樹木は消え、斜度は次第にきつくなり、パーティはばらけ、皆思い思いのルートをと

登った。登るにつれ雪は少なくなり、そのぶん滑るようになって歩きにくくなる。

つつじ平から45分で湯ノ丸山頂に到着。風で雪は飛ばされ、頂上は地肌が出ている。

冬晴れの山頂は360度の大パノラマだ。八ヶ岳・富士山、中央アルプス・御嶽・乗鞍・北アルプス・妙高・火打・高妻・戸隠・黒姫、そして縞模様が美しい浅間山を眺めた。寒さを避けて昼食をとり、30分後に出発。稜線を北へ縦走し、角間峠を目指した。

1時間ほど要して角間峠へ。峠から、比較的平坦なコースとなり、旧スキー場のコンコン平に出る。コンコン平からわずかで県道に出合った。

標高2101mの湯ノ丸山は、内陸に位置することから豪雪の山ほどの険しさはないものの、雪山の雰囲気十分な山岳であった。その頂上からの眺めは実に



随想 (山のエッセイ)

絶景で、無雪期には見られない輝きときめきに満ち、頂上に登りつめた人々の表情は、柔和な笑顔に溢れていた。

この湯ノ丸山は「雪山讃歌」発祥の地といわれている。

初代の南極越冬隊長であった西堀栄三郎氏が京都大学山岳部時代、麓の温泉宿「紅葉館」に宿泊して吹雪に閉じ込められた時、退屈しにぎにアメリカ民謡「いとしのクレメンタイン」(西部劇映画「荒野の決闘」の主題歌)の替え歌としてつくったのだという。当時、湯ノ丸山は、冬山の練習場所として多くの岳人から愛されていた。

宿への帰路、「雪山讃歌の碑」に立ち寄り、ついでみた。

「雪よ岩よ、われらが宿り俺たちや街には住めないからに湯ノ丸山の山頂から、そんな歌声が聞こえてくるかのようだった。

人の裏を行く花の山

西尾 寿一

セブナイレブンの経営者、鈴木氏の話でおもしろいのは、氏が商売で気付いた日本人の気質について「画一化と短期志向」が顕著であると言う。

当然のこと、セブナイレブンは、この日本人の特性を利用して成功してきたといえるが、これがなかなか一筋縄ではいかないうち難い面があり、苦労すると言われる。

つまり、画一化では同じ商品が流行すると皆が同じものを求めるが、そのサイクルが短いため、大量に仕入れると売れ残りが出て損をする。反面、大量に仕入れないとせっかくのチャンス逃してしまおうおそれがある。大量に仕入れ、それが全部売れたならば業者は笑いが止まらな

いがそれは極めてまれで、商売というより投機になって事業では邪道となる。

この会社では投機的な判断を避けるため、ジャストイン・タイム制という方式に巨費を投じた。つまり、客の好む商品を素早く察知し、その好みが変わらないうちに店頭に届けることにした。

しかも、その商品が何個くらい売れるのか、天候や事件・政治状況をも計算しながら必要量を算出しているという。それでもロスが出る。

こうした日本人の性格は、どこから始まって、その原因がどこにあるのかという問題も興味深い。それは別の機会として、この特性が登山の世界でどのように発揮され、登山者を無意識のうちに動かしているかについて考えてみる。

従来の登山史というものは、おそらく登山をする現場の歴史



随想 (山のエッセイ)

しかし、その流行もやがて静まり次の流行がやってくる。時流にのりた人はいはればよいが、ガンとして自分の道を行く者がもっと評価されるにちがいない。

表題にあげた「人の裏を行く花の山」はそんな人のためにある言葉である。

パートナーを失って

生駒 肇峰

妻が急死した。前夜までいっしょにテレビを見ていたのだが、翌日寝室の入口で倒れた。朝、妻の寝室のドアが激しく叩かれる。何事かと駆けつけたら、妻がドアの所で倒れていた。「胸が痛い」と言う。私が背中を撫でると、「痛いやめて」の一言で、意識が無くなった。すぐ救急車で病院に走ったが意識は戻らず、そのままあの世

に旅立ってしまった。半月ほど前から体調がすぐれず病院で検査を繰り返していた。しかし原因不明で、当日も違う検査の結果を聞きに行く予定であった。

思い返せば10年ほど前に子宮癌を患い、数年は転移、転移で手術を繰り返していた。何とかおさまって今年で5年。5年が過ぎれば再発しないと言われていたのだから、もう安心だと思っていた矢先のことである。5年を目前にして力尽きてしまったのである。

死因は癌ではないのだが、手術を何回も繰り返していると、血栓が出来やすくなり、肺の上部分で血液の循環が止まり、死に至ったとのことで、肺血栓は見つけ難い、との話であった。

山では私より元気で、年長の私の保護者のつもりでもあった。長らく入院でもしていれば、いくらか心の準備も出来ていたかも知れないが、もう癌のほうは完治の状態で、何不便なく生活していたので戸惑いはかくせない。

毎年夏は涼しい北海道の山で過ごすのが恒例で、今年もその準備を進めていた。

今年は長く愛用していたキャンプングカーが、排ガス規制で乗れなくなり、新しい車を購入したばかり。初めての使用で楽しい旅を夢見て、いろいろな装備を積み込んだり、1年ぶりに会える山友達のこと、楽しみにしていた。

しかし何もかも消え去ってしまいました。長らく生活を共にしてきた伴侶とも、いつかは別なければならない人生の掟は承知はしていたが、妻が先とは予想もしていなかった。

納骨が済んでひと息つくくと、今度は法律上の手続きが待っていて、終了するのに3ヶ月が経過してゆき、悲しんでいる暇も

なのであって、登山者自身の歴史ではなかったようである。山に対するクライミングの歴史であつても、登山者の社会での動向には一切関与しない面があつたのである。

先の例でいくと、登山にも流行があつたことがわかってくる。その流行はもちろんクライミングと密接に関係する部分が多いが、全く別の方向性をもつ社会から強い影響を受けている場合もある。

明治期に西欧から来た登山は明らかに従前からあつた民俗的な習俗に根をもつ求道の登山とは違つたものだった。文明開化によって西洋化されたぶんだけ登山も西欧化が進んでいき、ついには今日のような登山が生まれたと言えるが、そのことも時の流行であつた。

本場のアルプスに似せて日本アルプスの名が生まれ、各地方に同類ができたのも流行だとす

ると、登山スタイルも当然のことながら西欧のものを追うことになる。

世界中の目がヒマラヤに向けられ、初登競争が演じられたのも時の流行にすぎない、と言つてしまえば実も蓋もないが、明らかに最新のものを追い、旧くなれば捨て去ることを繰り返してきたのであつた。特に大衆登山というものがそうした流行の真の当事者となつた。

「カメラ業界を支えているのはプロではなく大衆であり、カメラ会社が資金調達できた」と聞いたことがあるが、登山用品を売る店も同様であつた。小生も覚えがあるが、駆け出しの頃、口車にのせられて売れ残り品を買わされたものだ。ナーゲルの靴はその代表格であつた。用具は登山山によって変えることを知らず、用具のほうが先行していた恥ずかしい時代もあつた。しかしながら、そんな大衆の輻

牲によって業界が生かされ、最先端がさらに発展していくのもやむを得ないことでもある。

古理となつた現在ではめつたに用具を買わないが、最先端の用具や新素材の衣料に集中投資するようになった。これは身の安全のための保険でもあり、加齢の身体能力劣化を補う目的でもある。

用具などより、最も切実なのが登山スタイルの流行である。あれだけ全盛だった合宿が姿を消し、今や「山を楽しむ」派が全盛で、山は場所を提供しているにすぎない。彼等は山中での飲食を楽しむ騒ぐだけで、登山本来の目的からはずれてしまつているようだ。山で寝てみないと山の自然はわからないが、彼等は立派な四輪駆動車でやって来て思い切り騒ぎ、夕暮れには帰つてゆく。百名山も流行の最たるもので、これ以外は山でないとい信じる人まで現れてくる。



随想 (山のエッセイ)

なかった。
妻はキリスト教徒で、生前の希望もあり、遺骨は教会の墓地に納めた。
元々私は、自分の死後は山に遺灰を撒いて欲しいと、妻に希望していたが、本末転倒してしまい、私が先に妻の遺灰を撒くことになった。
山の仲間が美ヶ原高原の武石峰を選んでくれた。私も登っている1等三角点のある展望の良い山で、妻が眠るのに何の不足もない。
夏のある日の夕刻、山上の駐車場に数台の車が集まる。みんな妻と共に山に登った仲間である。
キリスト教では死亡するということは、神に召されて新しく復活すると考え、祝福するということで、祝杯を上げてくれた。
翌朝は雲一つ無い青空が広がり全員で山頂に立つ。武石峰はお花畑が広がる高原の山で、北

アルプスの全景が広がる。乗鞍岳・穂高岳・槍ヶ岳、遠くは御嶽山まで望まれた。
私のこだわる1等三角点も設置されていて、私も大好きな山の一つである。お花畑に妻の遺灰を撒く。妻よ安らかに眠れ、そのうち私もここに眠るつもりだから。
伴侶の死は残る者にとって大打撃である。日常生活はもちろん、これから先の生きかたまで変わってしまう。
私の場合、生き甲斐である山まで変化を求められてしまう。
新ハイ誌が送られてくると、一番に私の寄稿文を読み、いろいろ批評してくれた妻。上手く書けていると褒められたり、ここは拙いと批判してくれるのは妻だけで、大いに参考になっていた。今後、何も聞くことができな

言われている。私自身も体力の衰えは感じているので、無理な登山は控えるようにしているが、好きな山を止めるわけにはいかない。いつでも自由に来てくれる同行者がどうして必要で、妻がいつもその役をしてくれていた。私は日常生活と同時に、山のパートナーまで失ってしまった。
妻が死んで半年が過ぎ、私もそろそろ立ち直らねばならない。山はまだ忘れられない。まずは山仲間にも助けられてでも山に登り、悲しみから立ち上がろうと思う。

明王谷林道より古道を経て

シヤクシコバの頭西南尾根登高

比良

小山 誠次

以前、中峠からシヤクシコバの頭に登り、小川新道をくだったとき、右手を眺めていると、シヤクシコバの頭からなかなか尾根が西南に続いていて、その風景が脳裡の片隅に残っていた。

たまたま5月3日に、受験勉強の気分転換を図ってやろうと、息子を比良山に連れて行った。坊村で京都バスを下車し、明王院の境内を通って武奈ヶ岳を目指した。御殿山で休憩していると、口ノ深谷を挟んで目前にシヤクシコバの頭とそれから続く尾根が目に入った(写真1)。そのとき、脳裡の片隅に眠っていた記憶が鮮明に甦り、この連休中に表題の山行をぜひ実現したいと思ひ、帰宅後に急ぎ

下調べをした。

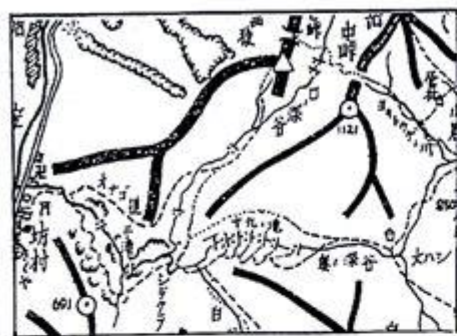
その結果、平成18年5月6日、いよいよ実行に移すことになった。前日の滋賀県の降水確率予報では、北部・南部共に午前・午後を通して0%だったが、本朝には午前0%、午後10%と少し悪化している。京都府は北部・南部共、午前0%、午後10%だった。しかも、夜遅くになってから大雨が降り出し、明7日は確実に雨とのことなので、本日が連休最後のチャンスである。

7時45分出町構発の京都バスは、すでに前回報告した通りに復旧工事が進み、仮設橋が敷設されているようで、朽木学校行きのみマイクロバスと坊村行きの大

(写真1) 御殿山から望むシヤクシコバの頭



バスが同時運行されている。このバスの配車でちょうど満席となった。
全天が層積雲で覆われ、雲間から青天が見えるかと思えば、太陽の位置がわからないくらい雲層の厚い部分もある。願わくば、夕方以降の雨でありますようにと祈る。外気温は大原でも摂氏17度なので、1ヶ月前の前回報告時より10度も上昇している。



(図1) 「比良登山図」から一部抜粋

坊村2・30」であり、もう一つは「明王谷林道を経て坊村約1時間30分」と反対側の「大モミを経て大橋小屋約1時間30分」である。

明王谷林道を経る道は筆者が今たどって来た道であるが、牛小場約20分は、いたいところからこのようにして行くのか、大いに気になる。ここからは急な下りの斜面を標高差約200m下降することになるのだが……。

一方、口ノ深谷に向かう道と大橋小屋

に到る道は、角倉太郎著「比良登山図」(昭和17年「比良展望」付録)(図1)にも掲載されている道である。実はこれで三本目の口ノ深谷に向かうトラバース道となるので、先の二つの内のどちらかが「比良登山図」にいう口ノ深谷への道かと考えていた。しかし、大橋小屋に到る道については、ここまで注意深く観察してきたが、それらしき道は見当たらなかった。いささか不審を抱いていた。この道標の案内を見て、改めて「比良登山図」の正確さを思い知った次第である。確かに大橋方面に向かう道が尾根の山腹をトラバースするように設けられている。

この道標は「昭和59年度保健保安林施設整備事業 遊覧県志賀町」と読めるもので、22年前の道標がまだあまり痛んでいないのは、通行する人がはるかに少ないためであろうか。また、この道標通り、筆者が今たどって来た道が、元々歴然とした古道であったことが十分納得できた。

しかしながら、筆者が今から目指すシャクシコバの頭西南尾根は、二つの山腹に沿うトラバース道に挟まれた、いわば三角形の頂点から目前の一部岩肌露出し

ている急斜面を登高しなければならぬのである。もちろん、ここからは全く踏み跡は無い。ここからの数10分は本コースで最も峻険な登高となった。急斜面に生える木々が無ければ、体勢を確保するのは非常に困難だったであろう。ここでは足よりも手のほうが主役である。いかにして現在把持している木から、次の上方の木に移動するかがキーポイントだった。

標高730m、ようやくひと息つけた所で休憩。やっと主役が足に戻った。周囲への展望はまだあまりきかないが、時々垣間見える摺鉢山(1006m)を参考に現在の標高を概算するが、まだまだ先は長そうだ。

10時40分、標高800mに達した所でやっと緩傾斜となり、尾根の向きが少し右寄りになっていく。そのまま頂上を進行すると、堂々とした枯れた大木に出会った。5分間休憩とする。見とれていると、頭上でブッポウソウがあの独特な声で鳴いているではないか。カメラで追うも、枝が邪魔になってなかなか姿が捉えられない。

11時21分、標高1030mに達した。

8時46分坊村着。準備を整えて同51分に明王谷林道に沿って出発した。途中、ほとんど花期の終わったヤマザクラ、今が最盛のコバノミツバツツジ・ケケマン・タチツボスミレなどに季節の推移を感じながら、9時24分に伊藤新道出合を通過した。間もなく白倉橋を渡り、ここで明王谷を右岸に渡ったことになる。

左手上方にはシラクラの壁が近寄りたたい威圧感を漂わせている。前方を見ると道標が立ち、左手に口ノ深谷が合流し



(写真2) 明王谷林道右岸に立つ道標

ていることを表示している(写真2)。足元には、「口ノ深谷を経て武奈へ。400m山道を経て谷歩き(要注意)」との標識も落ちていた。ここが本日の取付点である。標高430m。明王谷林道はこの後、中の渡橋で再び明王谷左岸に戻り、魚の渡橋を経て牛コバに到る。

9時33分、道標の裏手の踏み跡をたどる。急坂を1分間登ったところ、ひっそりと一軒の小屋が立っている。近づいて見ると、シラクラヒュツユと命名され、京都紅嶺会が建てたとのことである。

さらにそこから5分間登ると、今度は目下のところ使われていない熊捕獲檻を発見した。どうもこの踏み跡をたどると、いろいろと予期せぬ物に遭遇することが多いようだ。

さらに踏み跡を登ると、口ノ深谷への道を示す標識が落ちており、その13分後には、赤テープのマーキングで再び口ノ深谷への道を示す標識があった。ここで標高580mである。左手を見ると、すでにシラクラの壁を越えることがわかる。6分間飲水休憩とした。

出発して5分後、標高640mで登高後三つ目のピークに達した。踏み跡はずっ

と尾根上に続いているが、時には明らかに山道と表現してもいいくらいのしつかりしたものである。シャクシコバの頭西南尾根は、ここまでピークと鞍部の繰り返しが特徴の山容のようだ。

さて、三つ目のピークを出発して2分後、鞍部の山道上に少し古い道標が出現した(写真3)。これは本コースで最も驚いた遭遇である。四方向の標示の内、一つは「牛小場約20分」と反対側の「口ノ深谷、御殿岩を経て中峠約2時間40分。



(写真3) 昭和59年設置の道標

ここで支尾根が合流している。合流点は一見支尾根のほうが主線のように、コンパス無しで尾根を逆行していれば、支尾根の方に下降してしまえそうだ。ここからはようやく周囲の山々が木々の枝越し



シャクシコバの頭西南尾根付近略図

によく眺められるようになってきた。堂々とした頂上近くのガレもよくわかる。これからは森林帯のやせ尾根が続き、いくつかのコブを越えて行くことになる。右手には小川新道の通る尾根も同定できる。また、右手後方には最も手前に標録山と鳥谷山、さらに本誌72号で報告した比良山北東尾根もはっきり同定できる。そのうえ、本誌79号で報告した比良山と同西方ピーク、最も遠方には打見山と蓬萊山の山上の人工構築物も確認できる。

11時58分、写真1のシャクシコバの頭の右手のコブに達した。耳を澄ませば、御殿山方面から人の話し声が微かに聴きとれる。「オーイ！」と叫んでみたが、残念ながら返事はなかった。たった500〜600mの距離なのに。

そしてついに、12時9分、標高1121mのシャクシコバの頭に到達した。ここは中峠から小川新道上の最も標高の高い通過点というだけの場所である。何気なく小川新道を南向きに歩を進めていた

た1人の若者に出会った。聞けば坊村まで行くと言う。奥の深谷に架かる木製の橋が流されたままなので、徒渉しないと行けないことを伝えておく。14時34分、縦走路に出会い、1分後には南北比良峠に到着した。

先着の団体が休憩しているなか、天候は不安なので、「お先に！」と声をかけ、少し振りに深谷道を下降することに。何とか深谷小屋まで天候がもってくれば、と願いながら荒れ道を急ぐ。何ヶ所かの崩壊箇所は迂回路が親切に設けられ、そのうえ赤テープのマーキングが充実して、よく目立つので間違えようがない。

最初の虎ロープの設置から、さて何本のロープを経たか、なかには真新しい虎ロープもあるので、管理が行き届いている証拠であろう。もしこの下降路で手袋を持参していなかったら……と考えるだけで恐ろしい。丸山谷を確認してロープによる下降路は終了した。

南北比良峠から38分後、深谷小屋に到着した。小屋の入口は開いたままで、中は真っ暗なうえに水浸し。入口前の清水を少し飲んで咽を潤した後、なおも先を急

ぐ。ここからは四ツ子川を右岸から左岸へと何回も渡り返す道が続く。葉山椒を採取に来ていた地元の小母さん4人組を追い越したとき、籠の中のサンショールの香気が心地好かった。

深谷小屋から20分後、やっとコンクリート道に到達した。が、すぐの所で「通行止」の看板が立っている。こんな所で通行を止められても困ってしまうが……。その理由はすぐわかった。新しい堰堤が施工中なので、鉄パイプで組み立てられた仮設の道を通ることになっただけである。後はミヤマガマズミ・ヤマツツジ・ニガイチゴ・カキドオシ・ムラサキケマン・シヤガの花を楽しみながら、JR比良駅まで一直線。1時間弱の行程だったが無事雨にも降られず、16時20分着。しかも幸いなことに、16時22分発の京都行き普通電車が2分遅れて来たので、余裕をもって乗車できた。これぞ、ハッピーエント！

本日のシャクシコバの頭西南尾根登高は、取付点は独自に判断したにもかかわらず、「比良登山図」にいう口ノ深谷と大橋への古道をたどるものであった。ただし、昭和59年設置の道標以後は全く道

なら、シャクシコバの頭という標示もわからないだろう。ここで標示の樹木にもたれて約1時間の昼食タイムを楽しんだ。食事中、二組のグループが南にくだって行ったが、なかには小学生も登山を楽しんでいるようだ。

13時5分、筆者も小川新道を南にたどる。歩き出して間もなく、写真1とは左右対称のなだらかなシャクシコバの頭西南尾根を右手に眺めながらなおもくだる。30分後、オニギリ岩のそばを通過した。筆者ならば、ボタモチ岩と命名したいくらいである。その3分後、月見岩に達した。一度本当に月見をしたものだ。

ここからは滑りやすい道を転倒しないように、慎重に歩を進めた。奥の深谷道に6日ぶりに出合っ7分後、大橋を渡り、スリパチの水をありがたく頂戴した。空いたベットのボトルにもたっぷり補充する。

ふと空を見上げると、全天がどんよりと高層雲に覆われているではないか。太陽が見えないくらい雲層なので、夜遅くからの降雨が早まる可能性はある。14時9分、南北比良峠に向けて急ぐこととする。途中、マウンテンバイクに乗っ

の無いコースで、特に最初の数10分は険路と言ってもいいだろう。また、帰路の深谷道は荒れてはいるが、マーキングが充実しているので間違えようがなく、通常の山道に飽きてきた人ならば、十分満足のものと思われる。

(平成18年5月6日歩く)

Aコースタイム▼

坊村バス停(33分) 伊藤新道出合(5分) 道標の立つ取付点(1分) シラクラヒュウツェ(5分) 熊捕獲檻(13分) 二つ目の口ノ深谷への道分岐点(5分) 三つ目のピーク(2分) 昭和59年の道標(15分) 標高730m(12分) 標高800m(16分) 枯れた大木(16分) 支尾根合流点(27分) 写真1の右手のコブ(7分) シャクシコバの頭(30分) オニギリ岩(3分) 月見岩(12分) 奥の深谷谷道出合(7分) 大橋・スリパチの水(25分) 縦走路出合(1分) 南北比良峠(38分) 深谷小屋(20分) コンクリート道(47分) JR比良駅(△地図・地形図) 昭文社「比良山系」 角倉太郎「比良登山図」 2万5千「比良山」

新ハイ例会 自然観察山行

おおさど 大佐渡山脈

金剛山・ドンデン山・金北山

佐渡

鷲見守康

佐渡の山は花の山である。佐渡の背骨をなす大佐渡山脈の金剛山・ドンデン山・金北山は、花の香りに酔うすばらしい山旅となる。全山縦走もいし、各々の山を麓から登るのもいい。

ただ、花との出会いを目的とするなら、花期に合わせて予定を組むことが大切だ。新ハイ例会では、2004年から3年間、時期を変えて歩いてみた。

ドンデン山から金北山縦走

佐渡島へは、新ハイ例会山行で2004年の春に初めて渡った。春爛漫の5月中旬である。

佐渡の山を目指す人の多くがそうであ

ではない。雪があるから花が無い、ということである。

再建されたドンデン山荘まで宿のバスで行き、山荘から出発。新ドンデン山荘は清潔感いっぱい、金剛山からドンデン山、さらに金北山への縦走の際には、

るように、私たちが大佐渡山脈縦走を目的とした。大佐渡山脈は、北の金剛山からドンデン山を越え、南の金北山、さらに妙見山に連なる。1日での縦走は時間的にも体力的にも難しいので、まず人気のドンデン山から金北山のコースを歩くことにした。

夜行発で佐渡の両津港に朝早く到着し、その日のうちに縦走を終え、翌日は午前中に佐渡を引き揚げるという行程である。強行軍だし、遠い佐渡へ来たのにもったいない日程ではある。5月上旬のゴールデンウィークに計画すればいいようなものだが、結果として、中旬の選択が正解であった。

1泊の中継地点として最良だろう。

山荘から15分も登れば霧立山である。

霧立山は、ハクサンシャクナゲ・レンゲツツジなどのツツジ科の低木がぎっしりと生えている。佐渡の花は天下一品の密度の濃さが自慢だが、ここのツツジ科の低木もさかりで、木々の高さも揃い、庭

国民宿舎から大佐渡山脈



次の2005年も、さらに2006年もゴールデンウィークに計画はしたものの、大佐渡山脈の稜線には雪が残り、縦走は断念した。

両年とも積雪が多かったという事情があったのかもしれない。しかし、地元関係者の話でも、例年、ゴールデンウィークには稜線の雪はまだ消えていないそうである。しかし、縦走ができないわけ

園のように管理された景観である。

霧立山からドンデン山を登り、ドンデンキャンプ場に廻ってアオネバ十字路に出た。ドンデン山は、正式には「尻立山」と呼ぶようだ。

アオネバ十字路からマトネ、小股沢の科尔、天狗の休み場、イモリの頭、そして役の行者を経て金北山へ。金北山から防衛庁管理道路(事前届出が必要)を歩き、休憩所のある白雲台からバスに乗った。花は、まさにシラネアオイの最盛期であった。その数たるや、かつてどの山でも出会ったことのないもので、防衛庁管理道路にも雑草のように咲き続いており、縦走の終わりには、誰も見向きもしなくなっただけだ。

そしてカククリ。金北山へ近づくにつれ、踏みつぶして歩かざるを得ないほどの数となり、灌木の斜面の林床にも、麓まで届くかと思われるほど咲き続けている。あまりの多さに気分も変調をきたし、これが「花酔い」というものかと思った。

マトネ付近ではエチゴキジムシロの群生にも目を見張った。けれど、佐渡いち押しのおオミスマスソウ、あるいはキクザ



大佐渡山脈
金剛山・ドンデン山・金北山付近略図

キイチゲは、ほとんど咲き終わっていた。

翌日、雨のなか、アオネバ溪谷を下部分から少し散策してみたが、花はほとんど終わり、葉の緑が波状に縮れたノビネチドリの花がポツンと咲いているだけで、何とも寂しいかぎりであった。

こうした花の風景とは別に、縦走の稜線上で不思議な光景に出会った。それは高山などで見かける数箇所の砂礫斜面であった。あたかも北アルプスを歩いているかのような雰囲気なのである。妙見山では階状土のような光景にも出会った。

研究者によれば、大佐渡山脈を吹き越す冬の猛烈な季節風が日本アルプスの稜線にも匹敵するような厳しい環境をつくり、夏には高山や亜高山性の植物も見ることができるといふ。だとすれば、高山地形があったとしても不思議ではないのかもしれない。

(2004年5月15日歩く)

▲参考タイム▼

両津港7・10(宿送迎バス)ドンドン山荘8・00〜05(霧立山8・20ドンドン山8・35ドンドンキャンパ場アオネバ十字路9・55〜10・15マトネ10・45



アオネバ溪谷のオオミズウを走らせ、途中から分岐して沢口道への林道に入る。林道を進んで初盛ダムを越えると、やがて登山口である。初盛ダムから見える金北山はなかなかの雄姿で

花が勢揃いしたかのような華やかさ、アオネバ溪谷は花の種類の多様さがすばらしかった。(2006年5月5日歩く)

▲参考タイム▼

宿7・05(バス)ドンドン山荘8・10ドンドン山8・20ドンドン山荘8・35アオネバ溪谷十字路アオネバ登山口10・00〜05(バス)新穂湯上温泉10・30(入浴)11・05(バス)両津港11・25

金北山

金北山には、2004年にドンドン山から縦走したが、2005年と2006年には麓から直接登った。ルートはいくつもあがるが、姫ヶ沢を歩く沢口道が一番楽しいコースのようである。

小股沢のゴル11・55(昼食)12・30―天狗の休み場13・35―イモリの頭13・50―役の行者14・15―金北山14・55―15・05―白雲台16・05―15(送迎バス)ドンドン山荘16・30(泊)

ドンドン山

金剛山から金北山への縦走を目的に、2005年のゴルデンウィークの前半期に佐渡に入ったが、この年は3月にドカ雪が降って稜線に残雪が多く、縦走を断念した。

雪が遅くまで残ったため、そのぶん、花の「春」が凝縮され、花たちが一斉に咲き始めた。「花のドンドン山と呼ばれ、近年でも珍しくたくさん種類の花が見られるから、ドンドン山荘から車道までみるだけでも楽しい。」という宿のオーナーの助言にしたがい、縦走断念の代替えとして、1日目はドンドン山で遊ぶことにした。

往路はアオネバ溪谷を登り、復路は車道の佐渡縦貫線をアオネバ溪谷入口までくだった。アオネバ溪谷の上半部は残雪が多くてまだ冬枯れの状態であり、アオネバ十字路からは1段を超える雪が残っ

ある。

登山口から一歩踏み込むと、そこはすでに花の園であった。姫ヶ沢は花に彩られた、清流の雰囲気の良い沢である。緑の清水で安養寺登山道と合流して左折するが、そこからまもなく、圧倒的な数のカタクリとキクザキイチゲが延々と続き、繰り返し、驚嘆と感動の歓声が上がる。佐渡の花群落の規模はかなり広大で、行けども行けども咲き続けている。

佐渡のカタクリは花弁が大きく、葉に斑が見られないことから、独特な印象がある。キクザキイチゲは、純白のものから淡青色、濃青色、紫色と色とりどりの清麗さである。

ゴルデンウィーク中であれば、じゅんさい池付近から残雪が現れるが、本コースのハイライトはここからである。

一つは、二ノ鳥居あたりに群生する純白のカタクリである。半端な株数ではない。もう一つは、ブナ林の縁野地帯をいったん抜けて展望台の神子岩を通過し、天狗岩あたりから現れるオオミズウの群生である。鈴鹿山地などで出会うオオミズウ(あるいはスマック)と比べれば、明らかに大きな花弁で、株ごと実に見

ていたが、確かに、花期の異なる花たちが揃い踏みをして咲いていた。

溪谷の下部ではフクジュソウを見たし、車道においても灌木帯の林床にカタクリ・キクザキイチゲ・オオミズウなどが咲き乱れていた。

(2005年4月29日歩く)

▲参考タイム▼

両津港7・10(バス)アオネバ溪谷入口8・00―十字路9・50ドンドン山荘10・35(休憩)11・15ドンドン山11・35ドンドン山荘12・35(昼食)13・00―車道アオネバ溪谷入口15・00(バス)民宿16・00(泊)

翌2006年には、山行最終日にドンドン山荘からドンドン山を往復、ドンドン山から車道を歩き、アオネバ十字路から溪谷をくだった。

稜線ではアマナの群生を見た。アオネバ溪谷はすでに残雪も消え、花の谷として名を馳せる溪谷の真骨頂を目の当たりにした。

エゾエンゴサク・シラネアオイ・カタクリ・キクザキイチゲ・オオミズウ・ニリンソウ・ナニワズなど、佐渡の春の

事な色変化を見せ、夢の世界にいざなうかのごとくである。

このオオミズウの群生地を超えるると再び残雪が広がり、もうひと息で金北山頂だ。2005年は、山頂から白雲台へ。ほとんど花は見られない退屈な林道歩きだった。

(2005年4月30日歩く)

▲参考タイム▼

宿7・15(送迎バス)沢口道入口7・30―沢口登山口8・05―姫ヶ沢―縦池の清水―追分9・15―じゅんさい池9・30―40―二ノ鳥居9・55―神子岩10・25―35―天狗岩10・50―金北山12・00(昼食)13・00―二の岳避難小屋13・40―妙見山14・05―白雲台14・15―15・00(バス)宿15・45(泊)

2006年は、金北山頂から再び神子岩へくだり、神子岩から追分の石仏道コースをくだった。追分に至る斜面には、カタクリ・キクザキイチゲ・オオミズウが咲き誇っていた。その光景はいかにも絵になる美しさであった。

湿原には、ミズバショウとゼンソウとが混生し、点々と立つ石仏を眺めなが

2007年度カタログ受付中 2月下旬発送開始!

見ごたえたっぷり国内・海外の山旅と自然観察の旅、計500コース以上を掲載した総合カタログ。ハイキングから海外の高峰登頂ツアーまで幅広い商品を描いています。見るだけで楽しいオールカラーで152ページのボリュームです。そして、これから登山やハイキングを始める方、初心者の方のための、山歩き教室カタログもあります。無料でお届けしますのでお気軽にご請求ください。



総合カタログ



山歩き教室

お電話
おはがき
FAX・HP
にて!

**送料・本体無料
ご請求ください!**

アミューズトラベル(株)は山旅専門の旅行会社としておかげさまで、15周年を迎えました。東京を本社に札幌・仙台・名古屋・大阪・広島・福岡・沖縄に営業所を持ち、皆様のサポートさせていただきます。大阪支店には高山病対策として低酸素室を設置し、日本山岳ガイド協会のガイド資格者3名が社員として常時勤務しております。安全、安心を第一にツアーを運営していますので是非一度カタログをご請求下さい。

大好きな山の中で働いてみませんか! 山岳添乗員・山岳ガイド募集

ご興味のある方は下記までご連絡ください。

アミューズトラベル株式会社 国土交通大臣登録旅行業第1366号
日本旅行業協会正会員 ボンド保証会員
〒530-0001 大阪市北区梅田1-11-4 大阪駅前第4ビル7階
ホームページ <http://www.amuse-travel.co.jp>
E-mail: amtsa@amuse-travel.co.jp
06-6456-3366 FAX 06-6456-3377

ら、やがて兵庫に着いて林道に出て、沢口道登山口に戻った。
佐渡の花には一つ臍に落ちないことがある。なぜなのか、イワウチワが見られないのだ。日本海側の花の多い山岳にはほとんど見られるにもかかわらず、佐渡の山には見られなかった。
佐渡は日本海側とはいえ、沖を流れる対馬暖流のため冬は比較的暖かい。そうした気候の影響があるのかもしれない。



金剛山山頂にて

金剛山
2006年、白瀬登山口から金剛山を往復した。金剛山へはさらに北の和木登山口からのコースもあるが、アプローチに使う森林基幹道石名・和木線が残雪のため通行止めであった。
白瀬登山口まで送迎マイクロバスで強引に進入。登山口付近はマイカーが数台駐車できるスペースしかなく、バスが回転できるか心配したが、地元の運転手はやはり違う。心配いらない、と笑顔で私たちの出発を見送ってくれた。
麓にはニリンソウが多く、ヒトリシズカやエンレイソウも咲く。高度を上げていくとカタクリ・キクザキイチゲ・オオ

▲参考タイム▼
(2006年5月4日歩く)
宿7・30(バス) 姫ヶ沢登山口8・25
30 | 縦池清水8・55 | 9・05 | ヒュンさい池9・55 | 10・00 | ニノ鳥居10・15 | 25 | 神子岩10・40 | 50 | 天狗岩11・05 | 金北山12・00(昼食) 12・45 | 天狗岩13・15 | 神子岩13・30 | 追分14・00 | 沢口登山口14・35 | 50 | 林道 | 姫ヶ沢登山口15・30 | 16・00(バス・買物) 宿17・00(宿)

▲参考タイム▼
(2006年5月3日歩く)
(バス) 佐渡汽船新潟ターミナル4・30(朝食) 6・10(船) 両津港7・10 | 20(送迎バス) 白瀬登山口8・10 | 20 | タン平水路8・50 | 9・00 | 組上10・35 | 45 | 金剛山11・50(昼食) 12・35 | 組上13・20 | 30 | タン平水路14・15 | 白瀬登山口14・35(バス・買物) 宿16・10(宿)

▲地形図▼
2万5千=小田・両津北部・金北山
ミスミソウと目を楽しませてくれる。残雪期の金剛山は、山頂手前からルートが不鮮明となり、あきらめて撤退する人もいよう。組上という地点から左に捲くコースを見い出せるかどうかかギとなるのだが、私たちにもやはりわからなかった。そのため、アイゼンを付け、雪の急斜面を直登、シャクナゲのやぶに手こずりながらも山頂に達した。
鳥居と祠のある山頂はそんなに広くはないが、静かで素朴な雰囲気がいい。立木もないから360度の展望である。立帰りは組上まで、残雪も消えて明瞭な正規のルートであった。

カタクリの里山を歩く

小塩山

木村太郎

京都西山

小塩山を仰ぐ



桜の季節に西山の大原野神社を訪ねれば、紫式部が『源氏物語』行幸の巻で描いた、華麗なる王朝絵巻が蘇える。平城から平安京に遷都した時、奈良より春日神が勧請されて大原野神社が建ち、都から行幸の列が続いた。『古今和歌集』には、二条后(淳和帝后)が「大原野に詣で賜ひける日よめる」と題された、在原業平の歌を載せている。

大原や小塩の山もけふこそは
神代のことも思ひ出づらめ

(古今集卷十七「雑上」)

在原業平と二条后高子は、思いを寄せ合う仲だったので、天孫降臨の神々を引き合いにし、昔の恋人との日々を思い出

している歌であるという。能百番の「小塩」でも、二条后との恋を懐かしみ、後シテ在原業平が桜の下で同じ歌を舞っている。

南春日町でバスを降り、小塩山(大原山)を眺め大原野神社の神域に入る。古歌に詠まれた瀬和井の横から、神社の森を抜けて勝持寺の山門に出る。花の寺の別称があり、西行桜で知られている。業平が二条后に供奉した大原野神社、西行が剃髪し庵を結んだ勝持寺、歌聖らの面影が浮かぶ大原野の里は晴やらぬ臘の時が流れている。

集落が途絶え里道は山中に向かうが、段々畑上辺の梅林の下、畦道のような細

い道が左方向に折れている。去年の4月初旬に長岡京の青木さんが、姫路の須磨岡さんを案内した時に通った道で、その時に私も同行した。進入路に道標は無くわかりにくい。道はすぐ社家川に沿った林道に合い、堰堤に行き止まる手前の尾根道に取り付く。

落ち葉を敷いた足に優しい雑木林の道をたどる。去年歩いた時は、同行者の1

人、花巡り山行リーダーの田中さんが、まわりの木々や草花を説明してくれた。さよらは話し相手もなく、雨上がりの山道を無言で登った。

山頂に立つ電波塔への管理道らしい車道に出合う。ふたたび山道に入り、三度

目の車道に出合い、少し車道をくぐる。「西山自然保護ネットワーク」の立看板が立ち、ロープが張られた谷間の道に入る。思いがけない池が現れた谷斜面に、カタクリが蕾を付けていたが開花していない。ネットワークの人達が「池の谷」と呼ぶ花の群生地である。

山頂に電波塔が林立し、開発された里山にカタクリの群落があることに、奇異を感じないでもない。ネットワークの常日頃の活動があり、小塩山のカタクリは保護されている。クヌギやコナラの林床に適度の日が当たるよう、無用な常緑樹を伐採しているのだろう。

この年は4月1日の土曜日に、40人程のメンバーが、群生地にロープを張る作業をしたという。開花期には群生地に監視員が立ち、踏み荒らされぬよう目を光らせる。偶然にもこの日、ネットワーク活動中の「新ハイキング関西」会員の本間さんにお会いした。

数千年前から小塩山に自生していたというカタクリは、アリの種を運んで群生地が広がったのであ

ろうか。尾根に入り直し、カタクリの群生地を示す案内標識を見つける。昔炭焼きをしていた場所なので、「炭焼きの谷」の名がある。一方通行になった谷の道は、杭に結ばれたロープが誘導し、見終わると尾根に戻り着ける。

NTTドコモの電波塔のある車道に出て、「NTTの谷」と呼ばれる道に入る。珍しい白花のカタクリに出会える場所として知られている。いったん車道に出て、すぐ隣の回遊路に寄る。出口のカープ地点にミラーがあるので、「鏡の谷」と呼ばれている。

正法寺下からのびた天叡道が左手に合さり、建設省の無線中継所が右手に見え山上が近くなる。NHK小塩山放送所へのゲート横を抜け、鉄塔がある広場に登り着く。この場所で去年は、宇治の兼田さん達の鍋料理を味わった。大勢で過ごした楽しい時を思い出し、1人だけの昼飯にした。

淳和天皇陵への参道の横から、頂上直下の谷へ下りる。「御陵の谷」と呼ばれる南斜面の谷だが、ここでもカタクリの開花は見られない。紫色の艶やかな蕾が膨らみ、太陽が射せばすぐにも開きそ



小塩山付近略図

に群れていたのだが。葉種梅雨が続いたので、例年よりカタクリの開花が遅れている。

花の数が多くカタクリが目が奪われがちになるが、小塩山の谷にはほかにも多くの花が咲くという。ネットワークの人の話では、カタクリのほか、ウバユリ・エンレイソウ・ヤマエンゴサク・ミヤマカタバミ・ニリンソウ等々、数え切れない花が咲くという。

御陵の谷から登り返し、天皇陵の石垣そばの狭い台地に立つ。山頂の見極めがむずかしいものの、天皇陵内には入れないので、小塩山(642m)の頂とされている場所だという。山の自然環境を護るためか、去年青木さんから説明を聞いた時、吊されていた山名板が取り除かれていて見当たらなかった。

長岡京の造営を借しげもなく棄て平安京に再遷都した桓武帝を父に、30歳の若さで急死した藤原旅子を母にもつ、淳和天皇は無常観を内奥に秘めていた。在位10年で讓位し、西院に移り隠栖した。死に際しては、葬送の儀は薄く、遺体は火葬し、骨は粉にして地に散じ、陵を造るなど遺言した。



葉平ゆかりの塚がま跡

月はあの時と同じではない、春も去年の春と同じではない、私の身ひとつだけはもとのままなのに。通っていた屋敷の人気のない板敷きに身を横たえ、昔の追憶にふける葉平の、二条后高子を慕った歌である。

二条后高子は葉平の死後も激しく生き抜いた。陽成天皇の親政を支えたが、退位という敗北の憂き目をみて、高僧たち

遺灰は廷臣の手で、小塩山の頂から風に流された。天皇の遺志を裏切って幕末に陵が築かれる。その天皇陵の石垣をひと廻りし、大原野森林公園へ下山道をとる。外畑の発電所から中畑回転場への分岐が途中にあるが、バスの本数が少ないので無視した。

去年は入る人が少ないカタクリの咲く谷を通り、大原野森林公園へくだった。地元で「南の谷」と呼ぶ谷を、青木さんに引率された。廻り道しないで、尾根伝いに森林公園の森の案内所へ下山する。ここからポンポン山への尾根道も付いているが、今回は東海自然歩道に出て、小塩へ歩くことにした。

道なりに進めば金蔵寺に出るが、杉谷への道標を曲がり、杉谷川に架かる杉谷橋を通り過ぎる。ポンポン山の杉谷登山口を右手に見送り、善峰寺への道と分かれば、西山国師が眠る三鈴寺へくだる。三鈴寺本堂の高台からの眺望は見事で、比叡山から東山、宇治や山城の山々や京都市街が一望できる。

しだけ桜が盛りの本堂の前から石段を下りて、山道を500mほどくだると善峰寺バス停の下に出る。時々小塩山を垣間見ると浮き名を流し、死後復位の時まで廃後の運命を生きた。古今和歌集の巻頭ちかくに、「二条後の春のはじめの御歌」が出ています。

雪のうちに春はきにけり鶯のこはれる涙いまやとくらん

(古今集巻一「春上」)

世に噂されている二条后高子の印象と異なり、高貴な女性らしい歌いぶりである。まだ雪の残る季節から春に移る短い瞬間を、繊細な感情で詠んでいる。二条后高子の初々しい乙女の頃を写した歌なのかも知れない。

葉平は後年、西山の山寺暮らしをしていても、難波津から海水を運ばせ、隠栖地の高台で塩焼きをして、風流心を無くさなかったという。過ぎ去った優雅な生活を懐かしむように、塩を焼く煙を上げていたのであろうか。十輪寺の竹林茂れる裏山に、葉平ゆかりの塚がま跡が残されている。

葉平の塩焼きにちなんで、「小塩」の地名が付けられたという伝承がある。その説を信じるならば、小塩山は葉平の恋の果ての山といえるであろう。大原野神社に度々参詣した二条后高子へ、塩を焼

観光バスなら 確実第一の 太陽観光開発(株)へ!!



- ・小型 (20人・24人)
 - ・中型 (28人乗り)
 - ・中2階 (45人乗り)
 - ・大型 (55人・60人)
- いずれもサロンカーからデラックスまで

スキーバスもあります

〒578-0971 東大阪市鴻池本町1-20 オカダビル4F
電話 06(6745) 3911・FAX 06(6745) 3983
夜間・電話 06(6242) 2371・FAX 06(6242) 2372

ながら、府道を小塩バス停に急ぐ。この日の最終目的地、小塩山の山号がある十輪寺へ向かう。

小塩山十輪寺は葉平寺とも呼ばれ、晩年隠栖した葉平ゆかりの寺である。桓武天皇の孫の在原葉平は825年に生まれ、880年に56歳で十輪寺で没している。藤原高子との噂のために、官位昇進がはばまれ、「伊勢物語」に知られる東下りの諸段ができたのであろう。

月やあらぬ春や昔の春ならぬわが身ひとつはもとの身にして

(古今集巻十五「恋五」)

く煙を上げて、葉平は今この地に生きていますと、無言の挨拶を送っていたのだろうか。

葉平の「病して弱くなりける時よめる」の前書きがある、葉平臨終の歌が残る。死出の旅にゆく道を通るのが、昨日今日とは思ってもみなかったのにと詠んでいる。

つひにゆく道とはかかねて聞きしかど昨日今日とは思はざりしを

(古今集巻十六「哀傷」)

古今和歌集に葉平が遺した恋歌のせい、十輪寺の在原葉平の墓には、恋愛成就の評判が立ち、若き恋人たちのお参りも多いという。毎年5月28日に、十輪寺では葉平をしのぶ三弦大法要が営まれている。(平成18年4月14日歩く)

▲コースタイム▼

- 阪急東向日駅(阪急バス19分) 南春日町(10分) 大原野神社(1時間) 池の谷(1時間) NHK小塩山放送所(25分)
 - 淳和天皇陵(40分) 大原野森林公園(35分) 杉谷橋(20分) 三鈴寺(30分) 小塩(阪急バス21分) 阪急東向日駅
- △地形図▽2万5千1京都西南部

| | | | |
|-----------|-------|--------|--------|
| 新ハイ関西93号 | | | |
| 標高△△93mの山 | | | |
| 北岳 | 三嶺 | 三青葉山 | 三岳 |
| (3193) | 南アルプス | (1893) | 四国・剣山地 |
| | | (693) | 若狭 |
| | | (793) | 丹波山地 |

北岳

大学生になって本格的に始めた山行の最初の山が北岳である。それは大阪万博が開催された1970年の夏だった。

1泊目は白根御池小屋、草すべりから北岳を越えて北岳稜線小屋(当時の名称。現在の北岳山荘)が2泊目、そして農鳥小屋、大門沢小屋に泊まった。1泊につき一合の米を布袋に入れて持参し、宿泊代と共に米を渡す時代だった。同級生の友人と、大樺沢雪渓は初心者には危険そうだからと判断し、あえてルートには選ばなかった。素人大学生4人

の手探り山行だったが、連日の快晴続きの恵まれた天候に助けられ、すばらしい感動を心に刻んで下山することができた。南アルプスの主要な山を連続して登り始める第一回目の山行だった。

北岳の姿は実に美しい。池山吊尾根と小太郎山とを両翼のように広げたなかに、背筋をのびしたかのごとく凛とした気品ある姿や、パットレスの敵めしい風貌と、その下からかなり低い所まで一気に落ちていいる大樺沢雪渓との組み合わせによる豪快な容姿など、他の追従を許さない魅力いっぱい山だ。

一方、北岳そのものに登れば、深いシラビソの純林や広大なお花畑、雪渓歩き

三嶺

三嶺に登る前年の秋、時高さんの計画で石鐘山系の筒上山とツナの大木群に度肝を抜かれた大座礼山、そして三嶺の西にある美しい三角錐形の天狗塚に登った時、天狗塚への登路に建っているお亀岩避難小屋の木造りの佇まいを見て、次はここで泊まろうと話した。そして今回、同じく時高さんの計画により、お亀岩避難小屋をベースに三嶺と網附森へ行った。

その小屋を目指して北側から登った時の印象は強烈だった。それは急な樹林帯を抜け、小屋のある鞍部が近いのかなと



三嶺付近略図



三嶺への登山道にて

思わせるゆるやかな草原が、霧のなかに薄っすらと広がって見えた時で、ササ原にまばらに育っている丸っこい形をしたコマツツジが霧水となって、まるで放牧場に羊が群がっているように見えたのだった。タイミングも抜群によく、わずかの間に霧が晴れ上がり快晴になった。小屋から三嶺へは、紺碧の秋空のもと、枯れ色の混じった青ササと、霧水のコマツツジという美しいコントラストの景色のなかを登った。

(平成15年11月22日歩く)

▲コースタイム▼
いざり峠北尾根林道出合(3時間) お亀岩避難小屋(2時間) 三嶺(1時間30分) お亀岩避難小屋
△地図▽昭文社「石鐘・四国剣山」

青葉山

小学5年の夏に高浜へ臨海学習で行った時のことだった。高浜の海岸から三角錐形の青葉山を何度も仰ぎ見て、「美しいなあ」と感動したのを覚えている。登ったのはそれから35年もの歳月を経た年の6月だった。山自体も岩場が多く

て変化に富み、海岸線の眺めに高度感があった。また多くの花にも彩られ、名山という形容に値する山だ。なお標高は記述によって異なるが、地形図の数値に従った。

(平成7年6月18日歩く)

▲コースタイム▼
高野(3時間) 青葉山西峰(2時間) 高野
△地形図▽2万5千Ⅱ青葉山・東舞鶴

三岳

秋晴れの爽やかな日に登った。樹林に覆われた優しい印象の三岳と、岩峰が目立つ動的な小金ヶ岳の好一對の二山に登った。

当日は三岳修験道護摩焚の日で、三岳頂上で大峰山講鳳鳴会の行に立ち合え、大蛇で記念札をいただき、猪汁と甘酒を御馳走になった。

(昭和63年11月13日歩く)

▲コースタイム▼
火打岩(1時間40分) 三岳(2時間30分) 小金ヶ岳往復、大蛇(40分) 火打岩
△地形図▽2万5千Ⅱ宮田・村雲

春の山旅

屋島と五剣山(香川)・五剣山(徳島)・洞雲山(碓石山)

東四国

中島 仁志

平成18年春、東四国の海岸線付近の手頃な山旅をしたくなり、香川・徳島の低山を探し、往路途中の山を滋賀の観音寺織山として、ムーンライトながら91号に乗った。

観音寺・織山

織田信長が足利義昭を奉じて京都を目指したとき、それを阻止しようとしたのが、織山中腹の観音寺城の六角(佐々木義賢)だったが、簡単に敗れ去り、この戦いで六角氏は事実上滅びたとある。途中の安土駅は安土城址訪問等で今回が三回目。織山に向かって進む。資料館へのルートに分けてまっすぐに進む、石

段を登りつめた所が桑実寺の門。空は薄曇りで少しづつ雲が厚くなる。古ぼけた石段は本堂で右に折れて門を抜けるが、さらに杉の多い林のなかに続く。淡々と高度を上げ、張り出した尾根を廻ると石段は消え、石垣が現れた所が観音寺城跡。

道はその先を木段で観音正寺に向かうが、すでに標高は織山に近く等高線もゆるいので、斜面の下生えの薄そうなる所を選んで登り、程なく稜線の高みになると石垣の残骸が現れる。それを稜線に沿ってたどるとヒョイと木段のある立派な道に飛び出した。いくつかの道標で分岐とコースがあることを確認しながら、程な

いので、ここはあまりおすすめしないのですが」とおもしろい対応、こちらは宿泊費が安く駅から近ければよい。夜行山行のため、早目に眠った。

屋島・五剣山(香川)

一番列車で高松に出て、JR高徳本線に乗り継ぐ。平らな屋島の穏やかな姿と、

ゴツゴツした五剣山の対照的な姿がおもしろい。屋島駅から目の前に立つ屋島に向けて進む。国道11号、琴電を越えたと少しずつ傾斜が出てくる。やや複雑な五差路先のベンチで朝食休憩。高松の町並の向こうに平らな五台山が見える。弘法大師にまつわる水場などを過ぎてゆっくりに高度を上げ、階段を切り切った所が屋島の南門、四国八十八札所であろうと紅梅の花が鮮やか。本堂から境内や高台の古い墓所を散策し、長い尾根の北外れの展望所に出るとすぐ、五剣山(366・2)が特徴的な岩峰を立てる。五剣山に廻るため北嶺は断念してやや早足でくだり、琴電屋島駅から電車に乗り、五剣山麓の八栗駅に着いた。



八栗駅から五剣山山腹にある四国八十八札所の八栗寺に向かう。登山口から遊歩道を進み、裏参道を分けてひと登りすれば山門で、大きな山寺である。ロープウェイで登ってくる人が多い。

屋島から望む五剣山(香川)



く織山(433)山頂に着いた。明るく開けて各方面が見渡せる。下山路は、東に六角氏の居城跡経由で観音正寺にくだる。寺からは表参道の立派な石段を下り、約4時間で安土駅に戻った。

この日の香川の宿・海岸寺YHでは、住職でもあるペアレントが「最近ホテルも安くなり、また満足にお世話もできな

寺の上に五剣山の岩峰がある。

実はこの五剣山、奥の院からの登路はあるが、死亡事故で登山道は閉鎖されているとのこと、その地点まで登って、「この先登山禁止」の標識と金網閉鎖を確認した。この寺も広がり大きく、朱色の多宝塔のあたりからも二本ほど登路らしい切り開きがあるも、登山禁止の標識を確認するだけ。ロープウェイ山上駅付近まで歩き、ようやく屋島と五剣山の岩峰が望める場所を確認した。

下山は多宝塔の脇から裏参道をくだって往路に出る。登山口に戻って、あとは山を眺めながら車道をたどり、JR屋島駅から徳島に向かう。坂東付近からは北に整った大麻山を仰ぎ、いつか機会があれば訪れたいと思った。

徳島から日和佐までは、海あり山ありのけっこう楽しい列車の旅となる。ウミガメの産卵でも知られる日和佐は、四国33番札所の薬王寺や日和佐城があって楽しめる所だが、今日は五剣山の宿泊基地が目的なので、直接宿に入る。久々の風呂で汗を流し、翌日快晴の天気予報に氣をよくして眠りに就いた。

五剣山(徳島)

翌日も快晴。朝食前に薬王寺を放棄し、宿の好意で少し早めてくれた朝食をとり、始発列車に乗る。下車した辺川は無人駅で、北に五剣山が小刻みな峰を連ねて広がっている。

駅前の道から喜米に向かう広い道に出て右に進む。20分ほどで喜米川が右に移ると、古い道標がコースを導く。舗装路はジグザグを切って高台に上がり、すぐ先が登山口でそこから山道になる。まずは植林下で淡々と高度を上げる。あたりは照葉樹林で深緑の世界。所どころでシダが道の両側に茂るが、妨げにはならない。展望がきかず地図に破線は無く、頼りは比較的しっかりした道と、「地元の小学生が登る」との話だけである。

右手の沢音が近づき、渡ると傾斜が増し、岩がゴロゴロして歩きづらくなる。樹林は楮で所どころに赤い花弁を落としていく。少しずつ沢音から離れ、岩登のような所でちょうど南が開けて海が見下ろせ、見上げるとアセビの花盛り。

照葉樹林下の急登から尾根に飛び出ると、登って来た方に矢印で「喜米」とある。左に折れた尾根道は最初はゆるいが、

すぐ急な登りとなる。これを二回ほど繰り返すと、黄色の小さなちょうちん状の「五剣山」の印を見てもう一度急登になり、ひと登りで小ピークに出た。どのあたりを歩いているか判然としないまま進むうち、右手が切れて少し高い山並が見える。小さな上り下りを二〜三回繰り返してから次ピークに向けて急登となり、そのピークに達すると、思いがけずも3等三角点埋められた五剣山(638m)頂上に達していた。山頂は南と北が少し開け、南に海を見下ろせる。

10分ほど休み、往路を戻る。急坂の下りは楮等の堅い幹に適當につかまりながら沢を渡れば、あとはゆるくなる。舗装路に出て、小休止後辺川駅に向かう。駅ホームから列車を待つ間、見上げる五剣山の姿がよかった。

この日は高松に戻り、小豆島に渡る。船から屋島・香川五剣山・飯野山などを眺め、明日の山を仰ぐうちに日没となる。草壁港から宿へは歩程20分弱、3年ぶりの小豆島オリブYHで翌日の山を尋ねると、親切にガイドブックの写しと手作りの案内図をくれた。

いている。苗羽からバス通りを次の町並に向かう頃に、醤油の香りはほとんどなくなっていた。

草壁港まで歩き、船で四国に渡る頃、空にかかる雲は少しずつ厚みを増す。坂出・岡山・相生・野洲・米原と乗り継ぎ、大垣駅からムーンライトながらに乗った。(平成18年3月18日〜21日歩く)

▲参考タイム▼

- 「18日」JR安土駅7:06―桑実寺8:00―観音寺嶺山8:50―9:15―観音正寺9:40―55―安土駅11:15(電車)海岸寺駅18:36―海岸寺YH18:45(泊)
- 「19日」観音寺駅5:45(電車)屋島駅7:02―(途中15分休憩)―屋島寺8:20―40―琴電屋島駅9:10―15(電車)八栗駅9:20―八栗寺登山口9:50―八栗寺10:15―55―八栗寺登山口11:10―(途中昼食)―屋島駅13:00(電車)日和佐駅16:57―日和佐YH17:05(泊)
- 「20日」日和佐駅7:22(電車)辺川駅7:39―登山口8:15―沢を渡る8:50―五剣山9:50―10:00―辺川駅11:45―12:04(電車)高松駅16:45―高松港17:43(船)草壁港18:43―小豆島オリブ

洞雲山(碓石山) バスで終点の坂手東まで入り、山に向かって進む。小豆島もお寺が多く、山へのアプローチというよりお寺へのアプローチだ。道なりに観音寺の横を通過して内海の町を見下ろしながら登り切れば一心寺の山門である。

洞雲山へは左に折れて讃岐十景の展望台を過ぎ、岩峰がそそり立つ左側の舗装路を行く。その先が岩峰にへばりつく洞雲山寺、少し先で碓石山寺への分岐。碓石山寺本堂横の石段を登って奥の院に出た。上の岩場に青ベンキが付いて登路はコンクリートで固められしっかりと登れる。すぐ先でウバメガシの林に入り、ほどなく尾根道に合流する。次のピークが洞雲山(390m)最高峰なのだが、ウバメガシ林のなかで標識もなく、碓石山に向かう尾根歩きもほとんど展望が得られない。少しくだり、碓石山への登りも林のなか、ほどなく標識もない碓石山(435m)頂に着いた。展望は先の二つのピークよりは若干増して、垣間から屋ヶ城山と手前で大嶽の岩峰が望める程度で、あるのは三角点のみ。

小休止後来た道を戻る。もらった小ガ

△地形図▼

- 「21日」YH前8:00(バス)坂手東8:15―一心寺9:15―洞雲山9:55―碓石山10:10―洞雲山展望地10:40―洞雲山寺入口11:05―常光寺11:40―苗羽11:50―(途中昼食)―草壁港13:30(船)高松港14:30(高松駅より電車)大垣駅23:19(ムーンライトながら)東京駅4:42

△地形図▼

- 2万5千Ⅱ八日市・山河内・草壁
- 5万Ⅱ高松(屋島・五剣山(香川))
- (交通費・大垣起点)
- 青春18きっぷ3日分 6900円
- 日和佐―辺川 260円
- 辺川―高松(特急) 3360円
- 高松港―草壁港(往復船代) 1090円
- ・YH前―坂手東(バス代) 410円
- (宿泊費)(*非会員は1000円増)
- ・海岸寺YH(会員) 2300円
- ・日和佐YH(会員・朝食付) 3485円
- ・小豆島オリブYH(会員・朝食付) 3885円

イドの写しでは、碓石山への途中で推して北に出る点線もあるが、踏み跡のみで道標はなく、通行禁止なのか木片が数本置かれていた。分岐まで往路をたどり、さらに直進するとヒョイと岩壁に飛び出した。この一帯からの展望はすばらしく、歩いて来た深緑のピークの奥に大嶽の岩峰、さらにその上に星ヶ城山の大きな広がり、小豆島西部の山並、瀬戸内の海や島が眺められる。そしてたどってきた尾根の下の山腹には、三つの寺がへばりついている。しばらく稜線をたどってから急斜面を一気にくだる。明るい林のなかだが、木につかまりながらの下りで、急坂があとひと段落すると右にヘンリ気味に廻って行く。少しずつ岩峰が近づき、程なく洞雲山寺手前に下り立った。

あとは碓石山寺分岐から苗羽を目指して車道をゆっくりにくだる。背後にこの日たどった山並がシルエットで望めるが、その左側に目立つのがげんこつを振り上げたような大嶽。そのうちにブーンと醤油独特の香りがすると苗羽の一角で、その入口に常光寺がある。小さな寺だか、ジョウコウザクラの名所で、五〜六本の木には鮮やかなピンクの花がたわわに咲

ぶらり里山ウォーク

上仰木から水井山・横高山・延暦寺へ

比叡

山本久雄

峰道



てこれからの長い道中の安全をお祈りする。ほんの少し先で古い道標が仰木峠の入口を示している。これに従い峠道へと入る。

わずかの登りで冷たい風が吹き抜ける峠に飛び出る。ここからは京都一周トレイル、東海自然歩道をたどることになる。北山らしい道をたどること少しで横川中堂に向かう自然歩道と分かれ、水井山の登りにさしかかる。ひと息つきたいと思ふ頃ならだかになり、山頂かと思ふが目の前にはさらに高いピークがある。気を取り直して足を運ぶ。振り返れば比良の山並と湖が美しい。

木々の間から空が見えるようになってくると水井山山頂である。平凡な水井山山頂を後にし、小さなピークを一つ越え、横高山を越える。山頂の一角は庭園のよ

いつもはJR堅田駅から上仰木までバスを利用するが、今日は天気も良い。できるかぎり歩こうと雄琴駅からスタートした。勤め先や学校に急ぐ人達でいっぱい道に反対方向に登山スタイルで歩くのは少々照れくさい。

少し汗ばんだ頃、左手に石標があり、大原、横川への細い道を示している。通勤の車があわただしく通る道路からこの横道に入ると途端に風景が変わり、今までの近代的な住宅街の雰囲気とは一変して重厚な瓦屋根の家々になる。庭先には菊の花が日差しに揺れ、賑やかな声で頭に黄色の帽子を乗せたヒヨコたちが通園バスへ向かう。「おはようございます」

とかわいらしい声を掛けられてあわてて笑顔をつくって返事する。ほんわかと心が和んでくる。

上仰木のバス停を過ぎると家々の軒先には青空をバックに柿の実がぶら下がり、いっそうのどかな風景になってくる。里の秋を体中にしみこませて、次第に山懐に分け入って行く。小さな社があり、この前で道は二手に分かれる。谷沿いの道から分かれ、つま先上がりに尾根を登る道を選び、槍の落ち葉を踏みしめて歩く。

やがて展望が開け、琵琶湖が見えるようになると、右手に何体かの石仏が祀られている。道祖神であろうか、足を止め

うに広く、葉を落とした木々の間からまぶしいような太陽が黄色くなった地面を照らしている。先程分かれた自然歩道に出合うまでは転がるような急坂である。石車に乗らないように慎重に一步一步く

だてて行く。くだり着いた鞍部は十字路になっていて、それぞれ横川中堂、八瀬、延暦寺へと通じている。まっすぐに延暦寺へと足を運ぶ。

十字路からしばらくで大きな杉に出会う。遠く京都の町並が望まれ、足元には黒谷青龍寺が木々に埋もれるように鎮座している。玉体杉と呼ばれる杉の下で早

目の昼食とする。背中の重たい荷物的大部分を腹の中に納めてしまおうとザックは一気に軽くなる。軽い足取りで延暦寺に向かう。

千日回峰の行者道で峠道と名付けられ、よく利用される道だが、平日にはハイカーに出会うことは少ない。しかし、今年天台宗開宗1200年を記念してスタンプラリーが開催されているので観光客が簡素なパンフレットを片手に歩いている姿を見かけることが多い。笑顔で声をかけてもすれ違う人たちの多くは「警のまなざしを授けるだけ、「なんだお前は」と

言わんばかりの顔で何も言わずに通り返して行く。朝からのほんわか気分がだんだんおれてくる。

西塔に着くまでの道すがら、顔の形も判別できないほど風雨にさらされた数多くの小さな石仏達が、花を手向けられてたたくみ、この道が信仰の道であることがわかる。

モミの純林を抜け、ドライブウェイをくぐり抜ける。西塔釈迦堂前に入る。いつ見ても立派な伽藍である。にない堂へ抜ける階段の途中で腰を下ろしてゆっくりと休憩する。

ここからのトレイルは迂回路をとり、入口の料金所を通らなくてもいいようになっている。その配慮がちよっぴり嬉しい。東塔までには比叡山の聖地である浄土院の前を通るが、午後の日差しに白砂を敷き詰めた庭は明るく輝き、「静寂」という言葉がひとりでもにわいてくる。しばし足を止め、「静寂」に身を没し落ち着いたところで東塔に向かう。息が切れそうな長い階段を上りつめ、ドライブウェイを越えると東塔の入口で、「東海自然歩道」の歩行者であると断って境内に足を踏み込む。

ここは延暦寺の観光の中心地、大勢の人たちでこたえ返している。再び料金所があり、境内通過のお礼を言って坂本ケール駅へと急ぐ。坂本ケール「延暦寺駅」は近畿の駅自選に選ばれ、深緑の木々と奇抜な色に塗られたレトロな駅舎がよく溶け合い、いい雰囲気を感じさせる山中の駅である。駅前から無動寺の参道へ入



るがかなりの急な下りである。明るく開けた明王院の前庭で大津の町並を見下ろしながらしばし腰を下ろす。

明王院は千日回峰行者の出発地であり終着地でもある。弁財天の横から境内を抜けるが、滝の行場付近は花シズンにはクリンソウやイワタバコの群落が目を楽しませてくれる。いささか急な登りを終え大きく張り出した尾根を廻り込むと、鳥居の立つ桜茶屋跡を越える。昔はこの道を通り無動寺弁財天へと数多くの信者が参詣したのであろう。ドライブウェイが目前に迫ると「北白川」へ下りて行く道に分ける。

やがて自然歩道は登りにはあまり使いたくないような急で長い階段となる。途中で飼い主から離れたものとおぼしき犬が、こちらが近づいて行くと大きな声で吠え立ててきたが、よく見ると尻尾を下げているではないか。無視してどんどん近づいて行き、すれ違いざま「ワン」と小さな声を出すと、「ピクッ」としたように体を硬直させ目をまん丸にしているが、すぐに脱兎のごとく飼い主の元へ走り去っていった。「驚かせてゴメンよ」と笑いながらその後ろ姿を見送る。

階段を勢いにまかせ一気にくだり切るとちょっとした広場となる。この先夢見ヶ丘までの登りは本日のラストとなるが、雄琴駅から歩いてきた身には少々辛い。ようやく登り切ると目の前は騒がしい駐車場があつてがっかりする。

本日最後の目的の「壺笠山城跡」を目指す。今では自然歩道となった古道「志賀越、白鳥越」は、「志賀越」が分岐するまではゆったりと尾根をたどる。自然歩道「志賀越」はやがて右手に谷をくぐって行くが、まっすぐ尾根を行く袖道が古道「白鳥越」に迷わない。道としてはここまでの自然歩道より心細くなるが、無動寺弁財天への道のりが記された石標があつて心強い。しかしそれもつかの間でこの道も谷へと下りてしまふ。尾根上にはさらに心細くなった袖道がのびている。地図で確認すると「白鳥越」は直進する尾根道だろう。しばらくで営林署の看板の裏側に小さく「壺笠山」の矢印がありひと息で壺笠山山頂である。

頂上は台地になっていて浅井・朝倉連合軍が織田信長と一戦を交えたという。滋賀県内では最古級といわれる前方後円墳を改装した城跡やいかにと周囲を探す

が、崩れた小さな石垣のような岩場があるのみだ。静まり返った山頂で「つはものどもが夢の跡」の余韻を楽しむ。

踏み跡は無いが疎林になっていて、ゆったりと歩けそうな感じで南にのびる尾根をたどってみたい誘惑にかられるが、時間的に無理なようだ。おとなしく元の分岐に戻り、地図通りビークの北側を捲いて再び尾根上に戻るとあっけなく林道に飛び出た。

ここからは車道歩きとなり穴太の里までは鼻歌を歌いながらの散歩となる。帰路の唐崎駅ホームで赤く染まり暮れてゆく空を肴に、一日の好天への感謝とはるばる雄琴から歩き通した自分への褒美をかね、仕入れた缶ビールで乾杯した。

(平成18年11月8日歩く)

▲コースタイム▼

JR雄琴駅(40分) 上仰木バス停(1時間) 仰木峠(30分) 水井山(20分) 横高山(20分) 玉林杉(35分) 西塔(45分) 坂本ケーブル延暦寺駅(15分) 無動寺(35分) 桜茶屋跡(25分) 広場(40分) 壺笠山(50分) 穴太(20分) JR唐崎駅(地形図) 2万5千 大原・京都東北部

辺境の地、奥熊野の山々

鷲ノ巢山と周辺の山

山形 明

南 紀

三重県南部の御浜町の奥にある山塊で、御浜とは七里御浜のこと。熊野市から新宮市熊野川河口まで25kmの美しい浜、那智黒石などの寶石に敷き詰められた壮大な景観を見せている。

前日、新ハイ例会の台高・馬ノ鞍峰登山に参加し、解散後国道169号線を南下する。途中の道の駅で車中泊をし、熊野市に出た。そこからさらに国道42号線を南下し、紀和町への看板から311号線に入って西へ走ると、この山塊が見えてくる。尾呂志で国道を離れ、北へ向かう細い道に入ると、やがて阪本の折山神社に着いた。

阪本は野犬と狼の交配種を先祖とする

紀州犬の原産地で、折山神社の前には、紀州犬は秋田犬・土佐犬と共に天然記念物であることの由来を書いた大きな看板がある。親子の紀州犬像があると聞いていたがどこにも見当たらない。この看板の後ろの台座の上に座っていたのだろうか。

車を神社前広場に置き、神社からさらに林道を600m行つた所に「熊野古道入口」がある。ここで様子を見てみると、通りかかった車から町の職員の方が降りてきて、「どちらからこられたか」と聞かれたので答えると、「ようこそ遠いところから……」とねぎらいの言葉、「熊野古道祭りがあるのでぜひ見ていかれ」

阪本集落から鶴山(左)と鷲ノ巢山(右)



とチランを渡された。

石畳の古道を登って行くとあづまやがあり、展望所になっていて、七里御浜の海岸線と熊野灘が見渡せた。「熊野古道から熊野灘を見渡す」いいではないか。これに熊野川も見え、熊さんに逢えたら最高などと、バカなことを考えながらの1人歩きが始まる。

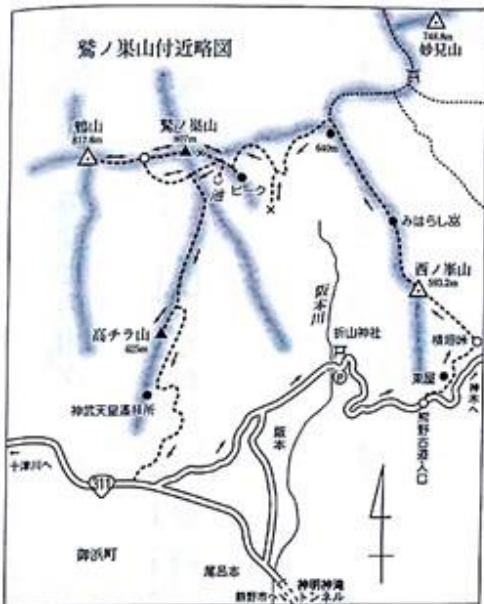
熊野は「限」で、限はコモルの意味で



神武天皇遙拝所

根が南に向きを変えて尾根なりに道はく
だつて、谷の方へジグザグに下りている
上を見ると樹間からわずかに上の尾根が
鷲ノ巣山(807m)に繋がっているの
が見えるので登り返し、やぶを分けて稜
線まで登ると稜線上に踏み跡がある。西
へ行くと鷲ノ巣山から派生している尾根
にぶつかり、この尾根を登る。頂部は岩
峰になっていて岩場を登るが、最後のつ

めので行きづまってしまった。岩場か
ら戻ることになるが、電柱に登った猫に
なつてしまひ下りられず、シュリンゲを
使って下降する破目になった。
尾根をくだると鞍部で尾根を乗り越す
道に出合う。その先尾根上に大きなビー
クがあるので登ってみたが、高チラ山で
はなかつた。途中の池に立ち寄り、鞍部
に戻つて西へ行く。そこから尾根を二つ
乗り越え、先へ行くと鷲ノ巣山から鷲
山(△812・8m)につながる稜線上の
鞍部に出た。
左に行くくと鷲山だが雑木に囲まれた静
かな頂で展望は無い。鞍部まで戻り、岩
混じりの稜線を直上すると鷲ノ巣山の頂
に出た。ここも雑木のなかで展望は無
い。来た道を鞍部まで戻り、南にくだつ
て行くと、高チラ山(625m)の捲き
道になつたので高チラ山へピストンした
山頂は小さな山名板がぶら下がるだけの
樹林のなか、わずかに西ノ峯山が見え
た。
登つた道を引き返し、鞍部からは尾根
の左をトラバースしてくだると、石柱の
建つ「神武天皇遙拝所」に出た。そこか
らは樹林のなかの広い道をジグザグにく



西ノ峯山山頂

深山霊谷が地名の語源だそう。ここか
ら先は捲き道の水平道になり、途中大き
な石碑がある所が横垣峠で、古道は神木
へ続く。ここが西ノ峯山(△593・2m)の
登り口だ。シダ類の生い茂る急な細い
踏み跡を一直線に頂上へ向かう、傾斜が
ゆるむと西ノ峯山の頂であった。
三角点を中心に切り開きのある樹林の
なかで展望は無い。ここから北へ尾根道
を行く。不明瞭な箇所もあるが尾根をは
ずさないように歩き、
いくつもの起伏を上
下して進む。「みわ
たし窟」という巨岩
の上に出て展望が得
られた。途中で「み
はらし窟」という巨
岩も乗り越えて来た。
なおも北上し、64
0m峰を捲くと明瞭
な道になり、右へ行
くと妙見山(△74
8・8m)だが割愛
して左に行く。やが
て尾根を左にトラバ
ースする道になり、尾

▲コースタイム▼
折山神社(30分) 横垣峠(1時間) 西ノ
峯山(1時間) 640mピーク下分岐点
(1時間30分) 鷲山(40分) 鷲ノ巣山
(50分) 高チラ山(50分) 国道(40分)
折山神社
△地形図▼2万5千1:1木本・游八丁

私の住む所は2万5千の地形図が入手
困難で、低山であることでもあり道路地
図をコピーし、その地図の等高線を頼り
に歩いたのが失敗だった。帰宅すると注
文した2万5千の地形図が届いていた。
(平成18年12月6日歩く)

たそれがれ時をのんびりとアスファルト
道を折山神社に戻つたが、家々の庭先か
ら犬に吠えられた。この犬が紀州犬なの
かは私にはわからなかつた。
今回の山行きは、妙見山をピストンし
て、この山塊を一周するのに8時間とみ
て計画したが、歩いてみて道に迷いそう
なので、妙見山を割愛したが、結局道に
迷ってしまった。
たそがれ時をのんびりとアスファルト
道を折山神社に戻つたが、家々の庭先か
ら犬に吠えられた。この犬が紀州犬なの
かは私にはわからなかつた。

人気商品紹介

◆ウォーキングW◆

2気室切替式短脚走モデル

★32/★

| | |
|-----|---|
| カラー | ミントグリーン×モノクロ マゼンタ×モノクロ ネイビー×モノクロ レボ×モノクロ |
| 重量 | 1550g |
| 素材 | 高密度ナイロン |
| 価格 | ¥15,750 |

★28/★

| | |
|-----|---|
| カラー | ミントグリーン×モノクロ マゼンタ×モノクロ ネイビー×モノクロ レボ×モノクロ |
| 重量 | 1400g |
| 素材 | 高密度ナイロン |
| 価格 | ¥13,650 |

オリジナルザック & 登山用品専門店

神戸ザック

http://www.h2.dion.ne.jp/~kobezac

- ・雨蓋内ジッパー付き小ポケット
- ・P&Aフレーム内蔵により体型に合わせて形状を
変えることが出来、ザックの型くずれを防ぎます。
- ・左右サイドファスナー付片側は
内ポケット、もう一方は内部への
アクセス用
- ・フロントポケットはメッシュと
ゴムコード付
- ・内部の仕切りフラップの開閉に
より1-2気室に切り替えて
使い分けを可能に。
- ・立体裁断により体にフィットし
疲労感を軽減します。

伊モック山遊くらぶ

春夏秋冬、季節を気に
せず登山・低山・名山
を訪ねます。

一会員募集中—

IMOCK
KOBÉ

〒653-0038 神戸市東灘区日吉町1丁目15番5号
カナンビル2F
TEL (078) 621-5851
FAX (078) 621-3528
営業時間/10:00-20:00 日曜日不定休

新ハイキング関西特別山行

スイスアルプス・ハイキング満喫9日間

スイス

金谷 昭

つるが山楽会との共催のスイスアルプス・ハイキングに参加した。夢にまで見たマッターホルンやアイガーを始めとするユングフラウ三山を間近に見て、感激連続の山行であった。なお、往路ではパンコックでの飛行機乗り換え時間にパンコック市内を見物する余裕もあり、題名通り満喫の9日間であった。

9月11日

関西空港よりタイ航空でのフライト6時間後、中継地パンコック着。時差2時間のため16時前でもまだ明るく、スイスへの深夜便までの待ち時間を利用し、オープンで約4時間のパンコック市内観光

(810ターニツ2500円)をした。チャオプラヤー河の船旅と暁の寺院(ワットアルン)等が見物でき、思わぬ余禄に全員が大喜び。

9月12日

早朝7時、チューリッヒに着いた。時差は日本とは7時間(サマータイムのため普段は8時間)、タイからの所要フライトは12時間で、狭いエコノミークラスの座席にすっかり疲れ果て、これからのハイキングができるかどうか心配であった。チューリッヒ空港はパンコック空港に比べれば清潔で、しかも空気が乾燥しているから清々しい。空港地下駅からスイ

ユングフラウ三山をバックに記念の全員写真



車窓からは、都会を離れて芝生を敷きつめたような牧場が見られ、その間に小さいな住宅や工場が点在し、日本のような廃田や廃屋はいっさい見られず、国民生活の高水準がうかがえる。乗り換え駅のベルン市に到着する頃に



は天候はすっかり回復し、正午の乗り換え時刻までの間、旧市内観光に行く。世界文化遺産となっているスイスの首都だけに、中世そのままに残る石造建築群は古い歴史をにじませ、また窓には草花(サルビア)が飾られ、都市景観に寄与している。道路には市電とトロリーバスが走り、自動車は日本国内と比べてずっと少なく、歩行者は散策が楽しめる。旧市内中央のマルク通りを、人形仕掛けの時計塔や大聖堂を見て、熊公園に向かって歩いて行く。市内の中心部を外れて出てくる住宅街は、淡いセピア調の陶板瓦葺きの屋根、外壁は白に統一され、各戸の窓は草花に彩られている。熊公園手前のアーレ川のニーデック橋の上から見れば、アルプスからの澄んだ水の流れと森に囲まれた家々が見事に調和している。ベルンのシンボルとなっている熊公園で休憩後、引き返して現在修理中の連邦議会議事堂前の広場へ行き、バザールで買物。一部の人は屋台で昼食をとった。

ベルン駅に戻り、ツェルマットへの列車に乗り継ぐ。立派な駅のホームのエスカレーターは、東京で事故のあった例のシンドラider社製だが問題はないようであ

ス国鉄に乗り、ツェルマットに向かう。ちょうどラッシュ時に当たり二階建の列車は込んでいたが、次のチューリッヒと中央駅で空き、二階のテーブル付きのソファアにゆったりと座り、車窓からはスイス風景が楽しめた。事前にインターネットで調べたスイスの週間天気予報は、前半は好天の予報にもかかわらず小雨が見られ、山国だけに雨が多いかもしれない。

る。日本と違ってホームの発車ベルも鳴らず定期通りに発車。街を離れると好天のもと、牧場とその背後にはそろそろ高山が見え始めた。美しいブリエンス湖が出てくる頃には雪を抱いた氷河地形の高山が現れ、アルプスが近づいてきた。インターレーケン西駅、さらにブリーグ駅で再度乗り換えとなり、待ち時間がかなりあったので駅前に出る。ここにも生協があり、食品は何でも揃っており、スイス名物のチーズの品数の多さに驚く。帰路お土産購入に再度寄ることにした。

乗り換えた列車はスイッチバックしてツェルマットに向かい、狭い渓谷に入っただけで、車窓からは岩壁の高山が立ち上がり、頂上付近には氷河らしきが見られ、待望のマッターホルンを垣間見る頃、ツェルマット(H11620m)に到着した。駅は民家風の陶板瓦葺きの勾配屋根、各階に張り出したテラスには赤い花が飾られている。駅前には馬車が集まっている。ツェルマットは手前のテッシュユからガソリン車は締め出され、代わって馬車と電気自動車のみとなり、排気ガスの汚染も無く、また信号も無い。車のクラク



ブライトホルン（ゴルナーグラード展望台より）



リスカムとゴルナー氷河（ゴルナーグラード展望台より）

れた。岩屑の裸地をぬってワタスゲの咲く湖畔に下り立つと、幸い快晴微風で、しばらくの間頂上に薄くガスのかかったマッターホルンの倒影が映し出された。本日の最大目的を達成し、全員大満足であった。

ここからは登山電車を右上看ながら、マッターホルンに向かってハイキングコースをくだり、途中のリッヘルブルグ駅前にて昼食をとった。森林限界のリッフェルアルプ駅までマッターホルンを真正面にして草原のハイキングを楽しんだ後、登山電車でツェルマットに下り立った。今夜のホテルは小じんまりとして、もちろん民家風であったが、入室とともにトラブルが発生。各人が一斉にバスを使用したため、容量オーバーで熱湯がすぐに出なくなるハプニングが、国民習慣の違いによるとんだ茶番劇であった。

夕食前の時間にツェルマットの街を散策する。駅前通りにはスイスやその他ヨーロッパのブランド品の商店やホテルが軒を並べ、大きな教会もあり、その近くのガイドクラブの建物とその裏にある山岳博物館を見学する。日本人の見学が多い

9月13日
早朝からマッターホルンの朝焼けを見るため、ほとんどの者は快い冷気のなかホテルのテラスや近くの草原の礼拝堂に出て日の出を待った。6時半マッターホルンの頂上付近が黄金色に輝き、夢にまで見た感激の一瞬であった。マッターホルンのみならずブライトホルンを始めとするヴァリス山群のすばらしい大パノラマが展開し、カメラのシャッターを押し通してあった。

朝食後、再び登山電車で山頂ゴルナーグラードに向かい終点下車。銀色のドームのあるゴルナーグラード展望台（H=3090m）に登るとヴァリス山群の大展望台になっていて、目の前には白銀に輝くゴルナー氷河を抱いた最高峰モンテローザ（H=4634m）からリスカム（H=4527m）、ブライトホルン（H=4159m）、クライネマッターホルン（H=3817m）、マッターホルン（H=4478m）と、岩と氷

の宿泊地、リッフェルベルグの山上ホテルに向かう。登山列車はロープ牽引式でなく、アプト式の自走で、ゆっくりではあるがぐんぐん高度を稼ぎ、ツェルマットの街を下にする。森林限界を過ぎると頂上に少しガスがかかったマッターホルンが立ちほだかってきた。登山電車の中継駅リッフェルベルグで下車し、マッターホルンを目の前にする山上ホテル（H=2582m）に投宿した。

夕食前にホテル近くの小さな礼拝堂のある牧場高原を散策した。マッターホルンは輝く夕日の逆光を浴び、巨大な石斧のごとくたざんでいた。

山上ホテルといっても各室水洗トイレ・温水シャワー完備で不自由はなく、食事も肉・ジャガイモ・乳製品・パン等、満足するものであった。早速ワインで乾杯し、無事スイス到着を祝した。



マッターホルンの倒影を写すリッフェル湖

タールホルン（H=4478m）と、岩と氷河のすばらしい景観であった。

展望台でアルプスの景観を十分に楽しんだ後、マッターホルンの倒影で有名なリッフェルゼ（湖）に向かっての定番のハイキングコースを一昨夜の空路の疲れもどこへやら、快調にくだって行く。すれ違いのできる幅の広い歩道で、要所には道標が設置され安心して歩けるように整備されている。真正面に中腹に氷河を抱いたマッターホルン、その左にヴァイスホルン（H=4505m）山群に向かってくっだって行き、大岩峰リッフェルホルンの麓に大小二つのリッフェル湖が望ま



メンヒと登山列車

チャイ駅からアイガーの岩山の中に滑って行く。途中二ヶ所アイガー北壁の中腹に開けられた大きな窓のある山中駅で各10分間停車し、降車して窓から北壁を觀察できたが、窓からは凄惨な岩壁が見られ、氷河の解けた水滴が滝のごとく流れ落ちていた。

終点はユングフラウの頂上地下にあり、長いトンネルとエレベーターでユングフラウの肩のトップオフ、ヨーロッパ・スフィンクス展望台（H=3573m）に出る。アルプス最長のアレッチ氷河の源頭部が見られたが、ここでは気温0・9度、風速68km/hであった。ここから再びエレベーターでくぐって、トンネルを抜けるとスノーデスク。すぐにアレッチ氷河を歩けるのだが、残念ながらガスに包まれてホワイトアウト。新雪のアルプス最

大の氷河の踏査は断念し、引き返して山中の氷の殿堂に行く。水のトンネルの中に氷の彫刻が展示されていた。床も氷であったが意外にスリッパすることはなかった。山中には売店・食堂もあり、大勢の観光客で賑わっていた。

ユングフラウヨッホから登山電車で下山し、アイガーの山中から地上に出た所のアイガーグレッチャ駅で途中下車。ここからクライネシャイデック駅までのゆるやかな下りのハイキング（約2時間）となった。かつてアイガー東山稜を初登攀した日本人故郷有恒氏が寄贈した東山稜の避難小屋が、駅のすぐ上に東山稜より移築されている。約三坪程の小さな小屋だが内部は当時の記念物の展示館に改修されていた。

見学後、コースに入ると山頂付近のガスはとれ、ユングフラウ三山がくっきりと白銀の姿を現した。見上げると首が痛くなるほど高く巨大で、すばらしい景観は見飽きることはなかった。が、突然ザーという音と共にユングフラウから氷河の一部の崩落と土砂崩れを目にした。三山からの純白の氷河も末端ともなると、崩落土砂で汚れて岩壁と区別がつかない。

らったが、最近10年間で最も著しく、以前はこのレストラン前まで氷河がのびていたとのこと。今ははるか上部に後退していることを見受けられた。

昼食後、この氷河の末端を見に行く。対岸に見える巨大な岩山の頂上に掘っ立て小屋が見られ、そこまで危なっかしい丸太階段がかかっている、それを登ることとなった。

いったん谷にくんだり、対岸に渡ると管理小屋があり、その前から巨大な一枚岩に架けられた丸太階段に取り付く。入山料6S.F（約600円）を管理人に支払った際、聞けば彼がこの階段を個人で設置



オーバーグレッチャ氷河見物登山開設と筆者
置許可にはならなかった。安全や自然保護の問題で設置許可にはならなかった。途中で一服する踊り場はなく、一気に登らざるを得ず、最初のうちは段数を数えていたが疲労でわからなくなつた。高島氏によると636段のこと。登り切った大岩の上はゆるやかな岩盤となり、小さなトイレが設けられていた。岩盤上をさらに谷奥に行く

最近の地球温暖化で氷河の後退は著しくやせ細った感じがした。アイガー西山稜の三山側を捲いてくぐっていた道が、西山稜を越すと、今までの砂塵帯から明るい草原の牧場となった。振り返ると先程登ったスフィンクス展望台がはつきりと望めた。のんびりと草原を散策後、クライネシャイデック駅より登山電車でアイガー北壁の裾を捲いてグリーンデルワルトに下り立った。

グリーンデルワルトは軽井沢に似ていて、日本人には人気の観光スポットだけに日本人が多い。日本語の看板が多く見られ、日本人向けの観光案内所もあり、日本人案内者が常駐している。そこを覗くと貸別荘の案内があり、1週間単位のレンタールで1人32000円とあった。そこをベースにして付近を周遊するのも一興である。夕食はスイス名物のチーズフォンデュを美味し、スイスの一夜を楽しむ。

9月17日

昨日の好天も明ければ小雨。当初計画の山上のバツハアルプ湖を巡るハイキングは、ガスで展望がきかないため変更して、グリーンデルワルトの街の奥からロー

氷河末端の展望台となっており、氷河見物をしていると氷河の上から3名の登山者が対岸に下りてきた。そのまま対岸は下降不可能でどうするのかわっていると、対岸との間に架けられたワイヤーを利用してチロリアンブリッジの登攀技術でいとも簡単に渡ってきた。この天候でも登山者がいたのである。我々一同も無事に下山したが、小雨のなかでの氷河末端見物ハイキングは十分に楽しめて好評であった。

帰途はこの旅初めてのバスにてホテルへ戻り、今回のスイスアルプス・ハイキングは無事終了した。

9月18日～9月19日

早朝グリーンデルワルトを発ち、乗換駅のブリック駅前生協で日本では円に換金できないスイスコインを全て使って名産チーズを購入し、チューリッヒ空港での我々日本人に対する出国手続は入国時と同様フリーに近く、13時30分、タイ航空にて帰国の途についた。翌19日、中継地バンコックを経由して20時に関西空港に無事到着し、感動連続の旅は終わった。

（平成18年9月11日～19日行く）

京都北山を歩く ●ミニガイド (第2回)

エリア別徹底研究

陽春、新緑の森と渓谷を歩く5コース

■村田 智俊



陽春の山ミニガイド

京都北山の山々を四季を通じて歩いてみませんか。

今号は雪解けの早春から、野の花咲く春たけなわに歩いてみたいコースを五つ紹介し、そのいくつかのコースは、村田が案内する山行計画に組み込んでいます。ガイドを読まれ、興味をもたれた方は、ぜひご参加ください。

最近、京都北山にも梅雨どきになれば山ビルが多く出るようになりました。今回紹介する「皆子山」「廢村八丁」「山村都市交流の森」は、夏に歩いて山ビルに出くわした山域です。山ビルに会わない春に行くことにしましょう。

*北山の奥地の春は遅くて、早春には残雪もあり、花の開花も見られないかもしれません。新緑と渓谷が美しいコースも選びました。このガイド記事と参考図を見て、お友達と連れ合って歩いてみてください。

コース① (一般コース)

ツボクリ谷から皆子山

皆子山(△971.5m)は、京都府一番の標高の山で、雪解けの頃になると無性に登ってみたいくなる山である。

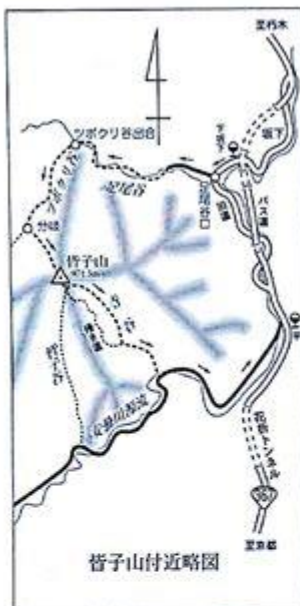
JR堅田駅からは江若バス、京阪出町柳駅からは京都バスで朽木方面行きのバスに乗り、下坂下バス停で下車。バス停から旧道を戻るように足尾谷口まで歩いて足尾谷の林道に入る。

発電所を見ると林道が終わり、谷沿いの道を行く。ツボクリ谷出口はややわかりにくいので、道標を確かめながら進め

う。林道の入口から40分ほどでツボクリ谷出口に着くことを意識しておけばよい。道標から左の河原にくだり、大きな岩のある所がツボクリ谷との出口である。

ツボクリ谷は、岩から岩へと続くややスリルある登りで、つめて行くのに苦労するが、ゆっくり行けばたいしたことない。途中に丸木橋もあり、早春のせせらぎを聞きながらつめて行く。流石のある大きな滝があり、それを過ぎるとややゆるやかなり、やがて二つの谷が合流する。トチの太木が立つ地点にいたる。道標やテープを確かめて皆子山へは左の谷に入る。右の谷は廃道に近く、ツボクリ谷をつめて尾越へ行くので注意しよう。左の谷に入っていくと急登になり、谷

皆子山付近略図



水が無くなって樹林のなかを木につかまっの登りとなる。登り切るとやがて皆子山の山頂で三角点がある。京都府の最高峰とはいえず、樹林のなかの北山の一角で、

展望は期待できない。

下山は、皆子谷コース・寺谷コースがあるが、くんだりやすい寺谷をすすめる。

皆子谷は15年前にくださったが、一部危険な箇所があり、以来くだったことがない。

寺谷コースは、山頂から南へしばらく行くと、左側に谷に下りる急坂の道を見る。これが寺谷への下り口で、源頭部は岩の多い谷なのでゆっくりくだろう。やがて歩きやすくなり、途中、右に皆子山へ寺谷を捲いて登っている分岐にいたる。この道も使ったことがあるが、イバラの多い草やぶの道であった。

あとは、寺谷を安曇川源流に出て、対岸の車道に渡り、のんびりと平バス停までたどる。

△コースタイム

JR堅田駅(バス40分) 下坂下バス停(10分) 足尾谷口(40分) ツボクリ谷出口(1時間) 谷分岐(50分) 皆子山(5分) 寺谷下り口(1時間) 安曇川源流(30分) 平バス停(バス35分) 堅田駅

△地図▽昭文社「京都北山」

*江若バス ☎077(572) 0374

*京都バス ☎075(871) 7521

コース② (一般コース) 花背から雲取山

鞍馬から上ってきた出町柳駅発の京都バスは、花背峠を越えて花背集落にくだつて行く。峠の東窓からは北山の峰々が若葉色に染まり、いかにも北山の奥にきた感じで、春の到来も先のような。雲取山へは花背高原前バス停で下車する。

バス停から校舎を右に見て林道を登って行く。廃屋のある旧スキー場を左に見ながら林道をなおもつめ、約15分で林道が終わり、山道に入っていく。細い谷沿



いを行き、やがて右の山腹を捲くように登って、支尾根を越えてゆるくたどると、寺山峠にいたる。

寺山峠から5分もくれば一ノ谷に出合い、雲取山へは、右への谷沿いの道を行く。雲取峠までは30分でのんびりと風景を楽しみながら行こう。途中で分岐する所もあるが、いずれも左へ行く。

雲取峠は北山の峠らしく広々としていて、自然林の芽吹きが美しい。以前は周囲にササが繁っていたが、今は枯れてすっきりしている。峠をまっすぐくぐって行けば廃屋川に出るが、雲取山へは左上にのびるよく踏まれた道をたどろう。いったん尾根を乗り越すようにしてくだり、登っていけば雲取山(△911・1計)の山頂に出て、三角点広場がある。

下山は、三ノ谷コースと二ノ谷コースがあるが、二ノ谷にくだるほうがよいだろう。始めは急坂で谷に一気に下りるが、立命館大学ワンゲル小屋まで下りれば水場の広場があつてくつろげる。三ノ谷はややきついなと思う。

ワンゲル小屋から下の二ノ谷沿いは快適で、自然林の北山の雰囲気は清流も美しい。小屋から30分で一ノ谷に出合う。

コース③ (ロング一般コース) ダラノ坂から音峠・沢ノ池

出町柳駅から京都バスの雲ヶ畑岩屋橋行きに乗り、白梅橋バス停で下車、白梅橋を渡って舗装の車道をカーブしながら上って行けば、持越峠に着く。車道は真弓集落へ下りていくが、ダラノ坂は、左(南)にのびる林道に入る。

昔のダラノ坂は、ここから登山道があり、尾根をたどったものだが、林道が出来、灌木が生えて消えかけている。白木谷山(△565・6計)までなら今でも歩けるが、先は登山道が林道で寸断されていて苦労する。あとは林道をそのまま終点まで行くほうがよい。右手には愛宕山方面の展望が広がる。



林道終点まで来ると、昔からのダラノ坂道が樹林のなかに続いている。これからはハイキング道になって道標に導かれて水室にいたる。水室は高原の村落でほととす。辻には可愛い地藏堂もある。昔は雪を地下に保存し、真夏に水を宮廷に献上した所で、水室神社がある。

水室から京見峠までは車道で行く。水室神社を過ぎすと二分する。右の道へ上って行く。峠近くまで来ると右に城山(△479・8計)があり、車道から少し登ると山頂で、樹林のなかに広場があるのでお弁当によい。

峠をくだって、杉坂への車道を右に分けしばらく行くと、京見峠の茶屋だが、手前に右に入る山道を見る。これが沢ノ池への道で、尾根を越すと平坦な捲き道になり、左側が大きく開けた展望地もある。林道に出合いしばらく行き、道標や

昨年の11月の例会で、この出合まで、雲取峠から雲取山への途中の尾根を伝って見たら、ちょうどこの合流地点に下り着いた。やぶも消え、展望の良い所があったので、出合から北にのびる尾根を地図で読んで一度挑戦されたらよいと思う。

さて、この出合から左折して一ノ谷をつめて行けば約20分で朝、寺山峠から下りて来た地点にいたる。つめるといっても広い平坦な道が続く、幾度か浅い谷を渡りながら、のんびりとたどって行ける。道筋の草原には春の花が多く咲いているだろう。

あとは、寺山峠に登り返して、そのまま花背高原前バス停にくだる。

▲コースタイム▼

京阪出町柳駅(バス1時間20分) 花背高原前バス停(15分) 林道終点(20分) 寺山峠(5分) 一ノ谷分岐(30分) 雲取峠(20分) 雲取山(20分) 二ノ谷・立命館大学ワンゲル小屋(30分) 一ノ谷出合(20分) 一ノ谷・寺山峠分岐(10分) 寺山峠(30分) 花背高原前バス停
 ▲地図▼昭文社「京都北山」
 * 京都バス ☎075(871)7521

テープを見ながら左の山道に入って徐々にくだって行けば、上ノ水峠の東海自然歩道に出合う。

南へ沢ノ池を自指して車道をたどる。沢ノ池東畔で休憩をとり、南へすし登って、十字路を右にとれば高雄への道。まっすぐ行けば、白砂山の東を捲いて鳴滝の三室寺バス停にくだる。西に高雄への道を行こう。

しばらくは沢ノ池の西側を廻り込むように行き、分岐を左にとつて急坂の道へくだって行くと、作業小屋がある福ヶ谷林道に下り立つ。あとはJR高雄横ノ尾バス停まで林道をくだって行けばよい。

▲コースタイム▼

出町柳駅(バス1時間) 白梅橋バス停(15分) 持越峠(1時間) ダラノ坂の林道終点(30分) 水室(15分) 城山(10分) 京見峠分岐(1時間) 上ノ水峠(15分) 沢ノ池東畔(5分) 十字路(1時間) 作業小屋(20分) 高雄横ノ尾バス停(バス1時間) 京都駅
 ▲地図▼昭文社「京都北山」
 * 京都バス ☎075(871)7521
 * JRバス ☎075(672)2851

コース④ (一般コース)
ひろがわら さいもん はつちよう
広河原から廃村八丁



廃村八丁は、よく知られたハイキングコースだが、夏場に行くと山ビルが多く出て難儀する。昔、私は夏に鴨瀬芦谷山からコシキ峠へ出て、八丁川を沢歩きで通ったことがあるが、山ビルが多くいて

大被害にあった。今では廃村八丁の休憩広場にまで勢力を拡大しているようだ。京阪出町柳駅から京都バス広河原行きに乗り、終点の一つ手前の菅原バス停で下車。橋を渡って飼犬に吠えられながら、左にオリ谷を分け、ホトケ谷の林道に入っていく。やがて林道が終わる頃、谷道と尾根道に分かれ、左へ尾根道を登って行こう。登りの道だがたいしたことはない。やがて尾根上をゆるやかに伝う道となり、下から登ってきた谷道と出合い、あとはダンノ峠へジグザグと登りつめる。

ダンノ峠でひと休みし、カツラ谷へくだって行く。同志社大小屋を過ぎすと、分岐し、左は刑部滝へ行くが、下りが急で危険なので、このコースは帰路に使うとして、右の四郎五郎峠へ行こう。

峠を越して、谷沿いをゆるやかにくだって行くと、左からきた刑部谷のコースと出合い、すぐに昔土蔵のあった廃村八丁の休憩広場に着く。草が生え芝生の公園のようになっていて大勢が寛げる。

昭和9年の豪雪で山奥の八丁集落が孤立して飢餓状態になり、それ以来住民が徐々に他所へ移り、ついに昭和16年に廃

村になったという。山に囲まれた狭地に平和でのどかな生活があったと想像される。私が、20年前に初めてここを訪れたときは、土蔵も残っていた。ダンノ峠に在していたのを覚えていた。ダンノ峠・ソトバ峠・トラゴシ峠・コシキ峠・品谷峠が周囲にあり、生活道が周りの集落と峠で結ばれていたことだろう。

広場で楽しいお弁当のひとときを過ごし、廃村を散策したら、帰りは刑部谷から下山しよう。刑部谷に入って流れに沿ってゆるやかに行くと、左に刑部滝を見る。滝を過ぎると奈良谷を渡って急な坂道を登って行く。昭文社の地図を見ると、「シヤクナゲ群生」と記され、岩場のような所もある。

登り切って、朝来たダンノ峠からの道に出合い、往路を菅原に戻ればよい。

コース⑤ (一般コース)
山村都市交流の森



花背八折町に自然の森を生かしたハイキングコースが整備されている。コース上には「野鳥の森」「こもれびの森」「緑風の森」「みやびの森」「天神の森」「古道の森」「展望の森」などと名付けられたエリアがあり、新緑の頃に歩いてみれば満足するハイキングが楽しめるだろう。

京阪出町柳駅から京都バス広河原行きに乗り、終点の一つ手前の菅原バス停で下車。橋を渡って飼犬に吠えられながら、左にオリ谷を分け、ホトケ谷の林道に入っていく。やがて林道が終わる頃、谷道と尾根道に分かれ、左へ尾根道を登って行こう。登りの道だがたいしたことはない。やがて尾根上をゆるやかに伝う道となり、下から登ってきた谷道と出合い、あとはダンノ峠へジグザグと登りつめる。

ダンノ峠でひと休みし、カツラ谷へくだって行く。同志社大小屋を過ぎすと、分岐し、左は刑部滝へ行くが、下りが急で危険なので、このコースは帰路に使うとして、右の四郎五郎峠へ行こう。

峠を越して、谷沿いをゆるやかにくだって行くと、左からきた刑部谷のコースと出合い、すぐに昔土蔵のあった廃村八丁の休憩広場に着く。草が生え芝生の公園のようになっていて大勢が寛げる。

昭和9年の豪雪で山奥の八丁集落が孤立して飢餓状態になり、それ以来住民が徐々に他所へ移り、ついに昭和16年に廃

停で下車。東にのびる車道を峰定寺へ進み、なおも寺谷の林道を奥へ入る。キャンプ場を過ぎると、右へ三本杉へいたる林道を見るが、なおも寺谷林道を行く。やがてナメラ谷出合に道標があり、ナメラ谷林道に入る。この道は峰床山への道でもある。やがて林道が右へ分かれ、自然林のなか、快適な登山道となる。このあたりが「野鳥の森」エリア。やや急な登りになった所で林道上部に出て、横切って登ると依坂峠に着く。左折すれば峰床山へ行くが、交流の森へは右折して南に尾根上をたどる。ピークを越え、くだって行くと森の管理道に下り立つ。

管理道を西にくだって行くと道標があり、左側に上っていく遊歩道を見るのでこの道に入る。静かな森のなかをゆるやかに登って行く。

871号峰に登り着くと広場があり、南に大展望が広がる。このあたりが「こもれびの森」で、お弁当にしよう。

ここからは「天神の森」のピーク(△715・6号)を目指して尾根上の広い遊歩道を行こう。多少のアップダウンを繰り返しながら、途中で林道や下り道に出合うがとにかくまっすぐ行く。三角点

岐阜県内ルート

柴田昭彦

【岐阜県の旗振り場】

岐阜県図書館での調査（平成18年7月8日）では、新たな旗振り場が羽島市で見つかった。また、未見の資料も発掘することができたので紹介しよう。

〈大垣市の旗振り場〉

『新修大垣市史 通史編一』（昭和43年）には次のような記述が見える（645頁）。大垣藩は、大阪中之島に葦屋敷を設けていたが、その起源は明らかでない。享和二年八月、はじめて米会所を大垣魚屋町に設け、米穀の取引を開始した。米会所は、運上として年々金六〇兩を藩に収納した。多度山頂に中継所を設け、手旗

信号により、桑名の米相場を大垣に通報したのも、この時からではまった。文化・天保のころには、農民の米穀延商いを禁止するほか、農民が商業に従事することを禁じた。」

享和二年は、1802年である。文化（1804～18）、天保（1830～44）の時代の様子がわかる。

〈羽島市の旗振り場〉

『江吉良郷土史全』（昭和33年）は、昭和29年に合併して、羽島市江吉良町・舟橋町となった郷土江吉良の歴史を綴ったもので、次のような興味深い記事がある（71～72頁）。

て身振り勇ましく、八十五才とは思えぬ若々しさで実演して下さった。」

この相場振りの行われた江吉良堤の辺りは、明治33年ごろまで、郷土の中心地であった。長良川よりの舟運の便があった、堤の水除神社から東へ一町（約1000m）ほどの官有地は舟付場（今場、江吉良港）であった。

逆川は江吉良町と竹鼻町狐穴の境界をなし、水除神社に沿って北流していたが、大正時代の改修工事で二町（約2200m）ほど東へ変わり、元の逆川は今日では小さな排水路になっている。

相場振りの行われた場所は、安楽寺の南100mで、今では、長谷虎紡績の工場が建っている。岐阜羽島駅の東方1.5kmである。

信号に用いた旗の大きさは、縦1.2m、横1.5mぐらいということになる。

『羽島市史 第三巻』（昭和46年）には、次のようにあり、続けて「江吉良郷土史全」の「堤の相場振」の内容もダイジェストして紹介している（452～453頁）。

「江吉良堤の相場振 明治二、三〇年頃、桑名米穀取引所に於ける米穀上場相場は、

【第八節 堤の相場振】

郷土の堤は明治の中期迄は大変繁盛して居た。それには色々な理由もあろうが、名古屋・大垣間の近道であった事と、又安楽寺南約一〇〇米（一町）の堤の上に、「相場振」のあった事を見逃してはならない。

大きな商売をするには、他の商人より大都會の相場を早く知る必要がある。

堤の相場振りは、その重要な役目をはたして居た。この相場振りとは一人だけ運入れる小さな小屋の中に、遠眼鏡を据え付けて、桑名の相場を受けて、岐阜の権現山に向つて中継したものである。

当時この相場振り師であった、八十五才の一夜土手の安田おじゆんさんは、老の眼をしばたき乍らその時の有様を次の様に、詳しく話して下さった。

私の夫、辰次郎は昔の江吉良堤の「相場振り師」で日曜祭日の外は毎日旗を振つて居りましたが夫が若死を致しましたので私は亡き夫に代つて旗を振りました。旗振りは絶対間違えてはいかぬのと、又旗の重いには始めは困りましたが、小さい子供の顔を見て頑張り通しました。

多度山と壱坂山へ向けて旗信号で連絡していた。

多度山から岐阜の権現山へ連絡する中継所は、江吉良堤であった。」

『江吉良・舟橋郷土史 第二巻』（平成4年）には次のような記述があり（176頁、旗振りについて要領よくまとめられている）。

「江吉良堤の相場振り師 むかし羽島市江吉良町の堤には、商品相場を手旗信号で知らせる（相場振り所）があった。」

「当時、東京、大阪などの大都會の商品相場は、すべて桑名へ入ってくる仕組みになっており、桑名からまた名古屋へ伝達されていたのである。この相場振りは、電信が通じるまで行われていたが、ちなみに江吉良町にはじめて電話がひかれたのは明治四〇年（一九〇七）のことである。下中町の戸谷家の近親者にも相場振り師があったということである。」

〈岐阜市・北方町の旗振り場〉

江吉良堤での旗振り伝承からわかるように、桑名の米相場は、多度山三本杉から堤で中継して、岐阜の権現山に伝えた

旗振りとは、東京、名古屋、大阪の相場が桑名に集りそれを多度山の三本杉から、岐阜の権現山へ報告する、江吉良はその中継所でありました。会社から縦四尺に横五尺位の純白の旗と、延び縮みの出来る遠眼鏡と、旗の振り方の符牒の書いてある本が来て居りました。

堤の上の相場振り場で、遠眼鏡を私の目に合せて時間の来るのを待つて居りますと、多度山の三本杉から、本の符牒の如く、大きく右に二週りで開始、左に一つが東京の米相場、上に二つは高くなつた。横に大きく一つと小さく四つは米一石が十四円と云う様に振つて来ました。

相場は大切なものですから、先方の振つた通り振り返して、間違なしと確めて記録し、今度は岐阜の権現山へその通り振つて報告したものであります。

又この相場を近くの相場に關係のある店へ御知らせして、その店から大変喜ばれたものです。この相場振りは電信の出来る迄続きました。

と安田老母は五十有余年前の事を憶い出して、昔の白い旗の代りに棕櫚箒を振つ

比叡山1000年の道を歩く

【付】「東山」の山なみ

竹内康之著 A5判並製 一六八〇円
比叡山の諸堂へと続く古道や峠道は、千年の歴史で踏み固められたやさしい道として訪れる人達を待っています。誰でも登れる、晩秋から初冬の陽だまりハイキングに最適。

大峯奥駈道七十五靡

森沢義信著 A5判上製 二九四〇円

吉野から熊野まで大峰山脈を縦走して続く修験道の究極の道「奥駈」を著者自らが探査して、靡・行所・登山道の現況を豊富な写真と地図で紹介。奥駈計画案内付。

★表示の価格は5%税込です

ナカニシヤ出版

http://www.nakanishiya.co.jp/

京都市左京区一乗寺木ノ本町15
☎075-723-0111 〒606-8161

侵入を監視して狼煙をあげた所と言われる、濃尾平野が一望出来る展望台、名古屋の米相場を尾張の小牧山から旗信号で受けて、美濃、飛騨地方に知らせたという、のべり岩等がある。」

この「のべり岩」と「小牧山」については、本誌90号のコースガイドで紹介しておいた。小牧山には旗振り伝承は残されていないようである。

なお、齋藤氏が「郷土の新しい史観」で記録しているように、その聞き取りに間違いがなければ、各務原市鷺沼の伊木山でも旗振りが行われたようである。立地条件から判断すれば、岐阜の相場山からの信号を伊木山で中継して、犬山に伝えたとなれば、大きな矛盾はないのではないだろうか。

ただし、今日、大山市や各務原市に伊木山での旗振り伝承は残されていないようである。

【静岡県の旗振り場】

平成13年に静岡県立中央図書館に依頼して、旗振り通信に関係する郷土資料がないかどうかを確認してもらったことがある。結果は、見当たらないということであった。

静岡県立中央図書館での筆者による郷土資料の調査(平成18年7月15日)でも、それを裏付ける結果となった。

「旗振り山」で参考資料として掲載した、「相場通信に利用されたる旗振信号の沿革」(通信協会雑誌)第六八号、大正3年2月刊、雑誌26(27頁)には、旗信号通

仲買人の番頭達で混雑したものだ。」
明治中期、浜松では電信の利用が盛んであったことがわかる。

浜松市の郷土史家、神谷昌志氏に問い合わせたところ、「旗信号が行われていたとする記録は残っておりません」との回答であった(平成18年7月24日付返信)。

『豊橋市史 第三巻』に見える「嵩山の山上へ伝え浜松へ通じた」という記述を裏付ける資料も、静岡県側には残されていないようである。明治は遠くなりにけり……。

【京都府の旗振り場】

平成18年6月12日、HP「ガルドの日帰りコラム」に、次のような記載を見つけた。

「京都51 八坂の塔(法観寺)」
「この塔の歴史では、江戸時代、五重まで登ると京を一望できることから、監視所や、米相場を伝える手旗信号を読み取るための塔として重宝されたそうである。」

HPの管理人に尋ねて判明した出典を、7月22日、京都府立総合資料館で調べて

みたところ、「週刊京都を歩く 第2号 清水寺周辺」(講談社、平成15年7月)の16頁で見つけることができた。

「現在上ることができるのは二層までだが、五層からは京が一望できるほどの眺望を誇る。そのため江戸時代には、監視所としてや、米相場を伝える手旗信号を読み取るための塔としても重宝されたという。」

八坂の塔は、高さ約46層の五重の塔であり、東山一帯のシンボルとされる。飛鳥時代の創建とされるが、たびたび炎上し、その度に再建されてきた歴史を持つ。

『新撰京都名勝誌』(大正4年)によれば、「一書に、六波羅全盛時代は、此の塔を以て軍兵の遠見所に供せしといふ」とあり、鎌倉時代の軍事利用の様子が伝えられる。

五重塔内部の二つの階段は相当摩滅しており、江戸時代には絶好の展望台として、多くの観光客に開放されていたことをうかがわせる(『京都市の地名』平凡社)が、米相場の信号所であったことを伝える記録は、筆者の知る限りでは、「週刊京都を歩く」だけである。

信の行われた箇所として、「東は静岡、浜松、岡崎、豊橋、名古屋、桑名、四日市、津、松阪、山田、岐阜、大垣」とあるので、静岡、浜松でも旗振り地点が見つかってもよさそうなものだが……。

『浜松市史三』(昭和55年)には、浜松米穀取引所(利町の五社小路に明治27年開所、同34年廃止)についての簡単な記述がある。

大家克美・神谷昌志『はままつ百話』明治・大正・昭和(静岡新聞社、昭和58年)には、浜松米穀取引所があった当時の様子を伝える、次のような一文がある。

「取引所は」各地から米を積んでくる大八車でこったがえした。当時、伝馬町にあった電信局の窓口は米相場を打電する

【おわりに】
今回で、ひとまず、旗振り通信の新研究の筆を擱くことにする。

「旗振り山」の出版で一区切りを切ったはずの旗振り場の探査が、愛知・岐阜地域について、これほど進展するとは、夢にも思っていなかった。

HP「小扇番の山日記」で貴重なアドバースをいただいたおかげである。西山秀夫氏に感謝申し上げます。

白子の海岸から、伊勢湾を越えて、ひとのぞきで知多半島へ、そして東海道沿いを送信したという、文化文政時代のルートについては、資料不足で空想の域を出ない。

旗振り通信の新資料発掘の暁には、再登場もあろう。それではまた。(おわり)
(平成18年8月14日成稿)

連載

三角点を訪ねて ④5

中央分水嶺を歩いて

畑ヶ岳から大岩山へ

おおいわやま

丹波

磯部 純

この日の山行では、東胡麻を出発点に中央分水嶺上を畑ヶ岳、大岩山を越えて海老坂まで歩いた。この間の距離は地形図で見ると相当長い、畑ヶ岳から大岩山の間は巡視路があり、また、海老坂から西へは林道がのびているので、思っていたより時間がかからなかったが、大岩山の東の尾根が台風の影響か、荒れていたう寸断されており、予想以上に苦難を強いられ、時間をくってしまったのは誤算だった。

四条大宮へ7時に集合し、三台の車に分乗して東胡麻の道広場を目指す。京都縦貫道の老ノ坂トンネルを抜けると亀岡盆地は一面の霧。この日の天気を心配し

たが、園部町に入ると霧は晴れ、陽が差してきた。園部インターで川西市から来た彼と合流し、東胡麻の道広場で最後に高根の住人が到着して、東胡麻から北へのびる林道奥の池広場へ移動する。この日の参加者は12名。歩くのは10名で、2人がサポートとして車移動を引き受けてくれた。

出発は8時30分。林道を奥へ歩き、「火の用心」の標識から尾根に取り付く。転げ落ちそうな急勾配の尾根を一步一步登って行くが、登り始めて間もないのに、先頭を登る3人の姿はすぐに見えなくなってしまう。やっと鉄塔まで登り着いたが、歩き始めて20分でここまで登ったことを

脇に2等三角点が立っている。点名「胡麻郷村」である。その北側にはヘリポートだった広場があり、そのまわりのアセビの花が満開。天気は上々だったがモヤがかかり、東に見えるはずの愛宕山の姿はハッキリとは見えなかった。

9時30分、分水嶺に第一歩を踏み出す。尾根には巡視路が通っていてやぶは無い。あたりは雑木林の尾根だったが、急坂をくだり、登りかかると左槍、右雑木の尾根に変わる。急な坂ではなかったが、「フウフウ」言って登って行くと、それ



畑ヶ岳・大岩山付近略図

を笑うようにカラスが「カア、カア」と鳴いているのが腹立たしい。槍の林もピークが近くなると、いつしか全面雑木林に変わっている。巡視路は小さなピークを捲くように付けられていて、ほとんどの人達は巡視路を歩いたが、後ろのほうを歩く物集女と高根市の彼女2人が、「正確に分水嶺を歩く」と言って、尾根を登って行ったが、巡視路が尾根にのった地点で待っていても、なかなかくたてて来ない。

これはおかしいとピークへ登ってみると、別の方向へ下りかけている2人。それを引き戻さなければ行方不明者を出し、ウロウロしなければならなかっただろう。せつかく巡視路を歩いてピークを捲いて近道を歩いたのに、ピークまで登らなくてはならないとは、巡視路を歩いた意味がなかったと2人にブツブツ。

ゆるくくたてて登り返すと標高点587mのピーク、まだ畑ヶ岳から1.5しか歩いていない。この独標で一回目の休憩をとる。ふと見ると地面にサンガラスが落ちている。こんな尾根を歩く人がいるんだと感心し拾い上げると、「それは私の物。そこへ置いていただけなんだから」

畑ヶ岳の2等三角点



知り、意を強くする。この先勾配はゆるくなり、自分の吐く息の音と、アカゲラのドラミングの音だけが静けさのなかに響き渡っていた。いくぶん余裕が出てあたりを見廻しながら登ると、上に咲いているピンクのアセビの花、ダンコウバイの黄色い花が目に残る。畑ヶ岳へは予定より早く、9時20分に到着できた。標高587・9mの山で、一番高い所の道

と言って、サンガラスを持って行く太秦の彼女。どうみても落とし物とは思えなかったのに、落として気がつかなかったとは言いたくなかったようだった。

ピークをくだると、鞍部には太いモミの木が何本も立っている。再び雑木林の尾根を歩くと、やがて標高点614mの山頂。そこにもモミの木があり、太いミズナラも立っている平坦なピークだった。さらに巡視路を北へと歩く。巡視路は小さなピークを捲くように付けられているが、先頭の地図読み人は、珍しくも正確にピークを踏むようなことをせずに巡視路を歩いて行く。四つのピークを捲いて、最後の急坂を登ったピークが標高点686m。すでに11時を回っていたが、昼食には早すぎ、先を急ぐ。

独標から北へ急斜面をくだると、鞍部で左からきた林道に出合う。ここから体力を温存したい年寄り組3人が林道を歩き、他は生真面目に尾根を踏んで行く。500mも林道を歩くと尾根が切れ、古い峠があった。そこには道標が立てられ、東向きの板には「四谷」と書かれている。地形図にある破線の道の峠にしか思えないが、道標が立っているのは、地形図の

破線より谷三つ北の位置であり、どう見ても地形図の破線は間違っている。

この峠は南の日吉町海老谷から美山町の脇谷へ越す古い峠である。峠に名前は無く、金久氏が谷の名前から脇谷坂と呼んでいる所である。海老谷から上がってきた道は、この峠から北にある標高6377呎から西へのびる一ツ目の鞍部へと、斜面を横切るように道が付いていたというが、今では林道が出来て、古道の痕跡は消されてしまっている。

ここからも2人は引き続き林道を歩き、1人が分水嶺歩きに加わる。林道を歩き、小尾根を廻り込むと、尻尾の先まで30呎もあるようなリスが、不思議そうな顔をしてこちらを見ている。カメラを構えると、素早く崖の上へ駆け上がった。左からの林道を見て、右手へ100呎も行くと、尾根は林道で分断され、標高6377呎から急斜面の崖状になって林道へ落ちていく。この独標で昼食の予定だったが、ピークには広場もなく、尾根を歩いた人達に林道までくだってもらい昼食にした。

暖かい日差しの中、側溝へ足を突っ込み、太陽を背にして一列に並んでの食

もらうしかなかった。落とし物が無いようにと願っていたが、格言通り二度あることはやはり三度起こってしまったのである。

大岩山から東へくぐると、尾根には雪が残っており、雪を踏んでの歩き。近くのやぶからウグイスの鳴き声も聞こえ、春の到来を告げている。そこを過ぎるとやぶをかき分けての歩きとなる。尾根は下りにかかるが、前を歩く人達は巡視路と間違ったのか、歩きやすい尾根上の道を進んで行く。このまま進めば間違いなく南へのびる尾根へのってしまおうと判断し、そこで待っていると、やがて、バツの悪そうな顔をして背が戻って来た。ピークまで引き返し、尾根を左へ向かい、イワウチワの群落を踏んでゆるく登って二ツ目のピークが標高6566呎。ここに立つと、木々の間から今踏んできた大岩山の送電線鉄塔が間近に見えていた。雷の付いたシクナゲの尾根を通り、次のピークから南へ、雑木林の急斜面をくだり切ると、林道へ下りた。道脇にはマンサクの花が我々を迎えてくれた。

ここから海老坂までは、分水嶺歩きにこだわる彼と、太秦・物集女の女性2人

事。太秦の彼女1人だけが、拗ねたように離れて坐っているのが気にかかる。ゆっくり食べ終わって、林道から西の方を眺めると、眼下に大野ダム湖の一部が見下ろせ、その向こうには和知富士や恐入道が横たわっている。その時、遠くがよく見えるという物集女の彼女が、道に落ちている光る物を見つけた。それはライターで、山科の彼が落とした物だとわかった。この日はこれで落とした物は二つ目。二度あることは三度あるので、もう一度落とした物がないことを願って、12時40分、忘れ物のないことを確認して、最後に出発した。

急斜面の尾根に取り付く。この尾根には巡視路があってもよいはずだが、尾根には全く踏み跡も無いやぶ尾根。やぶをかき分けて登り、ピークから東へくぐると、北斜面に雪が残っているが目に入る。鞍部から東のピークへ登ると、北斜面は切り立つような伐採斜面で、稜線には鹿避けのネットが張ってある。尾根を歩いて行くが、先を行く6人の姿は見えない。尾根には倒木あり崖崩れあり、大岩が行く手を遮り、ルート選びに苦勞し、遅々として進まない。わずか10人の

が尾根を歩いて、残りの7人はすぐ尾根下の林道を歩いて海老坂へ。途中、崖崩れで林道が塞がれていたが、林道歩き組は15時35分に海老坂に着き、ゆっくり休みながら3人待った。

この海老坂は、日吉町海老谷から美山町板橋へ越える峠である。この峠の名前は、峠を挟んで北へのびる谷の海老谷と南に海老谷と呼ぶ集落があることから名付けられたもので、東にある神楽坂、西の脇谷坂と共に、昔の若狭街道の重要な峠であった。切れ込んだ峠の西面には如意輪観音が安置された小さな社がはめ込まれ、その上には2層程の高さの立派な宝篋印塔が立っている。13年前にわざわざこの塔を見るためだけに、この峠へ登って来たことがあるが、その時と全く変わっていないように思えた。峠の東側には、「従是南船井郡」と彫られた古い石柱が立っている。

15時50分、3人が到着し、ひと休みしてから南へくだる。杉林のなかにジグザグに刻まれた道は、歴史の流れを物語っているようにも思える。坂をくだり切ると、小さな寺の本堂はともある地藏堂がある。これが玉岩地蔵で、八百比丘尼の

パーティだが、先頭グループと離れてしまうと、後を歩く者はこんなにも苦勞するのかと腹が立つてくるほど。四苦八苦して大岩山へたどり着いた時、思わず先頭の彼に「後の者が離れないように気を配って歩いてくれ」と文句を言ってしまった。

大岩山三角点は、紅白の送電線鉄塔の東ピークに立っている。標高758・3呎で、点名は「四ツ谷」。この山の南にある三角点571・1呎の砂迫と同じ点名の山である。標石はしっかりと真南を向いているが、西南の角が4呎程欠けている。山頂からの展望は木々の間から北方をうかがうだけだが、左手間近に長老ヶ岳があり、その右手に見えるのは地藏杉山。右手奥に雪を被った頭巾山が見えている。

ここまで来れば、後はほとんどが下りの尾根。ホッとしていると、突然「時計を落とす」と山科の彼の声。元気な1人が「探しに行こうか」と言ってくれたが、あんな除害物競争みたいな尾根で落としたのでは、探しに行っても見つかるはずもない。高価な高度計付きの時計だったが、歩く時間が限られており、諦めて

持念仏を本尊にしていると聞く。比丘尼は持念仏を背負って諸国を巡り、最後に京都から海老坂を越えて若狭へ帰るとき、ここで急に地藏尊が重くなり「もう動くのは嫌。ここは良い所じゃから、この地に止まって衆生を濟度する」と言って動かなくなったので、比丘尼は持念仏を岩の上に安置して若狭に帰ったと伝えられている。これが玉岩地蔵の縁起だという。昔は若狭から海老坂を越えてこの堂に参詣するのが年中行事になっていたそうだが、今では堂守り人もいない寂しい堂になってしまった。

堂の下の玉岩地蔵の駐車場まで待ってくり、車を運送してくれたことに感謝し、16時15分解散とした。

(平成17年3月27日歩く)

△コースタイム▽

東胡麻池広場(1時間) 畑ヶ岳(2時間) 林道(35分) 尾根取付(50分) 大岩山(1時間30分) 林道(50分) 海老坂(15分) 玉岩地蔵

△地形図▽2万5千||胡麻・四ツ谷

安土城に信長の息吹を訪ねて

松永 恵一

信長の城

「人間五十年、下天の内をくらぶれば、夢まぼろしのごとくなり」永禄三年（1560）、謡曲「敦盛」を清洲城で舞った信長は、尾張に侵攻した今川義元を桶狭間で討ち取る。その後信長は支配地域を拡大させ、居城を次々と移した。

戦国大名はほとんど本拠地を動かさなかった。武田信玄は甲府の躰躰ヶ崎館、上杉謙信は春日山城、北条氏康は小田原城。信長だけが次々と本拠地を移した。斎藤道三亡き後の美濃攻略に乗り出し、清洲城から小牧城に移る。斎藤運興の稲葉山城を陥落させると岐阜城と改め居城とした。「天下布武」を目標に掲げ、京

都へ近づいていった。

天正四年（1576）、天下統一の拠点として琵琶湖畔の水運が便利な安土に大城郭の築城を開始する。長浜城に羽柴秀吉、坂本城に明智光秀を置き鶴岡とした。天正七年、世界で最初の木造高層建築といわれ、高さ約46尺の壮大で絢爛豪華な天主を持つ城は、ヨーロッパにまで紹介された。

信長は頻りに京との間を行き来したが、妙覚寺や本能寺を居館がわりにし、城も館も持たなかった。信長の目はさらに西国への進出を目指し、大坂を見ていた。天正十年（1582）6月2日、京都本能寺において、人生夢まぼろしと舞った男は、自らの遺骸さえ残さず消え去った。

安土城跡の大手道



安土城は本能寺の変の数日後、謎の出火により、天主などの主郭部分は焼け落ちた。その後も、信長の遺児信雄、信孝や孫の三法師が入城するなど、織田氏の居城として機能しつづけていたが、信雄を屈服させた秀吉が、近江八幡に羽の秀次を入れ、八幡城を築かせたことにより、安土城は「幻の名城」となった。

フロイスの記した安土城

イエズス会の宣教師ルイス・フロイスは「日本史」に安土城を記した。

信長は、山の頂きに宮殿と城を築いたが、ヨーロッパの最も壮大な城に比肩し得るものである。城の真中には、彼らが天主と呼ぶ一種の塔があり、我らの塔よりも遙かに気品があり壮大な建築である。この塔は七層から成り、驚くほど見事な建築技術によって造営された。内部の壁には鮮やかに描かれた肖像が埋めつくしている。外部は層ごとに種々の色分けがなされている。黒漆塗り、白壁、赤く、あるいは青く塗られており、最上層はすべて金色となっている。前列の瓦にはことごとく金色の丸い取付けがある。屋根には至極気品のある技巧をこらした形をした雄大な怪人面が置かれていた。

全体が堂々たる豪華で完璧な建造物となっている。これらの建物は相当な高台にあったが、建物自体の高さのゆえに、雲を突くかのように何レীগアも離れたところから望見できた。すべて木材で出来ているものの、内からも外からもそのようには見えず、むしろ頑丈で堅固な岩石と石灰で造られているかのようである。

信長の館

平成四年（1992）スペイン・セビリアで開かれた万国博覧会日本館のメイン展示は安土城最上層五、六階部分であった。安土町が譲り受け、信長の半生を表現した和紙人形とともに展示している。堺屋太一氏が総合プロデューサーをつとめ、内藤昌氏の考証により、当時と同じ材料と同じ手法で原寸大に復元されている。狩野永徳一門が描いたという金碧障壁画は、平山郁夫・上村洋之というトップクラスの日本画家が岩絵具を使った伝統的な手法で描いている。

五階は正八角形の「八角の段」と称し、宇宙を形どる。柱や天井はすべて朱漆に塗られている。柱にはのぼり竜、くだり竜の彫刻をほどこす。内陣には釈迦十大弟子が描かれ、外陣に面して阿鼻地獄図が金碧極彩色で描かれている。

六階は正方形で、外観は金箔で仕上げられ、内部は黒漆塗りである。「天子南面」する「四角の段」といわれ、中国創世記の帝王三皇五帝、老子・孔子・七賢人などを描く。

たたずんでいると天下統一の想を練った信長に近づいたような気がした。

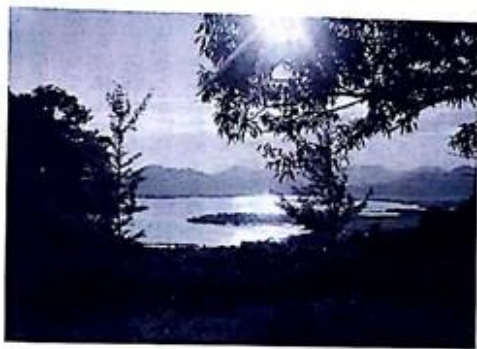
安土城考古博物館

「近江風土記の丘」の中心的な施設で、弥生時代の典型的な農耕集落である大中の湖南遺跡、近江の古墳時代の始まりを示す瓢箪山古墳を中心とした考古と、完成された中世城郭の観音寺城跡、近世城郭の幕開けである安土城跡と織田信長を中心とした城郭の二つのテーマで構成されている。

第一常設展示室は、滋賀県内における古代遺跡の紹介。直接手に触れることのできる木製品や鏡、銅鐸などの複製品や復元品を置いている。「しが太郎君の考古学研究室」の弥生時代や古墳時代をテーマにした考古クイズがおもしろい。

第二常設展示室は、中世の城づくり、戦国時代の近江、安土城と織田信長、近世の城郭をテーマにしている。映像シアターでは安土城発掘の成果や復元映像を放映している。

屋外学習展示施設として、重要文化財旧宮地家住宅（宝暦四年1754）、旧柳原学校校舎（明治九年1876）、旧安土巡査駐在所（明治十八年1885）や道標や常夜燈、車石、国分寺の礎石など、歴史を伝える資料がある。



安土城より琵琶湖を望む

コース概観
たぐいまれな才覚と抜群の行動力で天下を目指した織田信長。天下統一の拠点として築城した安土城は信長とともに姿を消した。石垣を多用して縄張りを行う近世城郭は、安土城築城に始まった。わが国で初めて天主を備えた木造高層城郭建築は、見る者誰もが目を見張った。安土城に残る壮大な石垣、信長の息吹に触れたくて出かけてみた。



が伝前田利家邸跡。直線の石段を登ると、左に曲がる。右手が伝徳川家康邸跡。徳見寺の本堂が建てられている。左手が信長の右筆の伝武井夕庵邸跡。石段には石仏や石塔などが多く使われている。さらさら上って行くと嫡子の伝織田信忠邸跡。すぐそばに伝織田信澄、伝森蘭丸邸跡。黒金門手前から意識的に何度も直角に曲げられている。堅固な虎口をほこる黒金門を越えると、通路が広くなる。自然石をうまく利用した壮大な野面積みの石垣が美しい。手を加えられず、当時の石

垣のまま残っているのは、この二の丸の石垣だけ。石段を上った左手は二の丸で信長廟がある。天正十年(1582)に京都大徳寺で信長の葬儀をとり行った羽柴秀吉が、信長の菩提を弔うために建立した。信長の二男信雄と一族の墓が残る。本丸跡は千畳敷ともいわれる。百箇以上の礎石が発見されている。内裏清涼殿と同じような建物が建てられており、天皇を迎える為の行幸御殿であったとする説が有力である。天主への階段を上がる。天主台は不等辺八角形。外観五層、内部は地下を含めて七階建てだったとわかっている。しかし外観、内部はわかっていないので、研究者によっていろいろな復元案が出されている。謎の部分が残っているのが歴史の楽しいところ。信長は天主に住んでいた。一、三、四階が信長と家族の居住、接客の空間になっていた。居住空間として利用したのは信長だけ。徳見寺へくだる。三重塔・樓門(二王門)が残る。信長は徳見寺を創建し、信長自らを地上の神の命をもつ不滅の主として祀り、礼拝せよと高札を掲げた。セミナリヨ、徳見寺、天主と直線に並び、本丸に清涼殿。信長の意図がくみとれる。

JR東海道本線(琵琶湖線)安土駅下車。駅前では信長公がお出迎え。駅の横のトイレの外観は、お城風。マンホールの模様は「永楽通寶」。線路沿いの道を西に進むと梅の川の湧水。信長の家臣・武井夕庵が難波より求めてきた珍茶を、この水で入れたところ、信長は非常に喜んで伝えられた。常楽水辺公園は、観音寺城の外港として栄えた地。周囲を水田に囲まれて静かな風景を見せる安土山(199.9m)は、昭和初期に埋め立てられるまで西の湖、常楽寺湖、伊庭内湖によって三方を囲まれた琵琶湖に突き出した半島であった。安土城は琵琶湖を堀と見立てた壮大な城であった。埋め立てられて小さくなった西の湖が、わずかに面影を残している。セミナリヨ跡。イタリア人宣教師オルガンチノによって天正九年(1581)に創建された日本最初のキリシタン神学校の跡。小字名は神ゼウスに通じる「だいうす」という。浅井氏を滅ぼし近江一国を併呑した信長は、丹羽長秀を奉行として安土城の築城に着工した。城は土で成ると書くように当時の城のほとんどは、土を掘って堀となし、土を固めて土塁とする土造りで

あったが、近江の石工集団に高石垣を築かせ、礎石を使い、天守閣(安土城の場合は天主と呼ぶ)を築き、屋根瓦を使った。「歴」を解体し築市築座とした信長は、一部勢力が支配していた技術を広く使い築城した。信長の死とともに幻のごとく歴史から消えた安土城は、特別史跡に指定され、発掘調査が進められている。安土城跡は徳見寺(臨濟宗)の私有地。見学無料であったが、平成18年9月1日より入山料を徴収している。開山時間は午前9時、最終受付は午後4時。見学コースは大手道口から上がり安土城跡を見て、徳見寺跡へ向かい仁王門をくだる。石部神社の上で通行止めになるので、百々橋口に出られず左に曲がり、森の中を通ると伝秀吉邸跡下段に出る。約2時間。大手道は大手門より一直線にのびる。道幅5.6m、約180m。道を曲げ、細くすることで敵の進入を妨げる構造にするのが常識ななかで、信長は金箔瓦・山頂にそびえる天主という見せる城を築いた。比高約90m。小牧城・岐阜城・安土城、信長は決して山を下りなかった。配下の長浜城や坂本城は平地に築かれた。大手道の左手が伝羽柴秀吉邸跡、右側

徳見寺本堂跡から望む西の湖の風景は一幅の絵のよう。
安土城に別れを告げる。東方の山は織山で、頂上付近には西国三十三カ所観音霊場の三十一番札所の観音止尊や佐々木・六角氏の観音寺城跡がある。安土城の南東、JRの線路を挟んで建つ安土城考古博物館・安土城天主信長の館を見学し、安土駅前安土町立城郭資料館を見学して、信長との一日を終えた。

▲コースタイム▼
JR安土駅(20分)安土城址(頂上まで約20分)(15分)安土城考古博物館・安土城天主信長の館(文芸の郷)(25分)安土町立城郭資料館・安土駅
△地形図▽2万5千118日市
△費用▽
安土城入山料 500円
滋賀県立安土城考古博物館 350円
安土城天主信長の館 500円
考古博物館と信長の館の共通券 680円
安土町立城郭資料館 200円
(問い合わせ先)
安土町観光案内所
☎0748(46)4234

〈山のレポート〉
山の地名を歩く②
「姥ヶ岳」
西尾 寿一

姥ヶ岳の「姥」は前号の「冠着山」の項で述べた通り、「姥と姨」があつてやや混乱している。山名辞典は「ウバ」、姨捨伝説では「オバ」が流通している。

漢字上の違いも前号「姨捨山」の項で説明したので割愛するが、山名では「姨」は少数派で、圧倒的に「姥」が主流である。オバには「伯母」が加わってくる。伯母ヶ峯(峠)・伯母子岳などが関西に存在している。

今回取り上げる「姥ヶ岳」は、両白山地の能郷白山の北方、越前側に派出する長大な稜線の一角にある1454坪のドーナツ形の山である。類似の山は数多く、特に大物として月山の肩に当たる1670坪の山が西側登山道近くにある。姥の字を用いる山は、他に北海道厚真町に「姨失山」があり、信州の姨捨と同じ漢字を使っているのが目をひく。

また、四国に「ウバホド山」があつて1482坪の無視できない標高をもつ山だ。カタカナを用いるから土着の名がそのまま残ったものと察するが、「姥のホド」とはものすこい名で圧倒される。いかなる理由によるものか、調査も今では困難だが、土俗の残影として好ましい。

以上述べてきた山にはいずれも登頂したが、やはり越前の姥ヶ岳が山の風格で一步抜き出ているように感じられる。月山と越前の姥ヶ岳は共によく似た位置にある。主峰の脇に御供のように静かに座しているのは特異な形態と認識させられる。姥は連なる、あるいは群峰の主峰ではなく、あくまで脇役として存在するのである。

次の特徴として、特筆されるべきは山深い位置に存在することである。人里に近い前衛の山ではなく、相当深山に入らねば出合うことのない山であることだ。以上の二件の特徴は、「姥」のもつ決定的な他との異差であり、この点を突破口として探っていくほかはない。

「姥捨」伝説はなかった。古田武彦著(新国書房)には、表題の通り事実は無かったと言ひ、古代社会は女性優位の時代で

「おば」は神につかえる母性の意である。従つて、「オバステ」は巫女たちの祭りの場であった。と論じ、さらにその語は「縄文地名」であろうと推理されている。

古代史関連の著書の多い氏の洞察力のすこさはよく知られているが、仮説としておもしろい指摘である。が、かなり切り捨てられた部分もある。

小生は「姥捨伝説」は無かつたと思ふよりも「口べらし」の事例はあつたと思ふ。開拓の最前線では食料難は付きもので、農業および狩による食料が全ての住民に手当てできない年があつたはずだ。天候などによる飢餓状態が一年で終わらないことは、現在でも東北地方や北海道でよく知られている。「ヤマセ」という北東の強風が吹く夏は、稲はもとより寒冷作物でも収穫量は極めて少ない。

幕末における戦争に敗れた旧会津藩の武士と家族たちが、斗南(現青森県奥市東北付近)へ強制移封させられ、不毛の地の開拓での飢餓状況などは、政治的姥捨であつたとみるべきである。

また、南島などにおける「人頭税」は収入による課税とは別に人間の頭数に応

じて税金を納めるシステムで、収入の有無に関係しないものだ。これだと労働力として機能しない老人や子供を捨てるを得ないことになる。さらに妊娠すると積極的に流産へ導く行為が行われることがあつた。

自然災害および人口増加による開拓地の減少などと共に、政治による人為的圧迫などが非労働力の排除という形で事実上の姥捨が行われたのであり、その事実の伝播によって奇抜を好む世情によって伝承・伝説が進み、ついには識者や文人、宗教(仏教)などの関与によって物語が完成する。「能」などの作品はまさにその証明と言えよう。やはり火の無い所に煙は立たないのであつた。

古田氏の「縄文地名」は興味深い説である。この列島に縄文人が住んでいた頃の古代の近代化とは、大陸から先進技術を持って列島の中央部へやって来た人々によって始まる。

日本人のDNA調査の結果、列島の北と南が同一で、中央が大陸系と判明したのは事実を裏付けている。また、縄文人はアイヌ民族とは違う古日本人であり、すでに混血が終了し消滅したとみられ

る。女性優位時代の反映として縄文時代の生活習俗が地名に残され、それが九州や東北に集中しているのもうなづける。九州の「乳母塚」東北の「姥神」石像など、この地方の登山の折に少なからず散見している。豊富な肉体と子供に乳を吞ませる姿などがあるが、いずれも根本にあるものは女性の神秘性と生産力、豊穡を求めていることであつて、男の側のコンプレックスが底辺に横たわっている。

越前の姥ヶ岳の頂上部分は岩窟が露出していて、旧小沢村(麓村)ではこの岩を「姥岩」と呼び、山姥の住家と言う。農業祭祀である「磐座」と山地民の信仰が習合したものかも知れない。西谷村(麓村)にも似たような伝承や平家落人が住みついたという「平家平」がある。

平家伝説は全国に広がっているが大平が伝播である。人々は平地民に対して山岳民が豊かであつた時代を忘れていた。弥生や縄文に置きかえてもよいが、古代の山は資源が豊富だった。次第に平地民が優勢となるなかで、本地師のように貴種流離譚を持ち出したのではないか。平家伝承の多くは落人伝説のように平地か

ら山懐に人が移動したのではなく、里の平家が、異能者の手によって山懐へ這い登って行かされたのだ。

姥ヶ岳の周辺は旧西谷村の一部であるが、よくこんな山奥の狭間を開拓したものと感動すらおぼえる所であり、それ故に多くの伝承・伝説が残っている。またこれが全国の姥伝承と同一のものか、あるいはローカルなものは分析の要があるものの共通性は極めて高いと思う。

これに対して「オンパノフトコロ」(姥待機)が全国的に分布している。「日本昔話事典」や柳田国男の「日本伝説名彙」(「妹の力」などの他に東北の地方史にも散見するにぎやかさである。その数は「姨捨伝説」をはるかに超えている。伝承の概要は次の通りである。

- イ 山中の洞窟に乳母が幼童を懐に隠れる
- ロ 落城の折、乳母と子が共に命を閉じた場所(崖下及び石垣か)
- ハ 乳母と子の受難の地または助けられた地
- ニ 自然災害のない日当たりのよい恵まれた土地で桃源郷のような所
- ホ 修験の体内滞りの洞穴(窟)

へ 聖地

ト 柚や狩の民の休み場と特別な場所、
 (二)に通ずる所

姥に関する地名として、姥石・姥神・姥谷戸・姥山・姥湖・姥子堂(日本伝奇伝説大事典)・角川書店)などがある。

鈴鹿の綿向山の佐久良川上部にも「オンパノフトコロ」の地名が「東櫻谷志」(東櫻谷公民館編)に出ていて、気になり探索してみたが、地名を特定できなかったもの、谷の上部一帯は岩石重々として、案外おだやかな土地であった。精査すれば、どこかに小さな洞窟かあるいは修験の行場などか思いがけない場所で見えるかも知れない(参考:「鈴鹿の山と谷」)。

「岩手の地名百科」(岩手日報社)には「姥懐」として上米内・玉山日戸・北上更木などをあげ、①祖懐の転訛・山懐②姥が懐に入れてきた大石伝説③姥の懐のような温い向陽盆地、などをあげていてうなずける。

以上の資料は貧しい小生の集積力でも可能なかぎり集めてみた。そこから浮かんでくるものは、前述古田氏の説のように「姥」が女性優位時代の反映か、縄文時

代の残影か、といった仮説はまんざら的に外しているとは言えない。小生は、そのあたりに男性側の女性に対する神秘的な存在、男の理解を超えた生理、子供を産むことを可能とする豊穡など、男が逆立ちしてもかなわない女性に対するコンプレックスを臆さざるものである。

姥ヶ岳の名を生んだのが旧西谷村であったとすると、生産性の低い山間の村が豊穡を求め、あるいは山深い峡間に隠れ住む同等の境遇を「姥神」に重ね合わせ、安堵する心境がよく理解できるような気がする。

春まだ浅いころ、能郷白山の頂上から姥ヶ岳を見ると、荒島岳に向かって大きな白鯨のような巨体が横たわっている。その周辺が旧西谷村である。

この山塊は確かに魅力的である。能郷白山から東西に派生する長大な山脈もさることながら、なお越前に至る広範囲一帯は重々たる深山が折り重なるようになってしまっている。春にタムシバや山桜が咲くころになってもなお豊富な残雪があり、登ってみよ」と挑発しているかに見える。小生は、昭和40年春に西谷村果原から

単独でこの白い巨体に取り付いたことがある。そのときの記録を会報「青嶺」に見ると、前日は仲間と銀杏峯・部子山を縦走し、果原峠にくだり、小生のみ別れて能郷白山へ登るべく峠で東西に別れた。

果原の谷は積雪多くアイゼンのまま川の石を飛び移って水中で火花を散らした記憶が鮮明に残る。やっと眞名川筋の街道に出て、温見でビバークのつもりが天候急変で引き返し、途中で出作り小屋を探すが不調であった。

能郷白山へは無理だと判断し、姥ヶ岳に切り替えて宿を求め、正式の宿は無く、タバコ・塩専売の看板の下子家(田舎によくある小規模な小売店)が特に旅人を泊めるとのこと厄介になった。食事は味噌汁とサバの缶詰しか無かったが、大学ノート(宿帳)に記入の際に驚いた。京都の著名な大登山家の名が連なっていた。彼の人達もこの山塊を徘徊した際、この家を利用していただ。板間の中央に囲炉裏のある質素な家だった。

翌日、朝は濃霧であやしい天候のため早く片付けねばと登り出す。奥果原から平家平とおぼしきあたりを登り、顕著な支尾根に取り付いて主稜に出た所で天候

《山のレポート》
 十二支の山
 亥年の山
 生駒 登峰

今年のエトは亥(猪)である。亥は十二支の最後で、昔の時刻では現在の午後10時ころを指し、方位は北北西。
 猪(亥)の付く山名を調べてみる。

| 名称 | 標高(計) | 20万図 | 2万5千図 |
|------------|-------|------|-------|
| 1 猪臥山 | 1519 | 高山 | 飛騨古川 |
| 2 猪頭山 | 1353 | 富山 | 黒部湖 |
| 3 猪ノツブレ | 1350 | 甲府 | 鳴沢 |
| 4 猪ノ伏 | 1250 | 八代 | 白髪岳 |
| 5 猪鼻岳(金時山) | | | |
| | 1250 | 横須賀 | 関本 |
| 6 猪ノ岳 | 943 | 延岡 | 榎木 |
| 7 猪子山 | 830 | 浜田 | 大朝 |
| 8 白猪山 | 820 | 伊勢 | 二本木 |
| 9 猪ノ鼻岳 | 810 | 新庄 | 中野俣 |
| 10 猪田山 | 741 | 延岡 | 龜丹瀨 |
| 11 猪辻山 | 731 | 高梁 | 新見 |
| 12 白猪森 | 714 | 福島 | 川俣 |
| 13 亥谷山 | 689 | 木本 | 木本 |

14 猪谷山 580 高梁 帝釈峽
 15 猪背山 553 京都大阪 京都東南
 16 猪の鼻ヶ岳508 名古屋 土山
 17 猪尻山 483 岡山丸亀 白峰山
 18 猪群山 458 中津 香々地
 19 猪山 425 姫路 日笠
 20 猪見岳 364 長崎 東北部
 21 猪倉山 245 仙台 岩沼
 22 猪熊山 131 熊本 武雄
 23 猪眠山 70 石巻 登米
 峠では、猪頭峠・猪ノ子峠・猪膝峠・白猪峠・猪伏越・猪見塚などがある。
 山名は、猪の姿、時に頭・鼻の形に似ているところから名付けられたようだが、猪(ヰ)は湧水を表し、湧水の山の意味もある。猪ノツブレは、湧き水が潰れた所を源頭にして山ということになる。

白猪山・亥谷山は2等三角点の山、猪の鼻ヶ岳は石楠花の花を見るため、箱根の猪鼻岳(金時山)は、金時娘に引かれて登った。また国東半島のストーンサークルの猪群山は、九州百名山の一つとして登っているが、いずれも十二支の山として登ったわけではない。

はさらに悪化し、姥ヶ岳を断念。稜線を北西に下降し、倉ノ又山を通過して果原にくだった。その足で眞名川沿いの道を中島・大野・福井を経て帰京となった。当時の仲間の記述では、「風来坊のライダー脱走」とある。そしてこの日は南北アルプスその他で大量の遭難事故が発生していた。小生も下山連絡が遅かったと批判を受けた。

姥ヶ岳は、後年改めて登ったが、このときの印象はうすく、概要の記憶をほとんど失っている。

西谷村はその後百年に一度という局地的豪雨に見舞われ、大量の死傷者を出して壊滅した。果原の村も同様だったが完全復旧はならなかった。眞名川沿いの道は川に近く増水に対する抵抗力はほとんど無かったようだ。眞名川最上流の村、温見も廃れ無人地帯が広がった。能郷へ越える道路が完成し、現在では峠から能郷白山への登山道が出来て利用者は多い。能郷からの長い長い道にくらべて安直だが、現代人は合理性を遊ぶのである。古いセピア色の過去をなつかしむ小生もやはり年を経たのである。

(里山シリーズ38 鯖江)

かくれた吉刹と花の群生地
はじめてやまもんじゅさん

橋立山から文殊山

一般コース(★★★)

長宗 清司

JR北陸本線北鯖江駅に降り立った。まずは、駅から東に見える橋立山から登ろうと、標高90mあたりに横一線に並ぶ四つの鉄塔を見ながら、そのうちのいずれかに登ってみようかと決め、出発。北陸自動車道を滑り、浅水川に架かる徳尾橋を渡って山裾を物色する。

道路脇に建つ記念碑近くに、かすかに残る杣道を見つけて急登。S.A.B.A.Eの雷光大看板の下に出て、真上にある鉄塔下で休憩する。

ここからは、大村町にある古刹「楞嚴寺」まで尾根を縦走する。始めの橋立山は、一般人が歩く山ではなく、有志が付けた踏み跡と布印が山頂に向かってい

る。4等三角点の標石は、NHKの施設近くにポツンとあった。

ショウジョウバカマが咲き、キンキマメヅクラも咲いている。足元のカタクリはすでに二分咲きというところか。

予期していなかった光景に出くわして、一同思わず感激する。標高差30〜50mのピークと鞍部が五回ばかり、直登と起伏を繰り返す尾根道で、汗をいっぱいかいて登る我々を喜ばせた。

奥の院のお社は小さな1角ほどの祠。その真後ろに2等三角点の標石が鎮座していた。この少し先に胎内めぐりの大きな巖があり、潜った向かい側には注連縄が張ってあった。さらに進むと、越前五山の中心の展望台地に立つ。東の白山、南の日野山、西の越知山、北東の吉野ヶ岳に護られている。この山頂も青龍・朱雀・白虎・玄武の四神に護られている聖地でもある。雷から守るために石仏は布袋に包まれていた。神聖堂の白山が白い帯状にはるか向こうに望めた。下界には鯖江市街が箱庭のように美しかった。大文殊堂は修復中で、ブルーシートで覆われていて台無しだった。

ここからは、参詣道なので一般でも歩



可憐なカタクリの花を見る

開き、文殊菩薩を本尊としている。楞嚴寺は足利尊氏や朝倉家の祈願所となった室町時代、戦国時代に最も繁栄し、配下17坊末寺36カ寺1200坊を擁する大寺だった。戦国時代末期の織田信長の兵火や一向一揆によりこのごとく破却された。江戸時代には福井藩主や家老職の支援を受けたが、封建制度末期より衰退、明治から昭和の初めにかけて無住となるなど衰微したまま現在に至る。楞嚴寺には平安時代後期(藤原朝)の文殊菩薩、北条時頼が寄進した十一面觀音菩薩・阿彌陀如来・薬師如来はじめ、県指定文化財の弘法大師座像などの諸仏が安置されている。

文殊山は、泰澄大師が文殊菩薩の聖地である五台山(中国・唐)を文殊山に移し国家鎮護に備えた。古来から山岳宗教の中心的存在で越前五山の中心に位置する。小文殊の室堂には阿彌陀如来、大文殊本堂には泰澄大師御自作の文殊菩薩、奥の院には聖観音菩薩が祀られている。また、大文殊を中心に戦国時代の大規模な山城「文殊山城」の跡が残っている。特に文殊



小文殊堂と天狗杉



ける幅の広い道になる。「小文殊」には、青い屋根の文殊堂、その前に天狗杉が堂々とそびえている。

いくつかの分かれ道をやり過ごし、道端の4等三角点を、これから訪れる楞嚴寺の俳句会に投句するために1人離れて思案中に偶然見つける。

文殊山と楞嚴寺は、「越の大徳」といわれた泰澄大師が養老元年(717)に

山一帯には大規模なカタクリ群生地が散在し、早春最大の見所になっている。

— 大文殊堂前・案内板より抜粋 —
楞嚴寺は俳句会でも有名で、全国から募集し、年一回コンクールも開かれている。参詣道には、塔婆形の立看板に俳句が紹介されていて、境内にも投句箱があり、登山・参詣者も投句している。

船路は、ここ大村町からJRの北鯖江駅まで6.5km余ある。途中に白山神社もあり、田園風景を楽しんで歩くのもよいが、板板トンネルを抜けたりで時間的に無理な人は、タクシーを呼ばれることをおすすめする。

△コースタイム▽

JR北鯖江駅(15分) 徳尾橋(10分) 雷光大看板下(20分) 橋立山三角点(45分) 奥の院(20分) 大文殊(30分) 小文殊(30分) 楞嚴寺(30分) 白山神社(1時間10分) 北鯖江駅
△地形図V2万5千II鯖江(問い合わせ先)
鯖江市役所 ☎07778 (51) 2200
楞嚴寺 ☎0776 (41) 0641
三栄タクシー ☎0776 (23) 2534

ブナ美林を歩く新コース 大御影山

おのみかけやま

一般コース(★★)

金谷 昭

江若国境にある福井県嶺南地方の最高峰、大御影山へは、山頂を通る古道近江坂を利用し、南は近江今津から、北は若狭能登野から、長いアブローチを経て登られている。最近地元関係者の御努力により、美浜町新庄松屋から一部廃道を復元利用した比較的アブローチの短いコースが開発された。京阪神から敦賀まで延長されたJR新快速やマイカーを利用すれば、ゆっくりと日帰り登山ができ、関西地方で屈指の原生ブナ林、また山頂近くのノ口尾からは大展望が楽しめる。本コースは能登又谷ルートと白谷ルートとの二つのルートがあり、登り下りにそれぞれ別ルートを選べば変化があった。

いっそう楽しめるだろう。

能登又谷(ハゲノ谷)ルート

美浜町役場前を南に入り、新庄松屋で「渓流の里」を過ぎ、右に分岐する能登又谷をとると砂利林道となる。途中の白谷とハゲノ谷との分岐に立つ白谷ルートの標識を見送り、林道終点まで行く。林道終点から深い原生林のハゲノ谷に入り、左岸沿いの登山道をしばらく行く。テープに導かれて対岸に渡ると炭焼き窯の跡があり、ここから尾根に取り付く。急勾配の尾根であるが、登山道はジグザグに設けられていて大いに助かる。登山道は踏み跡に近く鮮明さはないが、下生えも無く見通しもきき、細かく付けられたテープをたどればよい。巨木のブナ・トチ・ミズナラの疎林の急登を約1時間程行くと、やっと小さな平坦地が出てくる。焦らずゆっくりと登れば、ぐんぐんと高度が稼げる。上方が明るくなって傾斜がゆるむと、ヌタ場が出てきて稜境尾根にのり、振り返ると雲谷山と若狭湾が望める。

ここからは平坦地を南に行くが、手前のブナの木にチェーンソーで案内方位が



大御影山山頂

傷つけてあるのは誠に遺憾である。巻きテープならまだしも樹木の成育を阻害する行為は絶対にやるべきでない。すぐ近江坂に飛び出し、左にゆるやかに登って行く。近江坂はかつては牛馬も通っただけに、U字形に踏み固められたゆるやかな道である。

近江坂を約20分も歩けば右に電波反射板が出てきて、その左山腹に展望の良い広場がある。ここが白谷ルートとの分岐となっていて、頂上はこの展望広場のすぐ上で、近江坂は頂上すぐ下をかすめて近江へとびている。大御影山は3等三角点(950.06m 点名野呂尾)と山名板が置かれ、東南方向の展望が得られる。なお昼食場所としては、先の展望広場が適している。

白谷ルート

能登又谷林道終点手前の白谷ルートの案内板の所から能登又谷に下り、飛び石伝いに対岸に渡る。左の支流の白谷の左岸沿いを通り四回徒歩してから、白谷と能登又谷との尾根に取り付く。すぐ上の稜線にのると道標と、左にアスナロの巨木がある。下山時には、この巨木を見て尾根をそのまま行かず、右の白谷側に下りることが注意点である。これから始まる登路は能登又谷ルートに比べると距離は長い、そのぶん多少傾斜がゆるやかであり、中腹まではユズリハ等の下生えが見られる。

テープがかなり細かく付けられている

が、ともかく尾根を外さず登って行くと、高度600m付近で小平坦地が出てくる。さらに密生したユズリハのなかをジグザグに登ると、高度700m付近で広い平坦地に出る。ブナ巨木を配したすばらしい所で休憩に最適であり、ゆっくりとブナ林を鑑賞しよう。

ここからは下生えは無く、落ち葉のカーペットの上、どこでも歩けるようになり、快いブナ疎林を行き、傾斜がゆるむと高原状を呈してくる。大きなヌタ場を過ぎると、ノ口尾の稜線の高原に出てすばらしい展望が得られる。

左遠くの湖北乗鞍岳から手前の大谷山までの湖北山地が、その向こうに伊吹山や鈴鹿山脈が全開となる。以前は激やぶのため無雪期には近づけなかったが、近年のササ枯れと関係者の伐採の努力により、容易に入れるようになった。ノ口尾の稜線高原



大御影山新ルート付近略図

を歩き頂上の手前を右に捲くと展望広場に出て、近江坂を左にたどれば頂上である。なお下山の際、両ルート共、踏み跡やテープを見逃したとしても忠実に尾根をくだり、絶対に谷に入らないことが肝要である。(平成18年10月28日歩く)

▲コースタイム▼

〔能登又谷ルート〕
林道終点(2時間30分) 近江坂分岐(20分) 展望広場(3分) 大御影山(2時間30分) 林道終点

〔白谷ルート〕

白谷登山口(20分) 尾根末端(2時間15分) ノ口尾(15分) 展望広場(3分) 大御影山(2時間30分) 白谷登山口
△地形図V2万5千13万・熊川(交通)

JR小浜線美浜駅から新庄までコミュニティバス(1日4往復)あり

能登又谷林道終点(車5〜6台駐車可能)

白谷ルート入口の林道脇に駐車可能

(問い合わせ先)

美浜町役場(コミュニティバス)

☎0770(32)1111

美浜タクシー ☎0770(32)1133

紅葉と自然いっぱい

網掛山・阿曾浅間山

一般コース(★★)

藪木 伸人

大紀町(旧大宮町)の山である。福井正身先生の著書『宮川流域の山25山』(2005年3月刊)で、この山を知り、いつか登りたいと思っていた。

その冬、新聞記事で、登山道が整備され、紅葉狩も楽しめることがわかった。1年経て、平日に休みがとれ、念願を果たすことができた。地元の方が、6年がかりで道を付けてくださったとか、大変ありがたいことだ。紅葉に合わせて、何度か山行計画も立てられていたようだが、私が登った日は、ちょうどその合間の日で、三組の方に出会ったのみだった。さて、麓から登ることも考えたが、とにかく早く紅葉が見たかったので、福井



網掛山頂より光る熊野灘



網掛山・阿曾浅間山付近略図

一服していると、今度は、ハスノハカズラが、黄色やオレンジ色の実を付けているのを見て、またまた夢中になってしまった。伊勢道の斜面を覆っていたのを見た記憶があるが、花はどんな姿だろうか。阿曾浅間山へは、途中「華の森484m」という標識のあるピークを越えて、10分程で到着した。「浅間山450m」の標

黄葉がきれいだった。10分程のんびりした後、さあ北へくだろうと思っていたら、赤松を這い上っているテイカカズラの実を見つけ、すっかり見とれてしまった。ササゲのような葉から、大きな綿毛を付けた種が、何個も出てくるのだ。15分程も遊んでしまった。くんだり始めて10分、尾根道の正面に、見慣れた局ヶ岳が姿を現した。それにしても、このあたりは、マンリョウの何と多いことか。いたる所で鈴成りの実が見られた。山頂から20分で林道終点駐車場に下り立った(もみじ谷東口から1100m)。

柱が立てられ、信仰の場であることをうかがわせる石が鎮座している。周囲の展望は良くなかったが、傍らに立つタカノツメの黄葉が、見事だった。陽だまりに寝そべって、この日二個目の蜜柑を食べた後、林道終点駐車場に向かった。山行中、アセビ・コナラ・ユズリハ・クロモジ・ヒイラギ・ホオノキ・ミヤマシキミ等も見られた。網掛山山頂には、「国見岩へ5000m」と書かれていたが、こちらは健脚者向きだろう。ちなみに、帰路、林道の長さを、車のメーターで測ってみたが、ゲート部分2.5km、舗装路に入ってから麓の集落まで約2kmだった。

(平成18年12月4日歩く)

▲コースタイム▼

- 林道終点(25分) もみじ谷(15分) 鞍部(15分) 網掛山(20分) 林道終点(10分) 阿曾浅間山(12分) 林道終点(△地形図) 2万5千1古和浦(問い合わせ先) 宮川地域交流館 たいき

☎0598(86) 3851

先生の本にある通り、林道終点まで車で登った(ゲートの部分は、途中から四駆車が無難)。林道終点は、阿曾浅間山と網掛山との鞍部で、行者山や南、亦山方面の見通しがよかった。立て札を見て、右

2005年12月6日付 中日新聞朝刊

郷土の宝里山後世に 大紀の小野寺年さん 手弁当で登山道整備 観光客に人気

にくだる道を、まずもみじ谷へと向かう。10分歩くと、JR阿曾駅への道が分岐していた。さらに5分、「大理石・石灰探石跡」の標示があり、緩斜面を登った後、石灰岩地形の岩の間を急降下する。ロープが付けられてあり、重宝した。途中の写真タイムを差し引いて、25分で「もみじ谷西口」に到着(林道終点から800m)。

せてくれた。等高線の混み具合からもわかるが、なかなかの急斜面であり、道を付けてもらった方々にただただ感謝するばかりであった。約15分で、もみじ谷周遊を終えて「東口」に到着。網掛山と、その南東約1kmにある大内の高との鞍部である。滝原浅間山(一等三角点の山)が望まれた。鞍部から急登を過ぎ、15分、網掛山山頂(544m)に着く。広場のような頂だが、展望は、あまり無い。光る熊野灘や麓の集落が木の間越しに望めた。空を仰ぐと、ムベの葉が風に揺れ、クヌギの

沿線ハイキングガイド

近鉄 京阪 阪急 南海 神鉄 山陽電車 叡電・京福
 公開ハイク 歩け歩け大会 文学散歩 歴史散歩 その他

近鉄

▽所長お薦めフリーハイキング
 「梅川の道明寺天満宮から石川・大和川沿いを経て玉手山公園へ」
 3月3日(出雨天決行) (荒天の場合
 は3月5日(日)に延期) (集合) 道
 明寺駅9時~11時 (コース) 道
 明寺駅→道明寺天満宮→石川河川敷
 →大和川付替え記念碑→大和川河
 川敷→奥田中次の碑→玉手山公園
 →道明寺駅(約9時) (一般回) *係
 員は同行しません。参加自由・無
 料。藤井寺駅072(955) 0
 037

▽駅長お薦めフリーハイキング
 「若菜ひす・酒蔵まつりと初瀬街
 道」 3月4日(出雨天決行) (荒天
 中止) (集合) 青山町駅9時~11
 時 (コース) 青山町駅→東比寿神
 社→阿保親王墓→初瀬街道→大村
 神社→若菜ひす酒蔵(合飲・見学)
 →青山町駅(約6時) (フリー回)
 *係員は同行しません。参加自由・
 無料。伊賀神戸駅0595(38)
 1304

▽駅長お薦めフリーハイキング
 「らくらく登山と枚岡梅林を訪ね
 て」 3月4日(出雨天決行) (荒
 天の場合) 3月7日(日)に延期 (集
 合) 瓢箪山駅9時30分~11時 (コ
 ース) 瓢箪山駅→らくらくセンター

ハウス→せせらぎ広場(谷坊大橋)
 →神津嶽ふれあい広場→枚岡山麓
 展望台→枚岡梅林→枚岡駅(約6時)
 (一般回) *係員は同行しません。
 参加自由・無料。瓢箪山駅072
 (98) 2144

▽読売ふれあいハイキング「追分
 梅林から奥谷梅林へ」 3月7日
 (出雨天中止) (集合) 富雄駅東改札
 前9時30分~10時 (コース) 富雄
 駅→追分梅林→奥谷梅林→鶴峰
 富雄駅(約12時) (一般回) 参加自由・
 無料。近鉄大板イベント係06
 (6775) 3566

▽駅長お薦めフリーハイキング
 「梅香る青谷梅林と山背古道を訪
 ねて」 3月10日(出雨天決行) (荒
 天の場合) 3月16日(日)に延期 (集
 合) 新田辺駅9時~11時 (コ
 ース) 新田辺駅→山背古道→青谷梅
 林→高神社→山背古道→井堤寺跡
 →寿宝寺→三山木駅(約12時) (一
 般回) *係員は同行しません。参加
 自由・無料。新田辺駅0774
 (62) 0058

▽駅長お薦めフリーハイキング
 「森とふれあう大自然を歩く」
 3月21日(出雨天決行) (荒天の場合
 は3月23日(日)に延期) (集合) 東

生駒駅9時~11時 (コース) 東生
 駒駅→鶴峰→矢田山遊びの森→桂
 木峠→南生駒駅(約9時) (一般回)
 *係員は同行しません。参加自由・
 無料。生駒駅0743(74) 2
 056

▽駅長お薦めフリーハイキング
 「割り箸のまち下市町の散策と梅
 の香りを求め広橋梅林へ」 3月
 24日(出雨天決行) (荒天の場合) 3月
 25日(日)に延期 (集合) 下市口駅
 9時~11時 (コース) 下市口駅→
 千石橋→廻行橋→龍上寺→広橋梅
 林→下市温泉→下市口駅(約20時)
 (健脚回) *係員は同行しません。
 参加自由・無料。下市口駅074
 7(52) 2422

▽近鉄万歩ハイキング「甘樫丘か
 ら伝馬鳥坂遊歩へ」 3月25日
 (出雨天中止) (集合) 橿原神宮前駅
 東改札前駅9時30分~10時 (コ
 ース) 橿原神宮前駅→甘樫丘→飛鳥
 寺→伝馬鳥坂遊歩→川原寺跡
 岡寺跡(約9時) (一般回) 参加自由・
 無料。近鉄大板イベント係06
 (6775) 3566

▽早春ハイク「大比叡」 3月7
 日(日) 10日(出雨天中止) (集合) 修

学院駅9時30分~10時 (コース)
 修学院駅(きらら坂)→水炊対
 陣跡→千種寺頭碑→大比叡(84
 8・3)→西塚駐車場分岐→(松
 尾坂)→八瀬比叡山口駅(約15時
 中級回) 参加自由・無料。叡山電
 車営業課075(702) 811

1
 ▽フラワージュック桜「宝ヶ池・
 下置茂疎水」 3月28日(日)・31日
 (出雨天中止) (集合) 岩倉駅9時30
 分~10時 (コース) 岩倉駅→宝ヶ
 池→松ヶ崎→高野川沿い→下置茂
 疎水→府立大学→北山通り→北山
 大橋→出雲院橋→出町商店街→踏
 街道起点(約13時) (一般回) 参加自
 由・無料。叡山電車営業課075
 (702) 8111

神戸電鉄

▽木曜ハイク「紅葉谷・六甲最高
 峰コース」 3月8日(日)雨天中止
 (集合) ロープウェイ有馬温泉駅
 前10時 (コース) ロープウェイ有
 馬温泉駅→紅葉谷道→六甲最高峰
 一魚留道→有馬温泉駅(約12時)
 (一般回) 参加自由・無料。神鉄クル
 ー総合案内所078(592) 4
 611

▽神鉄ハイク「塩田八幡宮と千早

水源池コース」 3月11日(出雨天
 中止) (集合) 三田本町駅9時30分
 (コース) 三田本町駅→塩田八幡
 宮→武庫川右岸→太福寺→千早水
 源池→光明寺→JR道場駅(約11
 時) (一般回) 参加自由・無料。神鉄
 グループ総合案内所078(59
 2) 4611

2
 ▽火曜ハイク「鈴蘭台から有馬温
 泉までコース」 3月13日(出雨天
 中止) (集合) 菊水山登山口(鈴蘭
 台駅下車)9時 (コース) 鈴蘭台
 駅→菊水山→六甲線走路→魚留道
 →有馬温泉駅(約20時) (健脚回) 参
 加自由・無料。神鉄グループ総合
 案内所078(592) 4611

▽神鉄ハイク「善防山と古法華石
 仏公園コース」 3月21日(出雨天
 中止) (集合) 北条鉄道橋下里駅
 10時15分 (コース) 播磨下里駅→
 古法華石仏公園→善防山→北条鉄
 道法華口駅(約8時) (一般回) 参加
 自由・無料。神鉄グループ総合案
 内所078(592) 4611

▽木曜ハイク「再度公園・トエン
 ティクコース」 3月22日(日)
 雨天中止 (集合) 鈴蘭台駅10時
 (コース) 鈴蘭台駅→牛の背→再
 度公園→市が原→トエンティク
 スターゲル→山田道→谷ノ上駅(約12

山陽電車

▽山陽ハイキング「綾部山観梅ハ
 イク」 3月4日(日) (雨天の場合
 3月11日(日)に延期) (集合) 山陽
 郷十軒下車(西約0・3) 揖保川
 河川敷右岸 10時 (コース) 揖保
 川河川敷右岸→龍門寺→高橋神社
 →新舞子→綾部梅林→大覚寺→山陽郷
 十軒(約12時) (家族回) 参加自由・
 無料。須磨浦遊園ハイキング係
 078(731) 2520

▽山陽ハイキング「危険八幡・奥
 須磨公園ハイク」 3月18日(日)雨
 天中止 (集合) 須磨浦公園下車
 (みどりの地) 10時 (コース) 安
 徳寺内裏跡→おらが茶屋→高倉台
 8→奥須磨公園→藤宮公園→須磨
 寺→須磨寺駅(約10時) (一般回) 参

加自由・無料。須磨浦遊園ハイ
 キング係078(731) 252
 0

▽山陽ハイキング「日岡山公園と
 新井緑道ハイク」 4月1日(日)雨
 天中止 (集合) 高砂駅下車(北東
 0・5) 加古川河川敷右岸 10時
 (コース) 加古川河川敷→河川敷
 サイクルロード→水管橋→日岡山
 公園→新井緑道→浜宮天神社→浜
 の宮駅(約15時) (一般回) 参加自由・
 無料。須磨浦遊園ハイキング係
 078(731) 2520

▽山陽ハイキング「淡路島公園・
 鳥の山ハイク」 4月15日(日)雨天
 中止 (集合) 山陽明石駅下車(若
 屋ポータルビル前広場) 10時 (コ
 ース) 若屋ポータルビル前広場→石屋
 神社→ハイウェイオアシス→淡路
 島展望広場→交流ゾーン→鳥の山
 一岩屋ポータルビル前広場→山陽明
 石駅(約10時) (一般回) 参加自由・
 無料。須磨浦遊園ハイキング係
 078(731) 2520

□これ以外にも多数の催しがあり
 ます。各社の広報も見てください。

せせせ

題字・小林玻璃三

広根の天台山(3等点名川尻640・1峰)、鉢伏山(604峰)、堂屋敷(3等553・2峰)、勝尾寺南山(3等点名菅野406・9峰)、途中で、高根の石堂ヶ岡(1等点名泉原山680・1峰)にも寄った。天台山は、光明山との鞍部に駐車し、取り付きから踏み跡があり、えぐれた道を南西に進み、標石は簡単に見つかった。石堂ヶ岡は何と茨木高原ゴルフ場の中にある。フロントで1等三角点を見たい旨申し出ると、2人の受付嬢が案内してくれた。標石は堂々と埋設されている。鉢伏山はみのお記念の森から入った。三角点は無いものの安堵感のある自然林のなか展望も

得られ、食事とした。堂屋敷はガケマークのすぐ上であり、心配は無用だった。コンクリートの要壁に斜めの急な階段がある。鉄塔巡視路だ。粗末な階段を登りつめ、少し進むと標石と対面できた。勝尾寺南山へはまず箕面隧道南から東へ丁字にぶつかった所の橋を渡る。破線の谷筋を南東に向かうがわかりづらい。元に戻りもう一度、橋から歩き出す。尾根筋からの方がわかりやすいと尾根にのる。地図上では二つ目のピークが三角点だが、地図に表現できない小さなピークもある。尾根を進めば標石にめぐり会えた。1日に五座を得て、相棒と幸

せを覚え帰路についた。(向日市 湯浅康夫)

10月21日、五色ヶ原(乗鞍)へ行った。開設3年目の紅葉が良かった。自然は豊かで滝は見事だった。ガイド付きとはいえ1日1人8800円、10人2日で17万6千円だった。1人4000円程度なら再度行きたい。10月28日、竜ヶ岳へ一般路でない中尾根(ホタガ谷石崖馬越)を登った。このコースは歩く人が増えたようだ。ササも低くなっている。10月29日、川上岳へ例会で行った。予定変更で馬瀬から歩いたが、紅葉はきれいだった。ガイドにあるピーク1617峰に三角点はない。御料局の境界標があり、1等三角点は山頂にあった。11月4日、芦生とオグラスを歩いた。どこも昨年より色づきは悪いが、それでもまずまずの紅葉が見られた。11月12日、1等三角点の大洞山へ例会で行き、今年最高の紅葉・黄葉を見た。雪が降ってきたので早めに帰り、もう一つの

1等三角点、砥山へ廻った。この山のまともな案内書は無く、「続ふ百山」を読んだ。三角点の位置を確認して再訪したいわくつきの山だ。行った鉄塔は第二峰だったが、山頂にも鉄塔がある。11月19日、ソノドへ行った。林道の紅葉がきれいだった。11月26日、金草山へ行った。昔は道が無かったようだが、尾根道ははっきりして歩いて歩くのに不安はない。雨が降りだして冠山へは行けなかった。(海津市 山田明男)

名前にひかれて霧晴山に登った。新ハイ例会で山田さんグループと冬瓜山に登った時に中宮温泉の山田旅館に泊まった。翌朝、玄関先に出ると、目の前に見上げるようにそそり立つ山だ。旅館のおかみに聞くと、「以前は山菜採りに入っていたが、今は誰も入らない山」。標高は1456m。旅館前の橋を渡った所に駐車場があり、その上の草付きの棚によじ登り、尾根に取り付いた。やぶは薄い

ようだがきつい登りが続き、岩峰に突き当たった。右に捲いて990峰のピークの上に立つと、白山スーパール林道を挟んで前面に冬瓜山が瓜を頭に載せたような姿で大きく見え、反対側を見ると温泉山だ。

ピークからくだり、登り返すと尾根は消え、広い斜面を登るようになる。下りに備えてナタ目を入れながら進んだ。

頂上もやぶで、灌木は雪で押しつぶされ、枝を四方水平にのばしてテーブルのようになっていて、その上に坐って気分よく食事した。三角点標石も枝の間から頭が覗いていた。

下山は鞍部まで戻り、そこから左に斜面をくだる。下に行くほど傾斜のきつい草地になり、両手で草をつかんで滑るようにくだるが、山ウドが多い。つかむとボキボキ折れるので頼りにならない。草地をくだると林道上部の切り通しに出たので、ロープを使って下りた。

山オヤジの所へ立ち寄り、「霧晴山に登ってきた」と言うのと「山ウドを採ってきたか」と言うので、「ボキボキ折ってきた

たが一本も採ってこなかった」と言う。「そっか」と言っていた。(熊谷市 山形 明)

11月初旬、中国百名山の一つ、八俣の大蛇退治伝説の中心舞台で有名な船通山(1142峰)へ登った。

上りは鳥上滝コース。登山口で、「船通山(鳥髪峰)」は、出雲神話で素戔鳴尊が高天原から降臨された地とされている伝説の山で……との解説板が目についた。

八合目付近の鳥上滝は、八俣の大蛇が棲んでいた滝といわれ、昔は大きな滝壺があったと伝えられるが、特に注目するような滝ではなかった。

巨岩石帯、石畳、丸太止め階段などの急登をこなし、最後に亀石コースと合す。

頂上は広々とした台地で、剣を挿した「天叢雲剣出顕之地」を示す記念碑があり、2等三角点も確認した。

晴天の下、360度の展望だが、大山や三瓶山は雲や霧に隠されて眺められず残念だった。下山は亀石コース。標高10

00峰あたりでは、「この地方一帯で行なわれていたカンナ流シの水路を利用したもので、タラ文化の痕跡である」といわれる山腹道の歩きが続いた。たたら製鉄と八俣の大蛇に関して古来より伝えられる伝説を思い浮かべ、大蛇の血で真赤に染まったという赤川を眺めながらくだったのだが、登山を通じて一組の夫婦にしか出会わなかった。

4年前、「神話・伝承の世界を訪ねる」と題して比婆連峰を縦走した後、横田町の「奥出雲 たたらと刀剣館」にて大蛇ミニメントを眺め、稲田神社に参詣した。出雲横田駅前では船通山を遠望したが、その時以来念頭にあった船通山への登山について実現した。(枚方市 東谷 宏)

山行短歌
山行の帰りに乗ししとき
気だるさの中 朽木の匂いす


釣舟の開きし花もさりながら
金魚のごとき濡りぬる
松阪大平山
松阪峯山

あそこだと動ませど君の浮かぬ顔
引き返す尾根に残すため息
鈴の音とともに現る犬二匹
芒のなびく蒼穹高し
標点で前後をかざす鎌切
秋の名残りの薄日かかりぬ
霜降りて 静けさの内我が宿の
南京黄蘗も色づきにけり
八剣山土産話を友に乞う
秋の夜長に楽奏でつつ
独り行く初冬の山は清らかに
満ちたる大気身に沁みわたる
金色の天狗の葉屑纏
瓜肌 猿猴 冷気に染まる
海越えて遙かに浮かぶ雲の上
御嶽大神 白く輝く
松阪稲坂山
萩木伸人

山行短歌
10月4日 北信南麓山
双耳峰の下に急こう僕たちは
コンパスの針ひかれあつ同志
10月5日 北信小谷温泉
森の露天風呂の朝露の向こう
深田久弥が歩いて来るよう
10月5日 北信鷹狩山

10月5日 北信鷹狩山

SHCサービスチェーン



どこへ行こうか
SHCサービス
チェーン

野宮地に降り注ぐ幾千の瞬き
孤をまぎらすに明るすぎる星
10月15日 備後彦山
転げ落ち痛めた背部の泣き言を
ピラミッド石群よ聞いてくれ
12月21日 十三にて忘年会
友がみな優しく見える夜なれば
涙のにじむ美味い酒を呑む
(吹田市 木村太郎)

正月明けの「神戸新聞」一面
に、野生動物と共生を研究する
建物が出来る、の見出しに目が
留まった。兵庫県が青垣町に開
設するらしい。

サービスチェーンを利用すると
きは、電話か往復ハガキで、必
ず予約してください。
予約のときに、料金を確認して
ください。

兵庫県では鹿害による農作物
の被害、県民の水源である源流
域のササ地の食い尽くしによる
荒廃は目に余るので、何とかせ
ねば、と言って久しい。村落全
体を楯で囲む風景は、のどかな
山村風景には相応しくない。こ
れが過疎化の引き金の一つにも
なっており、農耕民族の誇りを奪い
去り、廃村へと追い込んでいる。
兵庫県は早く鹿を適正頭数まで
下げ、心地よい山村にして欲しい。
40年余り兵庫県の山地へ足を
運んで気づいたことは、右肩左
がりの時代から今日まで山村は

弱水であった。国民の食料や飲
料水、魚を育てるブランドトン
を育む農山林地帯を都市に住む
人々が忘れ、無視した結果だと
気づいた。排ガスや空調設備の
廃熱を吸収する源でもあるので、
動物の共生と共に、都市とも共
生が求められる時代である。
新ハイの多くの仲間が都市部
に住み、休日には山野に出かけ、
森林浴やマイナスイオンを浴び
る恩恵を受けている。近年の誓
いに温暖化防止に一步踏み出す
を加えて欲しいのだが。
(姫路市 須磨岡 楳)

SHCサービスチェーン

| | | | |
|--|--|--|--|
| <p>花の百名山 姫吉山の隠れ山 妖精の森「チーリングル」 1次～4次 0000日 (販売不可) 1次～4次 0000日 (販売不可) 1次～4次 0000日 (販売不可) 1次～4次 0000日 (販売不可)</p> | <p>花の百名山 秋田駒ヶ岳乳頭山へ 夏はハイキング 冬はスキー 雪中かんじき体験 田沢湖高層温泉 駒ヶ岳観光ホテル 〒014-1201 秋田県仙北 郡田沢町中野内駒ヶ岳の30 番地 Tel: 011-66-2111 http://www.komakasan.com</p> | <p>花の百名山 尾瀬ヶ原見晴 自然の宝庫 尾瀬ヶ原見晴 尾瀬小舎 〒026-0051 福島県尾瀬町 026-0051-1034 026-0051-1035 026-0051-1036 026-0051-1037 026-0051-1038 026-0051-1039 026-0051-1040 026-0051-1041 026-0051-1042 026-0051-1043 026-0051-1044 026-0051-1045 026-0051-1046 026-0051-1047 026-0051-1048 026-0051-1049 026-0051-1050</p> | <p>秋田駒ヶ岳山基地 岩手の秘湯・名物露天風呂 国見温泉 石塚旅館 〒020-0562 岩手県岩手郡石川町 〒020-0562 岩手県岩手郡石川町 〒020-0562 岩手県岩手郡石川町 〒020-0562 岩手県岩手郡石川町</p> |
| <p>花の百名山 尾瀬山のみや 四等心算大なる自然と森林 民宿 ちのび旅館 〒026-0051 福島県尾瀬町 026-0051-1034 026-0051-1035 026-0051-1036 026-0051-1037 026-0051-1038 026-0051-1039 026-0051-1040 026-0051-1041 026-0051-1042 026-0051-1043 026-0051-1044 026-0051-1045 026-0051-1046 026-0051-1047 026-0051-1048 026-0051-1049 026-0051-1050</p> | <p>花の百名山 尾瀬山のみや 四等心算大なる自然と森林 民宿 ちのび旅館 〒026-0051 福島県尾瀬町 026-0051-1034 026-0051-1035 026-0051-1036 026-0051-1037 026-0051-1038 026-0051-1039 026-0051-1040 026-0051-1041 026-0051-1042 026-0051-1043 026-0051-1044 026-0051-1045 026-0051-1046 026-0051-1047 026-0051-1048 026-0051-1049 026-0051-1050</p> | <p>花の百名山 尾瀬山のみや 四等心算大なる自然と森林 民宿 ちのび旅館 〒026-0051 福島県尾瀬町 026-0051-1034 026-0051-1035 026-0051-1036 026-0051-1037 026-0051-1038 026-0051-1039 026-0051-1040 026-0051-1041 026-0051-1042 026-0051-1043 026-0051-1044 026-0051-1045 026-0051-1046 026-0051-1047 026-0051-1048 026-0051-1049 026-0051-1050</p> | <p>秋田駒ヶ岳山基地 岩手の秘湯・名物露天風呂 国見温泉 石塚旅館 〒020-0562 岩手県岩手郡石川町 〒020-0562 岩手県岩手郡石川町 〒020-0562 岩手県岩手郡石川町 〒020-0562 岩手県岩手郡石川町</p> |
| <p>花の百名山 尾瀬山のみや 四等心算大なる自然と森林 民宿 ちのび旅館 〒026-0051 福島県尾瀬町 026-0051-1034 026-0051-1035 026-0051-1036 026-0051-1037 026-0051-1038 026-0051-1039 026-0051-1040 026-0051-1041 026-0051-1042 026-0051-1043 026-0051-1044 026-0051-1045 026-0051-1046 026-0051-1047 026-0051-1048 026-0051-1049 026-0051-1050</p> | <p>花の百名山 尾瀬山のみや 四等心算大なる自然と森林 民宿 ちのび旅館 〒026-0051 福島県尾瀬町 026-0051-1034 026-0051-1035 026-0051-1036 026-0051-1037 026-0051-1038 026-0051-1039 026-0051-1040 026-0051-1041 026-0051-1042 026-0051-1043 026-0051-1044 026-0051-1045 026-0051-1046 026-0051-1047 026-0051-1048 026-0051-1049 026-0051-1050</p> | <p>花の百名山 尾瀬山のみや 四等心算大なる自然と森林 民宿 ちのび旅館 〒026-0051 福島県尾瀬町 026-0051-1034 026-0051-1035 026-0051-1036 026-0051-1037 026-0051-1038 026-0051-1039 026-0051-1040 026-0051-1041 026-0051-1042 026-0051-1043 026-0051-1044 026-0051-1045 026-0051-1046 026-0051-1047 026-0051-1048 026-0051-1049 026-0051-1050</p> | <p>秋田駒ヶ岳山基地 岩手の秘湯・名物露天風呂 国見温泉 石塚旅館 〒020-0562 岩手県岩手郡石川町 〒020-0562 岩手県岩手郡石川町 〒020-0562 岩手県岩手郡石川町 〒020-0562 岩手県岩手郡石川町</p> |
| <p>花の百名山 尾瀬山のみや 四等心算大なる自然と森林 民宿 ちのび旅館 〒026-0051 福島県尾瀬町 026-0051-1034 026-0051-1035 026-0051-1036 026-0051-1037 026-0051-1038 026-0051-1039 026-0051-1040 026-0051-1041 026-0051-1042 026-0051-1043 026-0051-1044 026-0051-1045 026-0051-1046 026-0051-1047 026-0051-1048 026-0051-1049 026-0051-1050</p> | <p>花の百名山 尾瀬山のみや 四等心算大なる自然と森林 民宿 ちのび旅館 〒026-0051 福島県尾瀬町 026-0051-1034 026-0051-1035 026-0051-1036 026-0051-1037 026-0051-1038 026-0051-1039 026-0051-1040 026-0051-1041 026-0051-1042 026-0051-1043 026-0051-1044 026-0051-1045 026-0051-1046 026-0051-1047 026-0051-1048 026-0051-1049 026-0051-1050</p> | <p>花の百名山 尾瀬山のみや 四等心算大なる自然と森林 民宿 ちのび旅館 〒026-0051 福島県尾瀬町 026-0051-1034 026-0051-1035 026-0051-1036 026-0051-1037 026-0051-1038 026-0051-1039 026-0051-1040 026-0051-1041 026-0051-1042 026-0051-1043 026-0051-1044 026-0051-1045 026-0051-1046 026-0051-1047 026-0051-1048 026-0051-1049 026-0051-1050</p> | <p>秋田駒ヶ岳山基地 岩手の秘湯・名物露天風呂 国見温泉 石塚旅館 〒020-0562 岩手県岩手郡石川町 〒020-0562 岩手県岩手郡石川町 〒020-0562 岩手県岩手郡石川町 〒020-0562 岩手県岩手郡石川町</p> |

山行計画
(3・4月)

新ハイキングクラブ関西

このページの山行計画には、「会員に限る」と特記してある場合は会員外の方でも参加できます。一人ずつ往復ハガキに記入例によって必ず山行日の7日前までに到着するように、申込み先を随認のうえ申し込んでください。電話・FAXでの申し込みはお断りします。「費用」のほかに参加名簿代その他の資料代実費をいただくことがあります。山行申し込み後参加できなかった場合は連絡してください。体調の悪い方、幼児と飛び入りはお断りします。例会の参加者全員に傷害保険がかけられています。出発点呼の際、係に保険料日額50円と救援対策費日額50円合計100円(夜行日帰りの場合は2日になり200円)を支出していただきます。傷害保険特約内容は次の通りです。(株式会社損害保険ジャパンと契約)

死亡・後遺障害保険金額 1000万円
入院保険金 5000円
通院保険金 日額 2500円

保険の対象は集合時から解散時まで。事故があった場合は解散までに係に申し出てください。この保険に該当しないものは次の通りです。①ピッケル・6本爪以上のアイゼン・ザイレン・ハンマー・ワカンを持参することを明記した山行 ②スキー使用の山行 ③沢・岩・氷雪登山を目的とした山行 ④宿泊場所内の事故 ⑤病死の場合(詳細は本部まで)

(記入例)
(往復ハガキを使用)

山行き申込み書

山行名 (正確に記入すること)

期日

住所 〒

氏名

会員番号
(会員でない方は会員外と記入)

電話番号

生年月日

緊急時の連絡先 TEL
(山行中の連絡先を記入)

返信ハガキの宛名欄には、ご自分の住所氏名に「様」を必ず記入しておいてください。

山行計画の実施と申し込みについて

- ① 山行例会は、前もって保険を掛け、登山届を提出しますので、必ず実施日の7日前までに、「往復はがき」で申し込んでください。人数によっては事前にバスやタクシーをチャーターする必要がある場合があります。また、山ではいかなる事態が発生するかもしれません。緊急時の連絡先、および生年月日も必ずご記入ください。
- ② 返信の案内は、実施日の10日前頃からします。直前にならないと参加人数がはっきりせず、交通機関への手配等、費用もはっきりしないからです。また、早くから返信すると、コースの状況等、何か変更になった場合に再連絡するのが大変だからです。早くから申し込まれた方はそれまでお待ちください。
- ③ 定員制の計画は先着順に受け付けます。すでに定員に達し、キャンセル待ちの場合はその旨をすぐに返信をいたします。返信が無い場合は、定員枠に入っていると判断してください。
- ④ グレードは、次のように決めています。
 - (初級向き) 初心者でも安全に歩けるコース (3〜4時間コース)
 - (一般向き) 日頃山歩きしておられる方なら誰でも歩ける標準コース。あまり危険のない山 (5時間コース)
 - (中級向き) かなり経験を要するコース。危険な所はないが距離が長いコース (6〜7時間コース)
 - (やや健脚向き) 距離は中級だが危険な所があり、登り・下りが長く続くコース (6〜7時間コース)
 - (健脚向き) 距離が長く、つらい急な登り、危険な岩場、谷の渡渉やぶ漕ぎの連続など、ハードなコース (7時間以上)
- ⑤ 雨天中止・決行の判断は、前夜(18時以降)の当地の気象情報を見て、返信案内の判断基準により各自で判断してください(リーダーから連絡はしません)。雨降りの嫌いな方は、雨天・小雨決行の計画には申し込まないようお願いいたします。

| 期日 | 行先 | 定員 | リーダー | チャク |
|----------------|-----------------|-----|------|-----|
| 1 (日) | 生駒・南端〜木原山 | 30 | 塚元 | |
| 3 (火) | 鈴鹿・高畑山〜那須ヶ原山 | *10 | 田中賢 | |
| 5 (木) | 但馬・朝来山 | 24 | 木村 | |
| 8 (日) | 湖北・音波山 | 22 | 森脇 | |
| 8 (日) | 葛城・二上山〜屯鶴峰 | | 村田 | |
| 15 (日) | 京都西山・小塚山 | | 木村 | |
| 15 (日) | 比良・打見山〜蓬萊山〜権現山 | | 秦 | |
| 17 (火) | 京都西山・小塚山 | 10 | 田中明 | |
| 17 (火) | 京都東山・鏡山〜大文字山 | | 仲谷 | |
| 20 (金) | 室生・屏風岩〜園見山 | 25 | 西上 | |
| 21 (土) | 美濃・舟伏山 | 20 | 鷺見 | |
| 21 (土) | 志摩・横山 | | 稲垣 | |
| 21 (土) | 湖北・文室山 | | 高島 | |
| 21 (土)〜22 (日) | 参詣道伊勢路・三浦峠〜八景山越 | 22 | 村田 | |
| 22 (日) | 鈴鹿・高室山〜ザラノ | * | 岩野 | |
| 24 (火) | 高見山地・栗ノ木岳〜三峰山 | *10 | 田中賢 | |
| 25 (水) | 京都北山・伊賀谷山〜八丁平 | 40 | 金谷 | |
| 27 (金)夜〜29 (日) | 白山・茨ヶ岳〜白山槍新宮道 | 10 | 山田 | |
| 28 (土) | 湖西・大谷山 | 22 | 寺井 | |
| 29 (日) | 京都西山・桑谷山〜寺谷峠 | 40 | 村田 | |
| 5・4 (日)〜6 (日) | 台高・馬ノ鞍峰〜大台ヶ原 | 10 | 山田 | |
| 5・4 (日)〜6 (日) | 奥美濃・御前岳〜火山 | 10 | 山田 | |

| 期日 | 行先 | 定員 | リーダー | チャク |
|--------|-----------------|-----|------|-----|
| 3 (日) | 泉南・飯盛山 | | 塚元 | |
| 4 (日) | 鈴鹿・雨乞岳 | * | 岩野 | |
| 4 (日) | 京都北山・品谷山〜鹿村八丁 | 40 | 村田 | |
| 11 (日) | 湖北・妙理山 | 22 | 森脇 | |
| 13 (火) | 京都北山・峰山〜朝日峰 | | 仲谷 | |
| 13 (火) | 湖北・音波山 | *10 | 田中賢 | |
| 16 (金) | 大峰・小峠山 | 25 | 西上 | |
| 17 (土) | 湖北・塩津山 | | 高島 | |
| 17 (土) | 尾鷲・ゲジョ山 | * | 稲垣 | |
| 18 (日) | 鈴鹿・御池岳奥の平 | * | 岩野 | |
| 21 (水) | 京都北山・苔子山 | | 村田 | |
| 22 (木) | 奈良・高円山 | | 木村 | |
| 25 (日) | 鳥取・菟山 | 20 | 古賀 | |
| 25 (日) | 比良・鶴川越〜岩阿砂利山 | | 秦 | |
| 27 (火) | 湖北・伊吹野散策 | 10 | 田中明 | |
| 28 (水) | 京都北山・氷室北麓根のダラノ坂 | | 金谷 | |
| 31 (土) | 白山・野伏ヶ岳 | 10 | 山田 | |
| 31 (土) | 美濃・小島山〜ムネ山 | 20 | 鷺見 | |

*リマーカー山行

3/8 山田

地図読み山行

泉南・飯盛山(一般向き)
期日 3月3日(日) 日帰り
集合 南海孝子駅9時10分
コース 孝子駅→高仙寺→反射坂→飯盛山→展望地→みさき公園(解散)

新ハイキング関西支部と合同
昨午11月に雨で中止した山を再計画。低山をゆっくり歩きながら、地形図とコンパス(磁石)の使い方を勉強します。シルバー型コンパスを持参してください。初心者歓迎。雨天中止

鈴鹿を歩く259
残雪の雨乞岳(健脚向き)
期日 3月4日(日) 日帰り
集合 大河原「かもしか荘」広場8時30分
コース かもしか荘(車)→清水平谷分岐場→清水の頭→南南谷岳→雨乞岳→シヤクナ

コース 各集合駅(車)→橋ノ木峠→音波山→橋ノ木峠(解散・車)集合駅
費用 交通費各自
地図 2万5千1板取
係 田中賢治◎岡平くみ子
申込み 〒518-0626
名張市桔梗が丘6の2の18 田中賢治まで
*定員10名(会費に限る)
*マイカー山行(4名まで乗合可能です。希望者はその旨明記ください)
北園街道の橋ノ木峠から音波山へ。残雪があれば快適な雪履歩き。雪が無くても柳屋谷源頭の水ナを見物できます。やぶ漕ぎあり。
小雨決行

大峰・小峰山(一般向き)
期日 3月16日(日) 日帰り
集合 近鉄橿原宮前駅中央口8時05分
コース 橿原宮前駅(バス)→水尻バス停→P9266→殿宮休屋跡所→小峰山(往路)→水尻バス停(バス)→橿原宮前駅(解散17時30分)
費用 約2800円(バス代)

ケ尾根・林道(解散)

費用 交通費各自
地図 昭文社「御在所・雲仙・伊吹」
係 ◎岩野 明 ◎山田景二 ◎後藤康幸
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*マイカー山行
毎年恒例の残雪の雨乞岳です(62号78ページ参照)。
小雨(雪)決行

京都北山歩き120
残雪の品谷山から廣村八丁(中級向き)
期日 3月4日(日) 日帰り
集合 JR京都駅八条口団体バスのりば7時30分
コース 京都駅(バス)→佐々里峠→ダンノ峠分岐→品谷山→泉谷峠→廣村八丁→四郎五郎峠→ダンノ峠→菅原町(バス)→京都駅(解散17時)

費用 約3000円(バス代)
地図 昭文社「京都北山」
係 ◎村田智俊 ◎安倉正勝 ◎奥比呂美

地図 2万5千1板取ケ岳
係 ◎西上利和 ◎木村 豊 ◎前川和佳子
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*定員25名(会費に限る)
前鬼の北、展望の良い小峰山へ登ります。小雨決行

湖北の山
塩津山(初級向き)
期日 3月17日(日) 日帰り
集合 JR新定田駅10時10分
コース 新定田駅→追分→塩津山→深坂地蔵→新定田駅(解散)
費用 交通費各自
地図 2万5千1板取・駄口
係 ◎高島伸浩
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
業式部が交際場として通った深坂古道を歩く。残雪があるかも。カンジキ必須(マイカー山行可)。
雨天決行

雲山ハイク

湖北・妙理山(中級向き)
期日 3月11日(日) 日帰り
集合 JR京都駅八条口団体バスのりば7時20分
コース 京都駅(バス)→余呉町菅並→洞寿院→尾根取付→P780→P850→妙理山(往路)→洞寿院(バス)→京都駅(解散17時頃)

費用 約3000円(バス代)
地図 2万5千1中河内
係 ◎森脇貞義 ◎磯野重治
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

湖北・音波山(中級向き)
期日 3月13日(日) 日帰り
集合 JR伊賀上野駅前6時30分/JR米原駅東口8時35分/橋ノ木峠駐車場10時10分

期日 3月17日(日) 日帰り
集合 「道の駅海山」9時30分
コース 道の駅(車)→矢ノ川トンネル(車)→賀田口(車)→林道終点登山口→尾根→賀田分岐→ゲジョ山(往路)→登山口(車)→賀田口(解散16時頃)
費用 1500円
地図 2万5千1賀田
係 ◎稲垣逸夫
申込み 〒519-0311
鈴鹿市大久保町2065
稲垣逸夫まで
*マイカー山行

「下女山」とも言う。展望良。
雨天決行
鈴鹿を歩く260
残雪の御池岳奥の平(健脚向き)
期日 3月18日(日) 日帰り
集合 御池林道小又分岐広場8時30分
コース 広場→小又谷林道→ノタノ坂→土倉岳→奥の平→ボタンブチー→南峰→T字尾根→御池林道→広場(解散)
費用 交通費各自

小南(雪)決行

火曜ハイク30
愛宕山シリーズ15
裏愛宕・峰山から朝日峰(一般向き)
期日 3月13日(日) 日帰り
集合 梅ノ尾バス停9時00分
コース 梅ノ尾→高山寺→峰山(旧道)→谷山川林道→西明寺→山城高野バス停(解散15時40分頃)

費用 交通費各自
地図 昭文社「京都北山」
係 ◎伊谷 司 ◎沖 伸
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

2年前に雨で流れたコースの再計画です。久しぶりに奥愛宕を歩き、一部旧道を楽しみます。
雨天中止

湖北・音波山(中級向き)
期日 3月13日(日) 日帰り
集合 JR伊賀上野駅前6時30分/JR米原駅東口8時35分/橋ノ木峠駐車場10時10分

地図 昭文社「御在所・雲仙・伊吹」
係 ◎岩野 明 ◎山田景二 ◎後藤康幸
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*マイカー山行
毎年恒例の残雪の御池岳山行です(24号49ページ参照)。
小雨(雪)決行

村田智俊まで
早春のツボクリ谷を楽しむ、皆
子山へ登る(木杓51ページ参照)。
雨天中止

ファミリアハイク100
奈良・高円山(初級向き)
期日 3月22日(休) 日帰り
集合 近鉄奈良駅東地上・行き基
後晴水前9時50分

コース 奈良駅一ささやきの小道
一白雲寺一高円山一地獄
谷石神仏一首切地蔵一柳
生街道滝坂道一奈良駅
(解散)

費用 約1100円(難波駅か
ら)

地図 2万5千ニ奈良・柳生
係 ◎木村太郎
申込み 〒565-1085 4

吹田市桃山台1の2のB
12の209 木村太郎まで
馬酔木の花が香しい春日の森を
抜けて、万葉集に詠まれた大和太
文念山へ歩く。雨天中止

鳥取・笠山(一般向き)
期日 3月25日(日) 日帰り
集合 JR加古川駅8時00分
コース 加古川駅(バス) 智頭町

和田山牧場跡一野伏ヶ岳
一(往路)一石鏡(復)
西坂草駅(参加費車代
交通費各自(参加費車代
2000円*レンタカー
使用の場合は3000円)
使用の場合は3000円)
地図 2万5千ニ越前勝山
係 ◎山田明男
申込み 〒503-1053 5

海津市南郷町松山624の19
山田明男まで
*定員10名程度
残雪を踏んで歩きます。雪質に
よっては鎌刀山へも行きますよ。
雨天中止

自然観察山行229
美濃・小島山からムネ山
期日 3月31日(日) 日帰り
集合 JR大垣駅9時00分
コース 大垣駅(バス) 櫻村バス
停一小島山一ムネ山一小
島山一櫻村バス停(バス
大垣駅(解散)
費用 約4000円(大垣駅か
らバス代等)
地図 2万5千ニ池野
係 ◎鷺宮守康
申込み 〒504-0828

中田P868一籠山一
惣地分岐(バス) 加古川
駅(解散19時頃)
費用 約4500円(加古川駅
からバス代等)

地図 2万5千ニ智頭
係 ◎古賀隆一 ◎岡田 昇
申込み 〒675-0112

加古川市平岡町山之上684
の33・17A403
古賀隆一まで
*定員20名(会費に際る)
稜線の雰囲気良く、頂上から
の展望もグッドな山です。
雨天中止

比良を歩く56
鷲川越から岩阿砂利山
期日 3月25日(日) 日帰り
集合 JR近江高島駅バスのり
ば9時00分(9時03分発
畑行きに乗り)

コース 近江高島(バス) 鹿ヶ
瀬道一砂嶺寺一鷲川越一
岩阿砂利山一八王子一鳥
越峰一オム岩一岳山一
岳野堂跡一火炊神社・
音羽一近江高島駅(解散
16時20分頃) *歩行5時

各務原市蘇原村雨町1の
19の5 鷺宮守康まで
*定員20名(申込み状況
によっては減員あり)
昨年11月に中止した小島山から
ムネ山を再計画します。小雨決行
鈴鹿を歩く201
花の雲仙山西南尾根(登道向き)
期日 4月1日(日) 日帰り
集合 河内線津島登り口広場
8時00分

コース 広場一あけん原一行者の
森一笹峠一近江展望台一
南雲岳一雲仙山一終塚山
一見晴台一落合一あけん
原(解散)
費用 交通費各自
地図 昭文社「御在所・雲仙・
伊吹」
係 ◎岩野 明 ◎山田景三
◎後藤康幸
申込み 〒610-0121

城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*マイカー一山行
毎年恒例の花の雲仙山西南尾根
を歩きます。今年の花はどうだろ
う。雨天中止

開30分
費用 約1900円(京都から)
地図 2万5千ニ北小松
昭文社「比良山系」
係 ◎秦 康夫
申込み 〒610-0121

城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
残雪の状況により一部コース変
更あり。雨天中止

花巡り山行38
伊吹野散策(初級向き)
期日 3月27日(日) 日帰り
集合 JR近江長岡駅バスのり
ば8時45分乗車

コース 近江長岡駅(バス) ジョ
イ伊吹(バス) 伊吹野散
策(バス) ジョイ伊吹
(入浴・バス) 近江長岡
駅(解散17時頃)

費用 約4000円(京都から)
地図 2万5千ニ関ヶ原・美濃・
虎御前
係 ◎田中 明
申込み HPからメールのみ受付
http://hana04.jp.
infoseek.co.jp
*定員10名(会費に際る)
スママソウ・セブンソウ・ア

地図読み山行80
生駒・生駒山南端から木原山
期日 4月1日(日) 日帰り
集合 近鉄生駒駅9時15分
コース 額田駅一牧岡公園一生駒
山南端一時峠一大原山一
鳴川峠一千光寺一近鉄元
山上駅(解散)

費用 約1000円(大阪から)
地図 2万5千ニ生駒山・信貴
山
係 ◎塚元一彦 ◎中村 登
申込み 〒536-0008

大阪市城東区関目4の14
の9の901 塚元一彦まで
*定員30名
新ハイキング関西支那と合同
生駒山から大阪平野と奈良盆地
が展望できます。地形図とコンパ
ス(磁石)の使い方を勉強します。
シルバー型コンパスを持参して
ください。初心者歓迎。雨天中止

鈴鹿・高畑山から那須ヶ原山
期日 4月3日(日) 日帰り
集合 近鉄桂橋が丘駅前8時05
分/JR伊賀上野駅前8
時30分/大原ダム左岸タ

スマイチゲなどの早春講を楽しみ
ましょう。雨天中止
北山ちよつと歩き87
氷室北尾根のガラノ坂
(一般向き)
期日 3月28日(日) 日帰り
集合 京阪出町柳駅バスのりば
9時20分

コース 出町柳駅(バス) 地下鉄
北大路駅前(バス) 白梅
橋一持越峠一白木谷山一
ガラノ坂一氷室一京身峠
一船山一尺八の池一釈迦
谷口バス停(解散)

費用 約1000円(京都駅か
ら)

地図 昭文社「京都北山」
係 ◎金谷 昭
申込み 〒610-0121

展望の山28
白山・野伏ヶ岳(健脚向き)
期日 3月31日(日) 日帰り
集合 JR西成草駅6時50分
コース 西成草駅(車) 石鏡白

ムサイト9時30分
各集落地(車) 鶴野神社
前一高畑山一薄千山一坂
下峠一那須ヶ原山一大原
ダム(逆コースの場合も
あり)

費用 交通費各自
地図 2万5千ニ鈴鹿峠
係 ◎田中賢治 ◎岡平くさ子
申込み 〒518-0626

名張市桂橋が丘6の2の
18 田中賢治まで
*定員10名(会費に際る)
*マイカー一山行一4名ま
で乗合可能です。希望
者はその旨明記ください。
南嶺の核心部をちょっぴりハ
イに縦走します。時間的に忙しい
山行になりそうです。車を運送し
ますので、予定が変更になる場合
があります。小雨決行

ファミリアハイク101
但馬・朝来山(一般向き)
期日 4月5日(日) 日帰り
集合 JR大阪駅一階止西口
8時00分

コース 新大塚駅(バス) 立雲鞍
駐車場一おなり池一朝
来山一雲石神社一駐車場

新ハイキング関西まで
*定員10名(会費に際る)
残雪の状況により一部コース変
更あり。雨天中止

花巡り山行38
伊吹野散策(初級向き)
期日 3月27日(日) 日帰り
集合 JR近江長岡駅バスのり
ば8時45分乗車

コース 近江長岡駅(バス) ジョ
イ伊吹(バス) 伊吹野散
策(バス) ジョイ伊吹
(入浴・バス) 近江長岡
駅(解散17時頃)

費用 約4000円(京都から)
地図 2万5千ニ関ヶ原・美濃・
虎御前
係 ◎田中 明
申込み HPからメールのみ受付
http://hana04.jp.
infoseek.co.jp
*定員10名(会費に際る)
スママソウ・セブンソウ・ア

地図読み山行80
生駒・生駒山南端から木原山
期日 4月1日(日) 日帰り
集合 近鉄生駒駅9時15分
コース 額田駅一牧岡公園一生駒
山南端一時峠一大原山一
鳴川峠一千光寺一近鉄元
山上駅(解散)

費用 約1000円(大阪から)
地図 2万5千ニ生駒山・信貴
山
係 ◎塚元一彦 ◎中村 登
申込み 〒536-0008

大阪市城東区関目4の14
の9の901 塚元一彦まで
*定員30名
新ハイキング関西支那と合同
生駒山から大阪平野と奈良盆地
が展望できます。地形図とコンパ
ス(磁石)の使い方を勉強します。
シルバー型コンパスを持参して
ください。初心者歓迎。雨天中止

鈴鹿・高畑山から那須ヶ原山
期日 4月3日(日) 日帰り
集合 近鉄桂橋が丘駅前8時05
分/JR伊賀上野駅前8
時30分/大原ダム左岸タ

スマイチゲなどの早春講を楽しみ
ましょう。雨天中止
北山ちよつと歩き87
氷室北尾根のガラノ坂
(一般向き)
期日 3月28日(日) 日帰り
集合 京阪出町柳駅バスのりば
9時20分

コース 出町柳駅(バス) 地下鉄
北大路駅前(バス) 白梅
橋一持越峠一白木谷山一
ガラノ坂一氷室一京身峠
一船山一尺八の池一釈迦
谷口バス停(解散)

費用 約1000円(京都駅か
ら)

地図 昭文社「京都北山」
係 ◎金谷 昭
申込み 〒610-0121

展望の山28
白山・野伏ヶ岳(健脚向き)
期日 3月31日(日) 日帰り
集合 JR西成草駅6時50分
コース 西成草駅(車) 石鏡白

ムサイト9時30分
各集落地(車) 鶴野神社
前一高畑山一薄千山一坂
下峠一那須ヶ原山一大原
ダム(逆コースの場合も
あり)

費用 交通費各自
地図 2万5千ニ鈴鹿峠
係 ◎田中賢治 ◎岡平くさ子
申込み 〒518-0626

(バス)よふと温泉(バス)新大阪駅(解放)
費用 約4000円(バス代)
地図 2万5千=但馬竹田
係 ◎木村太郎
申込み 〒565-0854
吹田市桃山台1の2のB
12の209 木村太郎まで
*定員24名(会費に限る)

但馬吉野と編まれる立雲峽の山桜を愛で、竹田城跡や但馬山地の展望を楽しむ。雨天中止

湖北・寶波山(中級向き)
期日 4月8日(日) 日帰り
集合 JR京都駅八条口バスのりば7時20分

コース 京都駅(バス)余呉町・橋ノ木峠・バラボランテナー(解放)橋ノ木峠(バス)京都駅(解放)17時頃
費用 約3000円(バス代)
地図 2万5千=坂取
係 ◎森脇貞義 ◎磯野重治
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*定員22名(会費に限る)

江越園境の音波山に登ります。

磯線はブナ林が続く途中からやぶになります。雪が残ってればよいのですが、念のため軽アイゼンを持参ください。展望はあります。雨天中止

葛城・二上山から屯鶴峰
(一般向き)
期日 4月8日(日) 日帰り
集合 近鉄二上山駅9時30分
コース 二上山駅→新池→雄岳→雌岳→万葉の森→鉄線峠→クノ穴虫跡→屯鶴峰→関屋駅(解放)16時頃

費用 約1500円(大阪から)
地図 昭文社「葛城高原・二上山」
係 ◎村田智俊 ◎安倉止勝
申込み ◎呉比呂美
〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
村田智俊まで

桜がいっぱいの二上山園境でゆっくりし、奇岩の続く屯鶴峰へ足をのばす。雨天中止
ファミリーハイイク102
京都西山・小塩山(一般向き)
期日 4月15日(日) 日帰り
集合 阪急東向日駅9時40分

東向日駅(バス)南春日町→大原野神社→カタクリの花保全地→小塩山→淳和天皇陵→外畑分岐→大原野公園森の案内所→杉谷→三ヶ寺→善峰寺(バス)東向日駅(解放)
費用 約1000円(バス代)
地図 2万5千=京都西南部
係 ◎木村太郎
申込み 〒565-0854
吹田市桃山台1の2のB
12の209 木村太郎まで
春がすみの大原野からカタクリの小塩山をめぐる、しだれ桜の三ヶ寺へくだる。雨天中止

比良を歩く57
打見山・蓬萊山・権現山
(一般向き)
期日 4月15日(日) 日帰り
集合 JR志賀駅バスのりば9時00分(9時02分発)びわ湖パレオ行き(乗車)
コース 志賀駅(バス)びわ湖パレオ前(ランドラ)打見山→蓬萊山→小女郎池→ハッケ山→権現山→スゴバン→雲仙山→妙道会堂
地または栗原(バス)和

*定員20名(申込み状況によっては減員あり)
恒例の春の花満開の舟伏山フラワートレッキングです。小雨決行
三重の山95
志摩・横山(一般向き)
期日 4月21日(日) 日帰り
集合 近鉄志摩横山駅10時45分
コース 志摩横山駅→横山第一展望台→第一展望台→第三展望台→横山(往路)
申込み 志摩横山駅(解放)15時頃

運沢(解放) *歩行5時間30分
費用 約2700円(京都から)
地図 2万5千=比良山
係 ◎昭文社「比良山系」
◎秦 康夫
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
残雪の状況により一部コース変更あり。雨天中止

花巡り山行39
京都西山・小塩山(一般向き)
期日 4月17日(日) 日帰り
集合 阪急桂駅東口8時26分発
鳥飼行きJRバスに乗車
コース 桂駅(バス)峠西口→鶴ノ子林道→ノ谷→小塩山→大塚山→洛西高校前バス停(解放)17時頃

費用 約800円(バス代等)
地図 2万5千=京都西南部
係 ◎田中 明
申込み HPPからメールのみ受付
http://hana.04.jp.
infoseek.co.jp
*定員10名(会費に限る)
六ヶ所ほどのカタクリを堪能しましょう。雨天中止

火曜ハイイク31

京都東山・鏡山から大文字山
(初級向き)
期日 4月17日(日) 日帰り
集合 JR京都山科駅9時30分
コース 山科駅→P258(鏡山)→P298→大文字山→法然院(解放)15時頃

費用 交通費各自
地図 2万5千=京都東南部
係 ◎仲谷利司 ◎沖 伸
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
御陵牛尾町から登るハイキングコースで、歩きやすい尾根道からの山科の展望は最高です。大文字山から京都市内を見下ろしてから下山します。雨天中止

室生・屏風岩から園見山
(一般向き)
期日 4月20日(日) 日帰り
集合 近鉄福原神宮前駅中央口
コース 福原神宮前駅(バス)屏風岩→公苑→尾根取付→ノ峰→住塚山→園見山→松ノ山→クマタワ→南松の滝→宇野川橋(バス)

福原神宮前駅(解放)17時30分頃
費用 約2600円(バス代)
地図 2万5千=大和野
係 ◎西上利和 ◎木村 豊
申込み ◎前川和佳子
〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*定員25名(会費に限る)
杜親な屏風岩の尾根から屏風岩公苑の山桜を鳥瞰し、住塚山から園見山へと縦走します。小雨決行

自然観察山行230
美濃・舟伏山(一般向き)
期日 4月21日(日) 日帰り
集合 JR大垣駅9時00分
コース 大垣駅(バス)あいの森駐車場→さくら峠→あいの森→舟伏山→舟伏→あいの森駐車場(バス)
申込み 大垣駅(解放)から(バス代等)

費用 約4000円(大垣駅からバス代等)
地図 2万5千=谷合
係 ◎鷺見守康
申込み 〒504-0828
各務原市藤原村雨野1の19の5 鷺見守康まで

湖北の山
文室山(初級向き)
期日 4月21日(日) 日帰り
集合 JR近江塩津駅10時00分
コース 近江塩津駅→文室山(往路)

費用 1500円
地図 2万5千=磯部・浜島
係 ◎稲垣逸夫
申込み 〒519-0311
鈴鹿市大久保町2065
稲垣逸夫まで
標高203.3mの低山ながら、英虞湾の絶景を満喫できます。雨天決行

伊勢山地の参詣道を歩く13
伊勢路②
◎加田から三浦峠→始神峠
◎麓下から馬越峠→八鬼山越

期日 4月21日(日) 22日(日) 1泊2日
集合 「21日」近鉄大和八木駅北口8時00分
コース 「21日」八木駅(バス)平方峠→古里展望台→三浦峠→始神峠→内探磯→江戸道→始神峠→馬瀬(バス)あまの里(泊)「22日」宿(泊)麓下→馬越峠→大狗倉山(往復)→馬越公園(バス)尾鷲節歌碑→磯部橋跡→

九木峠―三木峠―八鬼山
 江戸道―名柄―里塚
 (バス) 天理駅(解散19時頃)
 費用 約18000円(バス・宿泊代等)
 地図 当日詳細図配布
 係 ◎村田智俊 ○安倉止勝 ○奥比裕美
 申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 村田智俊まで

*定員22名(会費に限る)
 紀伊長島から尾鷲市三木里までいくつもの峠を越え、開春の海や山々を見ながら伊勢路をたどる。天狗倉山・八鬼山への登山もかねる。雨天決行

鈴鹿を歩く262
 高室山からザラノ(中級向き)
 期日 4月22日(日) 日帰り
 集合 多賀栗栖神社手前広場8時30分
 コース 広場(車) 保月―巡視路―P668―高室山―P777―ザラノ―スリパチ池―林道―保月(解散)
 費用 交通費各自
 地図 昭文社「御在所・雲仙・

伊吹 明 ○山田景三
 ◎岩野康幸
 申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで
 *マイカー山行
 前年は秋雨で中止した山行。保月から高室山に登り、北東のザラノから桃現谷へ続く秘境の尾根を歩きます。雨天中止

高見山地
 栗ノ木岳から三峰山縦走
 (健脚向き)
 期日 4月24日(日) 日帰り
 集合 近鉄桔梗が丘駅前8時35分/伊勢奥津駅前9時50分
 コース 各集合駅(車) 若宮八幡―栗ノ木岳―修験堂山―三峰山―北尾根―弓木コル―坂木谷(車) 集合駅(解散)
 費用 交通費各自
 地図 2万5千 菅野・富前
 係 ◎田中賢治 ○藤平くさ子
 申込み 〒518-0626 名張市桔梗が丘6の2の18 田中賢治まで

やぶ漕ぎ山行⑤
 京都北山・桑谷山から寺苔峠
 (中級向き)
 期日 4月29日(日) 日帰り
 集合 JR京都駅八条口団体バスのりば7時40分
 コース 京都駅(バス) 能見口―長戸谷―植林道―西尾根―桑谷山西峰―東峰―P796―寺谷峠―寺谷―交流の森センター(入浴)―バス 京都駅(解散18時頃)
 費用 約3000円(バス代)
 地図 昭文社「京都北山」
 係 ◎村田智俊 ○安倉止勝 ○奥比裕美
 申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 村田智俊まで

*定員10名(会費に限る)
 *マイカー山行(4名まで乗合が可能です。希望者はその旨お記ください)
 日長を利用して、高見山地東部主線縦走。下りは北尾根から坂本谷へ。車を運送しますので、予定が変更になる場合があります。小雨決行

北山ちよつと歩き88
 伊賀谷山から八丁平(中級向き)
 期日 4月25日(日) 日帰り
 集合 JR京都駅八条口団体バスのりば7時50分
 コース 京都駅(バス) 中村―伊賀谷山―西南尾根―899峰―府県境分岐―二の谷林道―八丁平―回遊―中村乗越―伊賀谷林道終点―中村(バス) 京都駅(解散17時30分頃)
 費用 約3000円(バス代)
 地図 2万5千 花背
 係 ◎金谷 昭 ○磯部 純
 申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで
 *定員40名
 あまり歩かれていない伊賀谷か

9時00分
 コース (3日) 大和上市駅(タクシー) 明神出合―カクシ平―馬ノ鞍峰―キャンア地(テント泊)
 (4日) キャンア地―山ノ神ノ頭―父ヶ谷の高―杉又高―桑谷山―大台辻(テント泊)
 (5日) 大台辻―大台ヶ原(バス) 大和上市駅(解散16時頃)
 費用 約6000円(上市駅からタクシー・バス代)
 地図 昭文社「大台ヶ原」
 係 ◎村田智俊 ○安倉止勝 ○奥比裕美
 申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 村田智俊まで

新緑の西側尾根を経て八丁平を歩きます(91号72ページ参照)。雨天中止

展望の山29
 白山・笈ヶ岳と白山槍新宮道
 (健脚向き)
 期日 4月27日(日) 夜2泊3日
 集合 (27日) JR関ヶ原駅19時00分
 コース (27日) 関ヶ原駅(車) 一里野温泉(泊)
 (28日) 一里野温泉(車) 中宮温泉―冬瓜山―シリタカ山―笈ヶ岳―往路―中宮温泉(車) 一里野温泉(泊)
 (29日) 一里野温泉―槍新宮道(加賀御定道)―しかり場―一里野温泉(車) 木之本駅―関ヶ原駅(解散)
 費用 交通費各自(参加費・車・宿泊代約20000円)
 地図 2万5千 中宮
 係 ◎山田明男
 申込み 〒503-0535 海津市南濃町松山624の19 山田明男まで

夜発2泊3日
 集合 (4日) JR西岐草駅19時00分
 コース (4日) 西岐草駅(車) 白川村民宿(泊)
 (5日) 民宿(車) 直谷林道―御前岳(往路) 直谷林道(車) 民宿(泊)
 (6日) 民宿(車) 荏川―磐間峠―火山(往路) 荏川(車) 西岐草駅(解散)
 費用 交通費各自(参加費・車・宿泊代約20000円)
 地図 2万5千 三日町
 係 ◎山田明男
 申込み 〒503-0535 海津市南濃町松山624の19 山田明男まで

*定員10名程度
 二百名山の笈ヶ岳へはこれが最後の例会。まだ行ってない人を優先しますが、健脚向きで大変きついなので、山田の例会山行に参加実績のある人のみ参加を受け付けます。雨天決行

平日ふれあいハイイク62
 湖西・マキノから大谷山
 (一般向き)
 期日 4月28日(日) 日帰り
 集合 京都駅八条口団体バスのりば7時30分
 コース 京都駅(バス) マキノ石庭―大谷山―ムギの峰―マキノスキー場(バス) 京都駅(解散17時頃)
 費用 約3000円(バス代)
 地図 2万5千 駄口・海津
 係 ◎寺井恒夫
 申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで
 *定員22名(会費に限る)
 草原の頂上は高原の趣があり、展望は良好。ゆっくり歩き、コーヒータムもとり合唱もしましょうか。雨天中止

自然林に包まれた北山の森をやぶ漕ぎで歩く。雨天中止

馬ノ鞍峰から南へのびる主稜をテント泊で大台ヶ原へ。若菜・楊々の花が美しいだろう。水場のテント場を探して泊まる。雨天決行(コース変更あり)。
 展望の山30
 奥美濃・御前岳と火山
 (健脚向き)
 期日 5月4日(日) 夜2泊3日

—金ヶ岳11・35(昼食)12・10—
ふれあいの里奥林道登山口13・25
(バス)明野太陽館13・45
(入浴)14・30(バス)岐阜駅18・
40(解散)

深田百名山の瑞巒山は登山者が
多く閉口したが、復路は閑散とし
た不動滝のコースをくだった。く
だり切った全国植樹祭広場からは
瑞巒山の全景が仰げた。茅ヶ岳か
ら金ヶ岳への縦走は歩き必えのあ
るコース。茅ヶ岳山頂手前の深田
久次終焉の地の碑からは、金峰山
と富士山の遠望がすばらしかつ
た。

(参加者)伊藤 直 藤野美紀恵
内田康夫 近江秀子 加納由紀子
小松志信 佐々木三三子
杉本 高 鳥居信吾 森 美香子
牧 和夫 ○仲谷礼司
◎覚見守康 (計13名)

京都大学学生研究林
比良・オグラス(鏡谷ヶ峰)
(昔生定高観祭9・展望の山25)
11月4日(出)5日(泊)2日
(4日)晴れ(集合)JR関ヶ
原駅7・15/JR近江今津駅8・
30(車)生杉休憩所10・00—三國
峠10・35—野田畑峠11・40—広場

佐古田文字 横田とも子
北村つねみ 武藤由美子
横山かず子 ◎山田明男(計13名)

打見山から鳥谷山・櫻鉢山
(比良を歩く54)
11月12日(日)◎泰 康夫
*雨天のため中止しました。

台高
シャッポ山尾根から千石山
11月13日(日)夜、14日(祝)
前夜発日帰り
(13日)(集合)近鉄橋原駅21・
10(車)運ダムサイト22・20(テ
ント泊)
(14日)晴れ時々くもり)運ダム
サイト(車)千石林道車止地点8・
00—奥ノ平谷出合8・05—シャッ
ポ山10・55—千石山11・50(昼食)
12・40—瀬戸越13・15—赤瀧滝谷
出合14・10—千石林道14・25—柱
車地点15・50(車)橋原駅17・10
(解散)

昔の面影もない、崩れた奥ノ平
谷左岸の仕事道跡をたどる。サス
ヶ池への下り付近からは、道形は
全く消えているが、シャッポ山へ
は右手の斜面を直登する。シャッ
ポ山南面の岩壁の切れ目を抜けて

11・50(昼食)12・35—シンコボ
13・10—杉尾岐13・50—地蔵峠分
岐(中山)15・10—地蔵峠15・25
—生杉休憩所16・00—10(解散)
(車)朽木温泉てんくう17・00(泊)
(5日)晴れ(集合)道の駅朽
木本陣8・45(車)朽木温泉てん
くう9・00—いきものふれあいの
里9・20—指月谷10・30—ふれあ
いの里分岐11・20—オグラス11・
45(昼食・反射板往復)12・35—
朽木温泉てんくう13・55(入浴)
14・40(解散)

定点観祭の最終回、杉尾岐まで
行って太谷から戻った。紅葉には
まだ早い感じだったが、場所によ
り赤中心の紅葉がきれいに見られ
た。オグラスでは黄葉のシロモジ
が八百目付近から上できれいに見
られた。

(参加者)中神孝子 長坂佐知子
杉崎初子 竹田豊英 佐古田文字
村田紀生 山口和子 横田とも子
奥村美恵子 佐々木孝子
林 正義 ◎山田明男
(4日)のみ山田妙子 伊藤美恵子
竹内孝子 緒方明子 生越重美子
(5日)のみ巻見重美 朝倉松雄
西村文男 (計20名)

広々とした二次林を登れば頂上。千
石山までは最後の急登を除いて、
なだらかなプロムナード。瀬戸越
道の稜線直下は全くわからないが、
喜平小泉谷の左水源流を見たこと
が、左手(右岸)植林帯に道が見つか
る。千石林道では、一カ所山手の
斜面が崩落していて、落石を見張
りながら一人ずつ通過。雨が降り
ば危険で通れない。*現在、三重
県によって通行禁止にされてい
る。

(参加者)大村優子 佐古田文字
鮫田二郎 村田紀生 湯浅みや子
高原芳彦 榎本初子 堀 真知子
真高知恵 中井昭一 南 智恵子
吉田峰子 井沢重正 伊藤喜久男
◎岡平くみ子 ◎田中賢治
(計16名)

湖西・三十三間山
11月17日(祝)くもり
(集合)JR京都駅7・15(バス)
三万町能登野点山口9・20—林道
終点尾根取付点10・10—P69.5
終11・20—稜線南11・50(昼食)
12・25—P83.8—P13・00—三十三
間山13・20—巻見15・20(バス)
京都駅18・00(解散)

奥の畑谷から雨之岳
(鈴鹿を歩く251)

11月5日(日)晴れ
(集合)藤切谷林道入口広場8・
30—桜地蔵9・15—奥の畑谷出合
9・50—奥の畑峰11・50—雨之岳
12・30—西雨之岳12・40(昼食)
13・25—炭焼コバ13・45—向山鉱
山事務所跡14・20—藤切谷林道広
場16・20(解散)

朝日に輝く紅葉を楽しみながら
奥の畑谷から峰に登ると、リンド
ウの花が出迎えてくれた。山頂は
薄曇り、西雨之岳で展望を楽しみな
がら昼食。炭焼コバから急斜面を
向山鉱山跡に一気に下りた。

(参加者)高橋静治 森谷 昭
磯部 純 高杉 博 今井みよ子
北村 稔 一芝義雄 一芝美知子
稲津謙治 永戸鉄治 南 智恵子
池田隆一 大石村美 網木美重子
榎田勝利 井口俊介 石田真由美
小林 修 白木良弘 白木やす子
伊東弘隆 大西節郎 森 健治
武村千鶴 ◎山田景三
◎岩野 明 (計26名)

美作・三ヶ上山
(ファミリーハイク96)
11月8日(祝) ◎木村太郎

紅葉はもう少し時がかかりそう
なのに、稜線は葉が落ちていく樹々
が多い。冷たい風を避けての寒い
昼食であった。三万五湖・若狭の
海は曇り空のなかにあった。

(参加者)小谷和子 角田一江
堀原香織 藤 隆司 妹尾一正
平田輝美 渡部和美 小川富士雄
近江秀子 中川光郎 野末あや子
若木彩子 堀内預智 木内範文
栗橋裕子 小栗大直 本間 隆
辻 陽子 西 悦子 水見真砂子
岩城豊子 和田直樹 佐々木輝子
山根芳美 ◎川上久堅 (計26名)
◎寺井恒夫

大台ヶ原・西大台から至ノ峰
11月17日(祝)晴れ
(集合)近鉄橋原神宮前駅8・05
—10(バス)大台ヶ原駐車場10・
00—15—大台ヶ原教会—七ツ池11・20
—開拓分岐12・05—展望所12・15
(昼食)12・50—至ノ峰14・20—
林道出合15・50—小丸温泉16・00
(入浴)17・00(バス)橋原神宮
前駅18・50(解散)
車窓から見る山々の紅葉は美し
かったが、西大台はすでに冬枯れ
展望所から大眺望を望みながらの
んびりと昼食。晩秋の河合道をく

*リーダーの都合により中止し
ました。

富士見山行①
山梨・毛無山と長者ヶ岳
(花巡り山行34)
11月10日(祝)12日(祝) 2泊3日
◎田中 明
*バス定員に達しなかったため中
止しました。

美濃・大洞山(展望の山25)
11月12日(日)晴れ一時雪
(集合)JR西岐阜駅6・30—55
(車)郡上市和良道の駅8・15
(車)大月の森公園8・35—45—
尾根の鉄塔9・15—大月谷の登山
道合流10・15—大洞山11・05(昼
食)11・35—林道12・15—大月の
森公園12・45(車)八百津町・長
者屋敷14・30—砥山15・00—長
者屋敷下15・40(車)西岐阜17・
20(解散)

紅葉は最高にきれいで案内した
かがあった。食後、雪が降って
きて早目下山し、もう一山の1
等点の砥山へ登ってからの帰った。
(参加者)吉村 昭 伊藤重美子
朝倉松雄 小林一世 生越重美子
山影 明 長坂佐知子

だり、温泉で汗を流した。

(参加者)鮫田二郎 有田由紀子
若本彩子 松村輝子 中尾美智子
川原寛子 沖 伸 佐々木輝子
志木明美 岩佐 修 伊東ナナ子
前田初雄 馬鹿忠男 山根芳美
塚本忠次 岡田豊治 山根芳美
松田和恵 竹田豊英 今泉 融
飯島 啓 岩村春子 久保田玲子
秋光哲也 細野秋也 野村 潔
大石吉彦 山下恒三 川上久堅
古山孝男 西原成夫 宮路ちへ子
渡部和美 夏山春子 ◎木村 豊
◎加藤元彦 ◎前川和佳子
◎西上利和 (計38名)

高堂山からザラノ
(鈴鹿を歩く252)
11月19日(日)◎岩野 明
*雨天のため中止しました。

泉南・飯盛山
(地図読み山行78)
11月19日(日)◎塚元一彦
*雨天のため中止しました。
美濃・小島山からムネ山
(自然観察山行224)
11月19日(日)◎覚見守康
*雨天のため中止しました。

南山城・良山から万灯籠山
(火曜ハイク26)

11月21日(日) 晴れ
(集合) JR玉水駅9・20→40→
玉津園神社10・00→20→駒岩10・
30→40→大正池11・50(集合)12・
40→良山13・10→万灯籠山15・00
→20→山城多賀駅16・05→10(解
散)

遺跡で電車が運れる。車道歩き
の多いコースであったが紅葉も見
られ、珍しい名前の良山、展望の
すばらしい万灯籠山と里山を過っ
た一日であった。
(参加者)大林 進 小川富士雄
辻垣嗣子 若林文夫 船越みよ子
木村 豊 岩本彩子 光川一美子
渡部和美 夏山春子 加納田紀子
和田純子 中村美津子 横川ゆり子
塚本忠次 中村英雄 中村里美子
上田久子 岩城豊子 今村あやの
堀内智留 山根弘美 金谷 昭
和田直樹 中尾博子 栗岡克子
西 悦子 青木一雄 林 弘毅
村井芳子 市野博文 野末あや子
兼田幸子 小谷和子 井上由紀晴
井上聡美 山縣静美 猪野美枝子
○小松志信 ○船本裕巳子
○沖 伸 ◎供合礼司(計22名)

宇陀・音羽三山
(ファミリアハイク97)

11月23日(日) ◎木村太郎
*リーダーの都合により中止しま
した。

鈴鹿・御在所岳(三重の山91)
11月25日(日) くもり
(集合) 近鉄湯の山温泉駅9・00
(重) 若滝駐車場9・25→若滝不
動9・35→40→日向小屋10・05→
藤内小屋10・30→40→藤内壁分岐
11・05→国見峠11・55→12・00→
御在所東ピーク12・15(集合)12・
50→カモシカセンター12・55(見
学)13・30→御在所三角点13・45
→55→武平峠15・05→三ツッ谷入
口15・48→一の谷茶屋跡16・10→
ロブウェイ駅16・35→若滝駐車
場16・45(解散)
ガスで眺望はゼロ。武平時への
下りやと霧が消え雲が切れ、
鎌ヶ岳の大三角と向き合った。三
角目から下の紅葉はよかった。カ
モシカセンターの閉鎖は残念で
す。
(参加者) 徳田暢子 岡本美千子
上田裕子 永戸鉄治 石田真由美
平 龍一 平 幸子 宮路ち(子
中森義信 ◎福田逸夫(計10名)

室生・鐘岳から兜岳
(週末ハイク77)

11月25日(日) くもり
(集合) 近鉄大和八木駅8・30
(バス) 新宅本館前、鐘岳登山口
9・40→45→清水山鞍部10・50→
55→清水山11・05→鞍部11・15→
鐘岳11・30(集合)12・15→逢坂
峠12・45→兜岳13・30→40→目無
地蔵14・25→清浄の滝14・40→サ
ンビレッジ15・00→10(バス)
大和八木駅16・40(解散)

鐘岳手前の展望所から東東の俱
留尊山は雲がかかっていたが、お
兜池や枯れスキの高原は眺めら
れた。紅葉はきれいではなかった。
兜岳の急な上り下りは距離が短い
ので思うほど難澁しない。
(参加者) 堀江房彦 小川富士雄
白福忠子 里見幹生 都築由美子
栗橋崇吉 小山誠次 船本裕巳子
上田直代 岡田直規 船越みよ子
秋枝秀賢 奥田真雄 河本美千子
夏山春子 鶴岡真吉 荻野美紀恵
○安倉正勝 ◎荻野東彦(計19名)

一足早い忘年山行
播磨・高塚山と重石山

11月25日(日) 26日(日) 1泊2日
(25日) 晴れ (集合) JR姫路
駅バスターミナル9・15→20(バ
ス) 宮野バス停10・15→発着所跡
10・26→一の滝10・50→観音11・

9・55→510(地点)10・15→大
崖11・00→インディアン平原11・
45(集合)12・55→大崖13・30→
主尾根分岐13・40→510(地点)
14・10→鉄塔14・40→登山口14・
55(解散)
葉をすべて落としたブナ林。3
00以上2000以上のやぶを抜ける
とインディアン平原に到着。敦賀
湾・敦賀半島・敦賀市街が目の前
に広がっていた。下りのブナ林で
はハイモニカ、生オケなどでゆく
秋を惜しみ、壮春を楽しんだ。
(参加者) 西田俊治 武藤由美子
山形 明 岩本彩子 中戸喜久江
石原君子 白木良弘 白木やす子
平塚明美 荻野暢子 本田ノブ
岩城健司 緒方由子 小松志信
谷 守 神野孝允 松村雅子
木村 豊 伊丹野子 磯部 純
横井 徹 横井裕子 ◎高島博治
(計23名)

10・1 飯池11・41(昼食)12・20

10・1 飯池11・41(昼食)12・20
→高塚山12・50→13・05 林道13・
30→40(バス) 福知溪谷休養セン
ター(泊)
(26日) 雨 福知溪谷休養センター
8・05(バス) 松ノ木倉庫駐車場8・
55→9・05 飯石橋9・10→サブ
尾根9・50→猫石10・30→飯石山
10・40→50→松ノ木倉庫駐車場11・
30(バス) エイガイヤ11・40(入
浴・昼食後・バス) 姫路駅15・15
(解散)
初日は初冬と思えない暖かさと
相俵に恵まれる。市町村合併で姫
路市の最高峰となった三江山登頂
のオマケが付いた。2日目はあい
にくの雨で縦走は取り止め、山頂
往復となった。

馬場から鷹橋

馬場から鷹橋
(北山ちよっと歩き83)
11月29日(日) 晴れ
(集合) JR馬場駅9・00→25→
宝泉寺9・50→みずき山10・45→
林道老ノ坂分岐11・50(集合)13・
15→赤掛山13・50→衣笠山15・15
→物集女街道山道15・30→阪急
上桂駅15・50(解散)
唐櫃越えの長い道のりを大勢で
歩いた。北には赤石山・北山の脈々
南は大岩山・ボンボン山などを眺
めた。洛西野鳥園の道も楽しく歩
けた。
(参加者) 宮西和子 小田潤子
大林 進 大林直子 橋本賢二郎
本家孝子 若林文夫 中村勝香
岩佐 修 松尾麗子 宮路ち(子
小林 桂 小林博子 本間繁子
和田純子 栗橋君子 渡部和美
志水明美 平塚明美 奥田則夫
岩城豊子 山根弘美 宮崎正
堀内智留 河内正治 原 みとえ
中川光昭 神野孝允 青木一雄
中尾博子 井上聡美 今村あやの
岡田里子 市野博文 佐々木幸子
加藤浩一 神野孝允 小谷和子
豊村雅子 塚本忠次 宮本真幸

小栗大直 杉本英一 野里マツ代

小栗大直 杉本英一 野里マツ代
須藤浩子 嶋山悦子 島田登志子
村井芳和 妹尾一正 大園加代子
児島孝子 和田直樹 中嶋日出男
林 弘毅 磯部 純 安良暢子
後藤純子 森 和久 白鳥忠子
兼田幸子 木山昌子 栗岡克子
岩村春子 武村千鶴 角田一江
○安谷 昭 ○岩本彩子
○谷 守 ○井上由紀晴
○石原君子 ◎泉山繁三(計20名)
富士見山行の
静岡・越前岳と白鳥山
(花遊り山行35)
12月1日(日) 2泊3日
◎田中 明
*バス定員に達しなかったため中
止しました。

湖北の山・三方ヶ岳

湖北の山・三方ヶ岳
12月2日(日) 晴れ
(集合) JR近江塩津駅10・00
(重) 赤根山登山口10・20→三角
点(宿掛)11・10→三方ヶ岳11・
45(集合)12・35→谷川合流点13・
10→林道終点13・25→登山口13・
45(解散)
登山口ではオドリコソウが狂い

荻原峠からミクネ・大杉電王

荻原峠からミクネ・大杉電王
(鈴鹿を歩く253)
12月3日(日) くもり
(集合) 風ヶ丘手前寺院広場8・25
(重) 落合8・40→汗ふき峠9・
20→榎坂峠10・00→ミクネ10・10
→P634.4.11.05→大杉電王11・
30(昼食)12・40→落合14・40
(解散)
汗ふき峠からは雪。尾根はずば

美濃・飯盛山から西津波

11月26日(日) ◎菅見守康

11月26日(日) ◎菅見守康

11月26日(日) ◎菅見守康

11月26日(日) ◎菅見守康

らしい自然林が続く、道は無いがどこでも歩ける。午後4時頃には明るく開けて最高。大杉電土での昼食は寒いので早々に谷に下りた。

- (参加者) 金谷 昭南 智恵子 服部 亮 白木良弘 白木やす子 種津謙治 大石特美 奥野太一郎 岩本彩子 友田 毅 友田美保子 永戸鉄治 鶴岡真吉 鶴岡美恵子 神野孝允 北村 稔 石田真由美 武村千鶴 吉岡 仁 加納由紀子 小林 修 一芝義雄 一芝美知子 大西信郎 池田繁美 網木美恵子 小松志信 櫻田勝利 ○後藤康幸 ○山田景三 ◎若野 明 (計22名)

忘年山行

鈴鹿・狗留山(展望の山25) 12月3日(日) くもり (集合) 三岐鉄道西野尻駅8・30 / JR関ヶ原駅8・35(車) 長楽寺9・10 / 20 / 林道上坂岩神社跡9・40 / 狗留山10・30 / 林道11・05 / 長楽寺11・25(車) 忘年会会場11・40(宴会忘年会) 15・00(解散)

(参加者) 吉村 昭 伊藤美恵子 春員重美 三井雄一 生蓮重美子 栗橋野子 朝倉依雄 北村つねみ 小林一男 山形 明 佐古田文子 西村文男 林 正義 武藤由美子 萩野暢子 竹内正義 横田とも子 鳥居信吾 高原秀彦 村田紀生 鈴木多子 佐治光江 佐治 登 馬場様子 吉田峰子 佐藤文枝 筒井亮治 久米孝子 成瀬みち子 安藤ユウ 菅岡正蔵 ◎山田明男 (計32名)

忘年山行・淡路・養場山

12月3日(日) 晴れ (集合) JR明石駅8・25 / 明石港9・00(船) 岩屋9・15 / 淡路島立公園10・15 / 展望台10・55 / 八景岩11・05 / 養場山11・50 (宴会) 12・30 / 養場山13・10 / 14・12(バス) 岩屋14・28(船) 明石港15・00(解散忘年会) ウバメガシの群生とイバラをかき分けてたどり着いたピークでは、明石海峡の大断崖に歓声。ルートファインディングも難しく、低山とはいえ侮れず、下りは花博の夢舞台へ。手入された花を楽しくんでから船に揺られて明石で忘年会。(参加者) 阪上義次 前田喜久子 馬籠重男 塩原香織 池田美恵子 前川 一 角田一江 砂原重美子 小池一郎 西 茂子 光川二英子 栗橋孝吉 河崎妙子 須藤浩子 山本武臣 山本台子 崎山悦子 首藤晋子 ○八木四郎 ○福岡 章 ◎古賀慶二 計21名

台高

山ノ神ノ頭から馬ノ鞍峰縦走 12月4日(明後) 5日(火) 前後発日帰り

4日(集合) 近鉄橋原駅21・15(車) 三ツ公川明神出合22・40(テント泊)

5日(晴れ) 明神出合8・40 / 山ノ神ノ頭10・35 / 水越11・30 (宴会) 12・25 / 馬ノ鞍峰14・00 / カクシ平15・00(明神滝見物) / 明神出合16・05(車) 橋原駅17・30(解散)

今年最後の泊まり山行ということで、明神出合更屋で大変会。翌日、東屋から山ノ神ノ頭へ急登。道はよく踏まれていて大変歩きやすい。中程にある山ノ神の鞍部付近からはすばらしいブナの巨木が目を楽しませてくれる。山ノ神ノ頭は暖い日だまり。ここからは急なアップダウンの続く台高主稜を

京都丹波・鬼ヶ城

12月6日(火) ◎木村太郎 リーダーの都合により中止しました。

忘年山行

湖西・阿弥陀山 12月10日(日) くもり (集合) JR京都駅9・00 / 阿弥陀山登山口11・00 / 阿弥陀山11・50 / 中腹の広場12・00(宴会忘年会) 13・40 / 登山口14・05(バス) 京都駅16・00頃(解散)

阿弥陀山の中腹でホタン綱をし

て、1年を楽しく締めくくった。

- (参加者) 村井寿和 三井雄一 布橋美香 岩本彩子 中川節子 内田康夫 宮本真幸 宮本悦子 沖 伸 金森節子 中澤典司博 栗橋孝吉 栗橋野子 武部美美子 山藤勝美 仲谷和司 野末あや子 若林文夫 金谷 昭 船本裕子 狩野東弥 小塚末吉 市井ユリエ 西居俊弥 岩城豊子 伊東ナナ子 磯部 純 岡崎知子 加納由紀子 夏山春子 木本志子 山高多恵子 小松志信 加藤元彦 ◎森敏直義 (計35名)

紀東・和泉葛城山から大石ヶ峰

12月15日(日) 晴れ (集合) 近鉄富田駅9・00 / 10(バス) 牛滝山バス停9・50 / お地蔵さん登山道 / 龍王崎 / 成徳所 11・45(宴会) 12・30 / 和泉葛城山 / 芝三角峰12・40 / 大石ヶ峰13・10 / 小堂峰13・35 / 道路記念碑登山口14・00(バス) 近鉄富田駅14・50(解散)

例年より気温も高く登りは少し汗ばむ陽気となった。山頂展望台で高野の山並を眺望し、紀東山地の縦走路をのんびり歩いた。(参加者) 竹田善英 有田由紀子

絞田二郎 志水明美 佐々木輝子 秋光哲也 馬籠重男 川保 勲 平田輝美 塚本忠次 小栗大直 竹田勝美 君塚節子 崎山悦子 岩村孝子 須藤浩子 久保田瑠子 板倉 栄 古山幸男 磯部 純 西村輝子 萩野暢子 山根弘美 岩本彩子 木山義勝 飯島 啓 阪口昌司 西原辰夫 細野欽也 ○木村 豊 ○前川和佳子 ◎西上利和 (計32名)

近世の中道

◎那智山から大雲取越 ◎小和瀬から小雲取越 (紀伊山地の参詣道を歩く1)

12月15日(明後) 17日(日) 前後発 / 泊2日 (15日) (集合) 近鉄上本町駅23・00(バス) (16日) 晴れ(バス) 大岡坂駐車場4・30(飯飯・朝食) 7・00 / 大門坂 / 那智大社 / 青岸院寺7・30 / 40 / 那智高滝公園8・10 / 20 / 舟見峠展望所9・50 / 10・00 / 八丁坂 / 色川江 / 地蔵茶屋11・30 (宴会) 12・20 / 越前峠13・10 / 閉切坂 / 楠の久保旅館跡14・15 / 四座石14・30 / 小口自然の家15・30(泊)

17日(くもりのち晴れ) 宿舎8・00(バス) 小和瀬渡し場8・10 / 桜葉屋跡9・10 / 30 / 桜峠 / 石堂茶屋跡10・20 / 百間ぐら10・50 / 松畑茶屋跡11・10(宴会) 12・00 / 清川下地橋バス停13・00 / (バス) わたるせ温泉13・20 / (入浴) 14・30(バス) 観渡駅18・40(解散)

早朝の清々しい大門坂。大池を見る那智大社。太平洋を望む舟見峠。神々が談笑した阿弥陀山。大展望の百間ぐら……と、飽きない見所の熊野古道。このコースは、太平洋側から峠をいくつも越えて本宮大社へ石畳の道が続いている。一般の古道歩き、皆大満足。山間の宿(小口自然の家)は、クリスマスツリーのイルミネーション点灯があり、大勢の人々が賑わっていた。(参加者) 中川節子 河原美代子 宮野哲郎 川田洋子 村田はる江 松村雅子 岩崎健司 中嶋日出男 沖 伸 多賀久子 伊東ナナ子 上田輝子 中川光郎 武部美美子 山藤勝美 有兼 登 大岡加代子 和田純子 渡藤 幸 野末あや子 高橋治治 岡崎知子 ○長比裕美 ◎村田智俊 (計24名)

忘年山行 美濃・南宮山(週末ハイイク78) 12月16日(日) 晴れのちくもり (集合) JR垂井駅10・00 / 南宮大社10・22 / 30 / 下山ルート分岐11・15 / 高山神社11・25 / 展望台4・04 / ピーク11・40 / 45 / 南宮山12・05 / 15 / 展望台12・40(宴会) 14・05 / 登山ルート分岐14・25 / 南宮大社14・55 / 15・00 / 垂井駅15・20 / 30(解散)

奥三河

本宮山と愛知奥民の森尾根縦走
(自然観察山行2226)
12月16日(日)17日(月) 泊2日
(16日)晴れ(集合) J R岐阜

三河富士の愛称をもつ本宮山を
歩き、4月に中止した愛知奥民の
森の南尾根と西尾根を縦走した。
(参加者)白鳥忠子 中澤興司博
栗橋崇高 栗橋輝子 武藤由美子
杉本 高 堀田輝子 森 美香子
山形 明 ○三井社一
◎鷺見守康 (計11名)

忘年山行
水無山(鈴鹿を歩く254)
12月17日(日) くもりのち晴れ

忘年山行
コメカイ道の落合から嵐山へ
(北山ちよっと歩き84)
12月20日(日) 晴れ
(集合) J R保津駅9・30〜50
1ツツジ尾根道・コメカイ道分岐
11・10〜15落合橋12・10〜1六丁
峠芝草道12・45(昼食)13・35〜
小倉山14・05嵐山嵐山公園14・
30(退任の集い)15・00(解散)
嵐山公園15・05(忘年会・打上
げ)17・35
ツツジ尾根を急登すると、目の
前に愛宕山、左側水尾、右に比叡
山・京都市街が見え、六丁峠・小
倉山見晴台からの眺めも美しかっ
た。嵐山公園での退任の集いでは、
多くの御支援・お言葉に感謝しま
す。
(参加者)宮西和子 小田潤子
崎山悦子 須藤浩子 富田博子
野村 深 井上登美 宮路ちへ子
加藤浩一 秦 康夫 中嶋日出男
萩野暢子 岸野正弘 砂原恵美子
宮本真幸 本間繁子 今村貞子
和田直樹 岩城敏子 中村啓香
岡田博子 湯浅次男 渡部和美
宮崎正止 小森茂子 野々山朋美
中村英雄 仲谷社司 大徳寛代子
森澤正博 中尾博子 原 みとえ

(集合) 国道477号織城王ダム
広場8・00(車)水無山道広場8・
40水無山9・40林道10・30
専用ロッジ11・00(昼食忘年会)
15・00(解散)
山は深い霧。林道終点から尾根
を登り約50分で水無山に着いたが
何も見えない。幻想的でホワイト
アウトのなか往路を専用ロッジに
下りた。豚汁・炭火焼・湯豆腐等
盛りだくさんの料理で楽しい盛大
な昼食忘年会となった。
(参加者)金谷 昭 光川一美子
服部 勇 白木良弘 白木やす子
三上伸夫 北村 稔 北村つねみ
岩本彩子 一芝義雄 一芝美知子
水戸鉄治 小松志信 友田美保子
武村千鶴 櫻田勝利 網本美恵子
馬場千鶴 磯田純 加納由紀子
福津謙治 大西節郎 石田真由美
小林 修 神野孝允 今井みよ子
谷 守 炭田明美 山田明男
◎後藤康幸 ○山田豊三 (計32名)
◎岩野 明 (計32名)

愛宕山シリーズ13
水尾岩ヶ谷からツツジ尾根
(火曜ハイキング27)
12月19日(日) 晴れ
(集合) J R保津駅9・00―取

忘年山行
12月20日(日) 晴れ
(集合) J R保津駅9・30〜50
1ツツジ尾根道・コメカイ道分岐
11・10〜15落合橋12・10〜1六丁
峠芝草道12・45(昼食)13・35〜
小倉山14・05嵐山嵐山公園14・
30(退任の集い)15・00(解散)
嵐山公園15・05(忘年会・打上
げ)17・35
ツツジ尾根を急登すると、目の
前に愛宕山、左側水尾、右に比叡
山・京都市街が見え、六丁峠・小
倉山見晴台からの眺めも美しかっ
た。嵐山公園での退任の集いでは、
多くの御支援・お言葉に感謝しま
す。
(参加者)宮西和子 小田潤子
崎山悦子 須藤浩子 富田博子
野村 深 井上登美 宮路ちへ子
加藤浩一 秦 康夫 中嶋日出男
萩野暢子 岸野正弘 砂原恵美子
宮本真幸 本間繁子 今村貞子
和田直樹 岩城敏子 中村啓香
岡田博子 湯浅次男 渡部和美
宮崎正止 小森茂子 野々山朋美
中村英雄 仲谷社司 大徳寛代子
森澤正博 中尾博子 原 みとえ

沖 伸 吉野栄子 中上紀代子
上田裕子 森 和久 松本中雄
上野保美 角江朝子 西 悦子
妹尾一正 塚本忠次 小島フジ子
後藤純子 田中順子 加納由紀子
平 幸子 友田 毅 友田美保子
栗岡寛子 角田 一 岩本やす子
鈴木卓子 清 紀嘉 狩野康彦
風見陽子 中嶋昌子 村井善和
兼田幸子 岩村春子 安良陽子
林 弘敏 武田元司 山田潤子
渡辺早月 伊丹朝子 山盛加寿子
竹田善英 上田正子 赤松しげみ
山縣勝美 若林文夫 波多野恵子
○金谷 昭 ○井上由紀晴
○磯部 純 ○岩本彩子
○本間 隆 ○中川光郎
○谷 守 ○石原君子 (計63名)
◎奥山繁三 (計63名)

北摂・明ヶ田尾山
(ファミリーハイキング99)
12月21日(日) ◎木村太郎
・リーダーの都合により中止しま
した。
焼杉山・養蚕山
(京都北山歩き116)
12月24日(日) 晴れ
(集合) 大原バスターミナル10・
付点10・10〜20(岩ヶ谷)―社
務所11・50〜12・05(電燈塔)12・
20(昼食)13・10―社務所13・15
1ツツジ尾根取付13・50―大倉山・
30〜40(中尾)―保津駅15・
50(解散)
今は荒れた道だが、生活の香り
の残る岩ヶ谷、谷底の川は斜面に
まで岩の多い所で、愛宕山系の中
では異色である。踏み跡をたどり、
小さな渡渉も楽しみながらの登高
を楽しむ。下りはツツジ尾根から
縦根を思わせる中尾根の道を歩い
て保津駅に時間通り到着。
(参加者)船越利明 小川富士雄
大林 進 小栗大直 佐々木幸子
木村 豊 秋光哲也 都築由美子
栗橋君子 塚本忠次 今村あやの
夏山登子 岩本彩子 南 ミヤ子
加藤元彦 本間 隆 野里マツ代
志水明美 和田直樹 友田美保子
川上久登 武村千鶴 船本裕巳子
渡部和美 櫻田純 加納由紀子
妹尾一正 松原康一 久保田裕子
波尾正 後藤純子 小松志信
青木一雄 後藤純子 小松志信
中川光郎 林 弘毅 中川節子
石原君子 山縣勝美 ○長尾一令
○村井善和 ○沖 伸 (計41名)
◎仲谷社司 (計41名)

高見山地
下津前谷左尾根から高見山
12月19日(日) 晴れ
(集合) 近鉄名張駅8・25(車)
平野(たかすき温泉)9・40〜10・
00 下津前谷左尾根取付―高見
山12・20(昼食)13・45―天狗山
14・40―大平谷林道15・50―平野
16・10(車)橋原駅17・35(解散)
下津前谷合出は県道工事中で、
大平谷へしばらく進んでから下津
前谷の林道へ入る。下流から三本
目の支流が左尾根の取付点。尾
根の上はマークなどは無いが、昔
の仕事道の痕跡が残る。800m以
上を過ぎたあたりからはシカ道の急
登が続く。四つん這いになりたい
斜面をいやというほど登れば、ブ
ナの明るい林になり、ポンと頂上
の展望台機に出た。高見北斜面は、
一面の霧水ですばらしかった。休
憩所を上観して豚汁パーティーの
後、北尾根、天狗山経由、天狗山
西尾根の仕事道のんびりとたど
り、大平谷林道へくだった。
(参加者)大村俊子 佐古田文字
鞍田二郎 堀原康彦 伊藤修久男
上田久子 小林 修 梶 真知子
高原芳彦 ○岡平くみ子 (計11名)
◎田中善治 (計11名)

10〜15―田代高瀬の郷12・30(昼
食)13・30―黄瀬15・00〜10―兼
香堂宮路15・20(大休憩)16・10
―兼香堂宮路16・25(解散)16・
56(電車)豊年川駅17・14
東谷自然歩道をそのまま行った。
人に出会ったのは大平谷でモチをも
らった夫婦連れだけで、年末の静
かな山間をぬつて歩いた。田代で
の昼食は1時間もとれ、兼香堂宮
跡でも車待ちに1時間30分以上
のコーヒータイム。ゆったりでき
た年末ロングだった。
(参加者)三井社一 西谷眞美子
有兼 登 後藤康幸 宮路ちへ子
近藤 恭 岡崎知子 福津謙治
加藤浩一 南 利恵 森 美香子
木内暢文 秦 康夫 萩野暢子
松本 博 北村 稔 小坂さゆり
武村千鶴 沖 伸 塚本忠次
伊丹朝子 小玉嘉彦 打越千恵子
北村 正 渡部和美 中澤ちす子
本間繁子 高橋裕治 小池一郎
平田和子 宮野哲郎 上田久子
狩野康彦 川田洋子 宮路恵子
小尾末吉 栗本秀雄 ○奥比呂美
◎村田智俊 (計39名)

(11・12月の参加 延902名)

歩き遍路の独り言

— あなたも歩ける四国遍路みち 1200キロ —

A5判・176頁 定価1200円(税込)

後藤 典重 著



私は「歩き遍路」を十八年五月に終えて、歩いた遍路旅の喜怒哀楽など数多い思い出を日記風にまとめました。歩かなければわからない四国の素晴らしさ、地元の人々との関わりを通じた体験・体得を多くの方々にお伝えできればと思い、出版しました。

四国には、人との会話、心のふれあいなど、今忘れられている心暖まる貴重な何かが残っており、豊かな心の旅になりました。

- 第1回 おへんろを知る歩行の苦惱旅 (第1～23番)
- 第2回 土佐人の心に触れた喜びの旅 (第24～36番)
- 第3回 猛暑を体験し、克服した努力の旅 (第37～40番)
- 第4回 紅葉を楽しみ、歩行行を見直す旅 (第41～59番)
- 第5回 早春に芽吹きを求めた触れ合い旅 (第60～83番)
- 第6回 新緑と花の美しい結願・感激の旅 (第84～88番と高野山)

その他、歩くための参考になる四国遍路の歴史・コースタイム(距離・時間・歩数等)・宿泊先一覧(住所・電話)など必要な資料を掲載。

「遍路とは」「お接待とは」何か?と疑問に思う方、また四国遍路に興味のある方、そして「歩き遍路」を実行したい方は、是非お読みください。

四国遍路を発心されるよう念願しています。

●振替でのご注文は送料当社負担
振替00130-9-146915

新ハイキング社

〒114-0023 東京都北区滝野川7-5-5 Tel/Fax 03-3915-8110

新ハイキングクラブ関西入会の案内

当会は雑誌「新ハイキング関西の山」(隔月刊・年6号発行)の定期購読者を中心としたハイキングの集いです。

この雑誌は紀行文やコースガイドなどで、関西のハイキングコースや山の情報を発信しています。山の知識を深め、健康な身体をつくり、自然のなかを歩く喜びをもに広めましょう。

「新ハイキングクラブ」は昭和25年発足以来、東京を中心に55年間余、好評のうちに活動しています。関西は平成3年秋発足で16年目に入りますが、すでに多数の会員で活動しています。

会員は当会の山行例会に優先して参加できます。この山行例会を通して楽しい山歩きを、多くの仲間たちと味わいませんか。

リーダー(8名)はすべて無償の奉仕で、各自で切符を買い茶代を払い、宿泊料もすべてワリカンです。

会員には「新ハイキング関西の山」を毎月お届けします。四季の自然に触れながら山を歩

き、若々しい心と健康をいつまでも持続するのは素晴らしいことです。これから始めてみたい人、すでにベテランの人もみなさんご入会いただけます。

入会費 5000円(ワッペン共)

年会費 3000円(送料共)

入会の申し込み(随時)はこの雑誌に挿入の振替用紙をご利用ください。氏名(ふりがな)及び第何号からの送本かを忘れずに記入ください。

なお、定期購読をご希望される方も会員になっていただけます。毎号確実にお手元に届きますので、便利です。

切手530円分をお送りになれば、「新ハイキング関西の山」最新号を1冊送ります。

○山行リーダー募集

山行リーダーは2ヶ月に1〜2回程度の山行例会を計画・実施していただきます。

無償の奉仕ですが、やりがいもあり、楽しいものです。経験のある方や、やってみたいと思われる方は、新ハイキング関西までご連絡ください。マニュアル「リーダー必携」をご参考に送ります。

○新入会員(定期購読者)紹介

新しいお仲間のみなさんです。会員番号5245番から5258番まで(敬称略)。

【神奈川】和氣玲子

【三重】池田 茂 横田とも子

【滋賀】山内玄次 若松能夫

【京都】増田佳代子 浅野則明

【奈良】今村克美

【大阪】市岡晴美 若松能夫

【兵庫】岡坂陽子 横田公一 田中伊勢男

高木文子

(14名)

訂正とお詫び

91号(晩秋)55ページ下段5行目「しちくれば」は「おにやう峰」が正しい。

92号(新春)13ページ下段2行目「大広渡開山」のルビ「おおひろ」は「おびろ」が正しい。

92号(新春)14ページ中段終わりに「北八」は「北ハ」が正しい。

92号(新春)73ページ中段7行目「上流(北方向)」は「上流(南方向)」が正しい。

92号(新春)74ページ中段「左

【西】は「左(東)」が正しい。

92号(新春)79ページ2段13行目「枚方市 東中 宏」は「東谷 宏」が正しい。

92号(新春)92・94ページの山行計画で「三重の山91」「三重の山92」は各「三重の山92」「三重の山93」が正しい。

(編集室)

書店でお求めになりたい方へ
前もって毎月ほしいと「購読予約」をされますと、どこの書店でもお買い求めいただけます。「関西の山」は偶数月の20日頃(隔月刊)の発売。